

問答叢書

新撰帝國歷史問答

普通學研究會編

汎告

從來諸學校其他ニ於テ受験諸士ニ課セラレタル諸種學科ノ問題ヲ蒐輯シ簡潔適實其宜シキヲ失ハサルヲ旨トシ以テ本篇全書ヲ出版セリ請フ試ニ緋閱シテ本堂上梓ノ優ニ特色眞價アルヲ知リタマハシコトヲ

發行書肆 長嶋文昌堂敬白

049603-000-8

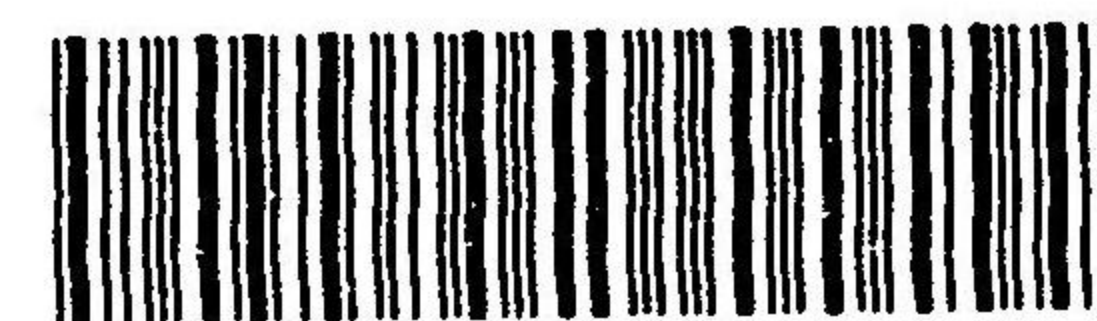
特61-226

帝國歷史問答（新撰）

普通學研究会／編

M34

BEM-0304



特 61
226

普通學研究會編

新撰帝國歷史問答

東京 長島文昌堂發兌



凡例三則

- 一、本書ハ各種學校ニ於テ實試シタル各學科ノ問題ヲ基本トシ加フルニ幾多ノ成書ヲ參酌シテ之ヲ裨補セリ
- 二、應試筆答ノ時限ハ何處ニテモ成規ノ時間アルヲ以テ本案ノ組織モマタ大ニ注意ヲ此點ニ加ヘタリ
- 三、本案ノ問題ハ他ノ同種ナル書冊ヨリモ其項多キハ主トシテ簡ニ失スルヨリモ實ニ適スルヲ尙ヒタルヲ以テ大概ノ事項ハ之ヲ網羅セリ

明治三十四年十月

編者識

新撰帝國歷史問答目次

第一編 總論

一頁

- (一) 大日本帝國ノ位置境界面積人口等ヲ畧叙セヨ (二) 我國體ノ卓絶スル所以ヲ述ベヨ
- (三) 我國古來政治ノ變遷ヲ概述セヨ

第二編 太古史

五頁

- (四) 造化ノ主神別天神及ヒ神世七代トハ如何 (五) 伊弉諾尊伊弉冊尊ノ御偉蹟ヲ述ベヨ
- (六) 天照大神ノ御靈德ノ一斑ヲ叙セヨ (七) 素戔嗚尊ノ遺烈ヲ述ベヨ (八) 大己貴命大國主命ノ功蹟如何 (九) 大國主命退隱シタル始末如何 (一〇) 三種ノ神器ヲ御由來如何
- (一一) 瓊々杵尊ノ御事蹟如何 (一二) 神代ニ於ケル風俗及ヒ開化ノ度如何

第三編 上古史

二〇頁

- (一三) 神武天皇ノ東征ヨリ御即位マデヲ畧記セヨ (一四) 神武天皇建國ノ制度如何
- (一五) 手研耳命ノ反ヲ記セヨ (一六) 我國チニ秋津州ト稱スル起源如何 (一七) 崇神天皇ノ御代ニ於ケル著名ナル事件ヲ列舉セヨ (一八) 四道將軍トハ如何 (一九) 外國人

入貢ノ始如何 (二〇) 鹽垂津彦ノ事蹟ヲ問フ (二一) 調役ノ方法ヲ問フ (二二) 崇神天皇ヲ御肇國天皇ト稱シ奉ル所以如何 (二三) 外國人歸化ノ始如何 (二四) 狹穗彦ノ反亂ノ始末如何 (二五) 相摸ノ權輿如何 (二六) 殉死禁制ノ次第如何 (二七) 垂仁天皇ノ敬神ノ御志深カリシヲ叙セヨ (二八) 景行天皇熊襲御征伐ノ次第ヲ記述セヨ (二九) 日本武尊熊襲御征伐如何 (三〇) 日本武尊ノ東夷御征伐ノ始末如何 (三一) 關東ヲ吞妻トイフ起源如何 (三二) 御諸別王ノ事蹟如何 (三三) 大臣ノ嚆矢如何 (三四) 仲哀天皇ノ熊襲御征伐ヲ記セヨ (三五) 神功皇后三韓御征伐ノ後ニ於ケルノ始末ヲ叙セヨ (三六) 神功皇后ノ御攝政ヲ記セヨ (三七) 磐坂忍熊二皇子ノ反ヲ記セヨ (三八) 武内宿禰ノ功勳ヲ叙セヨ (三九) 神功皇后三韓御征伐ノ後ニ於ケル彼我關係ヲ記述セヨ (四〇) 儒教渡來ノ始如何 (四一) 仁德天皇御即位ノ次第ヲ叙セヨ (四二) 仁德天皇御遷都ノ原因如何 (四三) 仁德天皇ノ仁德ヲ叙セヨ (四四) 史官ヲ置キシ始ヲ問フ (四五) 允恭天皇姓氏ヲ正サレシ次第如何 (四六) 姓氏ノ解釋ヲ問フ (四七) 氏族三別ノ制如何 (四八) 肩輪王反逆ノ顛末ヲ叙セヨ (四九) 大臣大連並置ノ嚆矢如何 (五〇) 雄略天皇ノ服制改革ノ次第ヲ叙セヨ (五一) 任那日本府ノ興廢ヲ述ベヨ (五二) 顯宗仁賢二帝御即位ノ次第ヲ叙セヨ (五三) 紀大磐ノ事蹟ヲ問フ (五四) 平群眞鳥伏誅ノ顛末如何 (五五) 繼體天皇ノ御系統及ヒ御即位ノ次第ヲ記述セヨ (五六) 大伴金村ノ事蹟ヲ問フ (五七) 磐井反亂ノ始末如何 (五八) 佛法渡來ノ次第ヲ叙セヨ (五九) 佛法ノ來歴ヲ問フ (六〇) 蘇我ノ馬子ノ大逆ヲ記セヨ (六一) 女帝ノ嚆矢ヲ問フ (六二) 佛教ノ技藝發達ニ及ボシ

タル影響如何 (六三) 始メテ曆ヲ頒チシ年代ヲ問フ (六四) 冠位及ヒ憲法制定ノ起原如何 (六五) 外國通信ノ始如何 (六六) 海外留學生ノ起源如何 (六七) 蘇我氏ノ專横ヲ記述セヨ (六八) 蘇我入鹿伏誅ノ始末ヲ述ベヨ (六九) 孝德天皇御即位ノ次第如何 (七〇) 太古ノ風俗ト上古ノ風俗トノ差異如何 (七一) 上古ノ服裝如何 (七二) 上古ノ頭髮ト如何 (七三) 上古ノ食物如何 (七四) 上古ノ家屋如何

第四編 中古史

(七五) 大化ノ革新トハ如何 (七六) 大化革新ノ主旨ヲ問フ (七七) 大化革新ノ大畧ヲ叙セヨ (七八) 始メテ年號ヲ立テシ年代ヲ問フ (七九) 大化革新ノ四綱新詔トハ如何 (八〇) 二官八省トハ如何 (八一) 大化革新以後鎌倉時代ニ至ル政權ノ所在ヲ問フ (八二) 改元ノ始ヲ問フ (八三) 阿倍比羅夫ノ東夷征伐ヲ叙セヨ (八四) 阿倍比羅夫渡韓ノ理由ヲ叙セヨ (八五) 天智天皇ノ御治政ヲ叙セヨ (八六) 藤原鎌足ノ功勳ヲ叙セヨ (八七) 壬申ノ亂ノ始末如何 (八八) 天武天皇ノ御治績如何 (八九) 大寶律令ノ制度トハ如何 (九〇) 養老ノ律令トハ如何 (九一) 大寶律令ノ官制如何 (九二) 大寶律令ノ律制如何 (九三) 大寶律令ノ田制及ヒ租法如何 (九四) 大寶律令ノ兵制如何 (九五) 大寶律令ノ學制如何 (九六) 大寶律令ノ戶籍法如何 (九七) 律令格式ノ別ヲ問フ (九八) 三代格式トハ如何 (九九) 奈良朝時代トハ何帝ノ御代ナルカ且其年代如何 (一〇〇) 錢貨鑄造ノ起源如何 (一〇一) 長屋王ノ寃ヲ記セヨ (一〇二) 聖武天皇崇佛ノ有様如何 (一〇三)

- 〇三)印刷術ノ起源如何 (一〇四)僧行基ノ功業ヲ叙セヨ (一〇五)藤原廣嗣亂ヲ起シ、始末如何 (一〇六)橘奈良麻呂廢立ヲ企テシ顛末如何 (一〇七)院政ノ權輿ヲ問フ (一〇八)藤原仲麻呂謀反ヲ起シ、顛末ヲ叙セヨ (一〇九)藤原良繼ノ企謀ノ顛末ヲ叙記セヨ (一一〇)道鏡ノ大逆ヲ記セヨ (一一一)和氣清麻呂ノ忠節ヲ述ベヨ (一一二)奈良朝時代ノ文藝發達ノ原因ヲ問フ (一一三)國史及ビ地誌ヲ撰修セシ始如何 (一一四)奈良朝時代ノ文學ノ有様ヲ畧述セヨ (一一五)奈良朝時代ノ美術工藝ノ進歩ヲ述ベヨ (一一六)桓武天皇ノ平安京都ノ次第ヲ叙セヨ (一一七)平安城ノ結構ノ概畧如何 (一一八)坂上田村麻呂ノ東陞鎮定ノ次第如何 (一一九)御謚號撰定ノ起源ヲ問フ (一二〇)藥子ノ亂トハ如何 (一二一)文屋綿麻呂及ビ藤原保則ノ功勳ヲ叙セヨ (一二二)藏人所設置ノ起源及ビ其職制ヲ問フ (一二三)檢非違使及ビ使廳設置ノ起源如何且其職制ヲ問フ (一二四)平安時代ニ於ケル佛教宗派及ビ其興亡ヲ畧叙セヨ (一二五)最澄空海ノ事蹟如何 (一二六)藤原氏ノ權勢ヲ得シ原因如何 (一二七)藤原冬嗣ノ事蹟ヲ問フ (一二八)承和ノ變トハ如何 (一二九)惟仁親王ノ冊立及ビ藤氏攝政ノ起源ヲ問フ (一三〇)藤原基經ノ廢立ヲ行ヒシメ及ビ關白ノ起源ヲ問フ (一三一)攝政關白ヲ說明シ且其由來ヲ述ベヨ (一三二)阿衡ノ爭トハ如何 (一三三)遣唐使廢止ノ次第ヲ問フ (一三四)菅原道真ノ謫流セラレシ次第ヲ叙セヨ (一三五)延喜ノ治トハ如何 (一三六)天慶ノ亂トハ如何 (一三七)天曆ノ治トハ如何 (一三八)安和ノ變トハ如何 (一三九)藤原兼通兼家トノ爭ヲ記セヨ (一四〇)華山天皇御遷位ノ次第如何 (一四一)藤原道長ノ驕

- 橫ヲ記セヨ (一四二)平安朝時代ノ文學ノ有様ヲ畧叙セヨ (一四三)平安京風俗腐敗ノ有様如何 (一四四)平安朝時代ノ工藝美術ノ有様如何 (一四五)武門武士勃興ノ起源ヲ述ベヨ (一四六)刀伊ノ入寇ヲ記セヨ (一四七)平忠常ノ反ヲ記セヨ (一四八)前九年ノ役ノ顛末如何 (一四九)後三年ノ役ノ顛末如何 (一五〇)後三條天皇ノ御治蹟如何 (一五一)莊園ヲ説明シ且其弊害ヲ述ベヨ (一五二)白河法皇ノ院政ヲ記セヨ (一五三)僧兵ノ起源及ビ其兇暴ノ一斑ヲ記セヨ (一五四)保元ノ亂トハ如何 (一五五)平治ノ亂トハ如何 (一五六)平氏ノ系統ヲ述ベ且其權ヲ得タル次第ヲ略叙セヨ (一五七)平氏ノ繁榮ヲ記セヨ (一五八)鹿ヶ谷評定ノ始末如何 (一五九)源賴政舉兵ノ顛末如何 (一六〇)源賴朝ノ舉兵ヨリ富士川ノ戰ニ至ルマテヲ畧記セヨ (一六一)源義仲ノ舉兵ヨリ入京マテヲ略記セヨ (一六二)源義仲ノ兇暴及ビ其敗死ノ次第ヲ述ベヨ (一六三)平氏滅亡ノ次第ヲ略叙セヨ
- 第五編 近古史** 九三頁
- (一六四)鎌倉幕府ノ創立ヲ述ベヨ (一六五)賴朝義經不和ノ始末如何 (一六六)賴朝諸國ニ守護地頭ヲ置キタル始末如何 (一六七)北條時政源賴家ヲ殺シタル次第ヲ畧述セヨ (一六八)時政北條ニ幽セラレタル次第如何 (一六九)大權北條氏ノ手ニ墜チシ次第ヲ畧叙セヨ (一七〇)鶴岡ノ變トハ如何 (一七一)源氏ノ系統ヲ畧記セヨ (一七二)承久ノ亂トハ如何 (一七三)兩六波羅創立ノ真相如何 (一七四)北條泰時ノ治蹟如何 (一七

- 五)北條時頼ノ治蹟如何 (一七六)文永ノ役トハ如何 (一七七)弘安ノ役トハ如何
- (一七八)大覺寺持明院兩院ノ起源ヲ問フ (一七九)兩統更立ノ議トハ如何 (一八〇)北條高時ノ失政ヲ擧ゲヨ (一八一)無禮講及ビ其結果如何 (一八二)元弘ノ亂トハ如何
- (一八三)北條氏滅亡ノ次第ヲ畧述セヨ (一八四)鎌倉時代ニ於ケル新佛敎派ノ勃興ヲ記述セヨ (一八五)鎌倉時代ニ於ケル學問ノ有様如何 (一八六)鎌倉時代ニ於ケル工藝美術ノ有様如何 (一八七)建武中興ノ大畧如何 (一八八)建武中興ノ業衰ヘシ原因如何
- (一八九)足利氏ノ好惡ヲ記述セヨ (一九〇)足利尊氏直義ノ九州ニ奔リシ次第如何
- (一九一)湊川ノ戰ヲ記セヨ (一九二)南北朝分立ノ次第ヲ問フ (一九三)南北朝分立ノ年間ヲ記シ且各皇位繼承ヲ圖示セヨ (一九四)金ヶ崎城ノ苦戰ヲ畧記セヨ (一九五)新田義貞ノ戰死ヲ記セヨ (一九六)北畠顯家ノ事蹟如何 (一九七)四條畷ノ戰ヲ記セヨ (一九八)北畠親房ノ事蹟如何 (一九九)足利幕府ノ成立及ビ其内訌ヲ記述セヨ
- (二〇〇)細川頼之ノ事蹟如何 (二〇一)南北兩朝合一ノ次第ヲ述ベヨ (二〇二)室町幕府ノ組織如何 (二〇三)足利氏ノ國體ヲ辱メシ二ノ例ヲ擧ゲヨ (二〇四)鎌倉管領ノ滅亡ヲ記セヨ (二〇五)嘉吉ノ變トハ如何 (二〇六)古河公方堀越公方トハ如何且其關係ヲ問フ (二〇七)室町幕府廢覆ノ起因ヲ問フ (二〇八)足利時代ノ德政トハ如何
- (二〇九)應仁ノ亂ノ原因如何 (二一〇)應仁ノ亂東西兩軍ノ與黨兵力ヲ列記セヨ
- (二一一)應仁ノ亂ノ結果如何 (二一二)足利末代ニ於ケル皇室式微ノ狀ヲ記述セヨ
- (二一三)足利氏滅亡ノ次第ヲ略叙セヨ (二一四)後北條氏ノ興亡ヲ畧記セヨ (二一五)

- 川中島ノ戰ノ原因如何 (二一六)川中島ノ戰ノ結果如何 (二一七)嚴島ノ戰トハ如何
- (二一八)一向宗一揆ノ始末如何 (二一九)初メテ歐人ノ渡來セシ年代如何 (二二〇)鐵砲傳來ノ年代及ビ其影響如何 (二二一)耶穌敎渡來ノ年代及ビ其傳播ノ有様如何
- (二二二)耶穌敎禁止ノ率先者ヲ問フ (二二三)室町幕府時代ニ於ケル文學ノ概況ヲ述ベヨ
- (二二四)室町幕府時代ニ於ケル美術工藝ノ著シキモノヲ擧ゲヨ (二二五)桶狹間ノ戰ヲ記セヨ (二二六)織田信長入京ノ始末ヲ述ベヨ (二二七)武田氏滅亡ノ次第如何 (二二八)本能寺ノ變トハ如何 (二二九)山崎ノ戰トハ如何 (二三〇)織田氏ノ勤王ヲ述ベヨ
- (二三一)豊臣秀吉ノ幼時ヨリ海内統一マテヲ略述セヨ (二三二)秀吉聚樂第ノ誓約トハ如何 (二三三)秀吉ノ五大老五奉行トハ如何 (二三四)文祿ノ檢地トハ如何 (二三五)秀吉第一回朝鮮征伐ノ顛末如何 (二三六)秀吉第二回朝鮮征伐ノ顛末如何 (二三七)關ヶ原戰ノ顛末如何

第六編 近世史

一三五頁

- (二三八)徳川家康ノ幼時ヨリ幕府ヲ開キシ迄ヲ畧述セヨ (二三九)方廣寺鐘銘事件ノ始末ヲ略述セヨ (二四〇)大坂冬陣トハ如何 (二四一)大坂夏陣トハ如何 (二四二)徳川氏ノ皇室及ビ公家ニ對スル政畧如何 (二四三)徳川幕府ノ諸侯ニ對スル政畧如何 (二四四)三家三卿トハ如何 (二四五)參勤交代ノ真相及ビ其起源如何 (二四六)家光諸侯ノ待遇ヲ改メシ事ヲ記セヨ (二四七)徳川幕府ノ組織如何 (二四八)寛永ノ三輔トハ如何

何 (二四九)鳥津家久ノ琉球征伐ノ顛末ヲ問フ (二五〇)徳川幕府時代ニ於ケル海外貿易勃興ノ有様如何 (二五一)世界一周ノ權輿如何 (二五二)山田長政木谷久右衛門濱田彌兵衛ノ名ヲナセシ所以ヲ問フ (二五三)徳川幕府ノ鎖國主義ヲ執リシ所以ヲ問フ (二五四)島原天草ノ亂ノ顛末如何 (二五五)宗門改及ビ陷繪トハ如何 (二五六)慶安ノ反亂トハ如何 (二五七)綱吉ノ弊政ヲ畧述セヨ (二五八)赤穂義士復讐ノ顛末如何 (二五九)新井白石ノ事蹟如何 (二六〇)徳川吉宗ノ中興ヲ畧叙セヨ (二六一)寛政ノ治トハ如何 (二六二)松平定信ノ事蹟如何 (二六三)尊王主義ノ起源ヲ叙セヨ (二六四)寛政ノ三偉人ノ事蹟如何 (二六五)家齊時代ニ於ケル邊要ノ警備如何 (二六六)大鹽平八郎ノ亂ヲ記セヨ (二六七)天保ノ改革トハ如何 (二六八)米國ノ使節ハるリ渡來ノ顛末如何 (二六九)吉田松陰佐久間象山ノ事蹟ヲ畧叙セヨ (二七〇)米國使節ハるリ渡來ノ始末如何 (二七一)安政ノ獄トハ如何 (二七二)櫻田ノ變トハ如何 (二七三)生麥事件トハ如何 (二七四)天誅黨トハ如何 (二七五)長州征伐ノ顛末如何 (二七六)兵庫開港ノ次第ヲ述ベヨ (二七七)幕府大政奉還ノ次第ヲ叙セヨ (二七八)徳川時代ニ於ケル儒學ノ有様如何 (二七九)徳川時代ニ於ケル國學復興ノ次第ヲ述ベヨ (二八〇)洋學傳來ノ次第如何 (二八一)徳川時代ニ於ケル戯曲小説俳諧狂句ノ泰斗ヲ畧叙セヨ (二八二)徳川時代ニ於ケル大著述ヲ畧叙セヨ (二八三)徳川幕府時代ノ風俗ノ一斑ヲ畧叙セヨ

第七編 今代史

(二八四)徳川幕府轉覆ノ大原因ヲ畧叙セヨ (二八五)王政維新トハ如何 (二八六)鳥羽伏見ノ戰ノ始末ヲ問フ (二八七)戊辰ノ役ノ始末如何 (二八八)函館戰爭トハ如何 (二八九)五事ノ御誓文トハ如何 (二九〇)東京奠都ノ次第如何 (二九一)廢藩奉還ノ次第如何 (二九二)廢藩置縣ノ次第如何 (二九三)太陽曆採用ノ年代ヲ問フ (二九四)征韓論ノ起源如何 (二九五)佐賀艦本及ビ萩ノ騷亂トハ如何 (二九六)台灣征伐ノ顛末如何 (二九七)樺太千島交換ノ始末如何 (二九八)朝鮮江華灣事件ヲ述ベヨ (二九九)西南ノ役ノ顛末如何 (三〇〇)琉球ノ廢藩置縣ノ顛末如何 (三〇一)國會開設ノ大詔發布ニ至リタル次第ヲ述ベヨ (三〇二)政黨ノ嚆矢ヲ述ベヨ (三〇三)明治十五年ノ朝鮮ノ變トハ如何 (三〇四)天津條約締結ノ始末ヲ問フ (三〇五)明治十八年官制大改革ノ大要ヲ叙セヨ (三〇六)憲法發布ノ大典執行ノ次第ヲ叙セヨ (三〇七)憲法ノ大綱如何 (三〇八)嘉仁親王儲嗣ニ立チ給ヒシ年月如何 (三〇九)帝國議會開會ヲ叙セヨ (三一〇)日清戰爭ノ發端ヨリ宣戰大詔公布ニ至ルマデヲ記述セヨ (三一)日清兩軍ノ戰記ノ概略ヲ畧叙セヨ (三一)日清戰爭ノ終結如何 (三一)臺灣鎮定ノ次第ヲ叙セヨ

新撰帝國歷史問答目次終

新撰帝國歷史問答

第一編 總論

(一) 大日本帝國ノ位置境界面積人口等ヲ略叙セヨ

大日本帝國ハ東半球ノ北部ナル亞細亞洲ノ東邊北太平洋中ニ羅列スル島

國ニシテ北緯二十一度五十二分(臺灣南端)ヨリ五十度五十六分(千島國あら

至リ東經百十九度十九分(澎湖群島中)ヨリ百五十六度三十二分(千島國占

至リ全國ノ長サ凡ソ一千二百里ニ亘リ土地全ク溫帶ニ位スルヲ以テ氣候

順快頗ル人體ニ適セリ東ハ太平洋ニ面シ萬里一碧遙ニ米國ニ向ヒ北ハ宗

谷海峡ヲ隔テ、露領樺太島ニ接シ千島ノ久留里海峡ヲ隔テ、かむさつか

半島ニ臨ム西北ハ日本海ヲ擁シテ朝鮮滿州ト相對シ西南ハ支那海ヲ狹シ

テ支那本部ニ面ス臺灣我邦ニ加ハリシヨリ版圖熱帶ノ一部ニ達シ臺灣海

峽僅ニ百里ヲ隔テ、支那ノ福建省ト相望ム全國ハ北海道本土四國九州及

ビ臺灣ノ五大島ト無慮二千有餘ノ小島トヨリ成リ全面積二萬七千六十二方里人口四千四百三十一萬二千四百二十九人(明治二十八年(内務省調査))全國ハ細長クシテ幅三十餘里ヨリ百二十餘里山脈骨髓トナリテ域内ニ連亘シ無數ノ河川之ヨリ發シテ東西ニ奔流ス海岸ハ屈曲出入ニ富ムヲ以テ良港好灣多ク運輸ノ便缺クル所ナク地味豊壤ニシテ百穀成熟セザルハナシ剩ヘ到ル處山水明媚風景絶佳東洋ノ樂土ト稱スル實ニ過言ニアラザルナリ

(二)我國體ノ卓絶スル所以ヲ述ベヨ

熟々坤輿上ノ歴史ニ徴スルニ帝統交々變更シ起ルモノ帝ト稱シ仆ル、モノ賊ト呼バレ弱肉強食互ニ相吞噬シ萬乘至尊ノ身ニシテ空シク斷頭臺上一片ノ露ト消エ或ハ后妃ノ最貴ヲ以テ暗黒牢ニ投ゼラル、如キ殘暴悲惨實ニイフニ堪エザルモノアリ獨リ我ガ帝國ハ神武天皇國ヲ建テタマヒシヨリ茲ニ二千五百六十一年(明治三十四年)歴世ノ皇室民ヲ仁愛シ給フコト赤子ノ如ク臣民モマタ皇室ヲ仰キ奉ルコト父母ノ如ク代々忠誠ヲ盡シ上下厥美ヲ濟セザルハナク皇統連綿トシテ天壤ト共ニ窮マリナシ中世以來將軍ナルモノ天子ニ代リテ政ヲ預リ奉リシト雖モ今上天皇ニ至リ大政マタ朝廷

ニ復シ大ニ學藝ヲ勵マシ民智ヲ進メ給ヒ剩ヘ帝國議會ヲ開キテ大政ニ參與セシメ給フニ至レリ

嘗テニタビ三韓ヲ征シ琉球ヲ降シ元兵ヲ慶ニス國人中マタ一私人ヲ以テ南清ノ海岸ニ出沒シテ四百餘州ヲ震動セルアリ或ハ暹羅國王ヲ扶ケテ俠名ヲ天下ニ轟カスモアリ今ヤ又帝國ノ版圖新ニ南方ニ開ケテ國勢益々盛ナリ而シテ未ダ曾テ外國ノ侵掠ヲ受ゲシコト夢想ダニ之ナシ當時露西亞英國及ビ獨逸等世界強國ト誇稱スルモ皆一タビ外國ノ爲メニ征服セラレズトイフモノナシ乃チ知ル我カ帝國ハ實ニ是レ世界唯一金匱無缺ノ神國ナルコトヲ

(三)我ガ國古來政治ノ變遷ヲ概述セヨ

我ガ日本帝國ハ萬世一系ノ皇帝ノ統治シ給フ所ニシテ未タ曾テ帝統ノ變更ヲ見ズ之レ乃チ我國體ノ神聖無比超然トシテ萬國ニ秀絶スル所以ナリ國家ノ主權モ亦常ニ天皇ニ在リテ終古變ルコトナキモ世運ハ時ニヨリ一盛一衰アリ故ニ政治ノ出ヅル或ハ院中ニ出デシコトアリ或ハ外戚ノ手ニ在リシコトアリ或ハ武家ノ手ニ歸セシコトアリテ其轉移蓋シ一ナラズ今

其大要ヲ畧叙センニ神武天皇ヨリ武烈天皇マデ凡ソ二十五代一千百六十六年ノ間ハ政令天皇ヨリ出デシガ繼體天皇ヨリ皇極天皇マデ凡ソ十代一百三十八年ノ間ハ大臣大連政ヲ專ニス其後孝德天皇ヨリ仁明天皇マテ凡ソ十九代二百六年ノ間ハ政又天皇ニ復ス文德天皇ヨリ後冷泉天皇マデ凡ソ十六代二百十八年ノ間ハ外戚藤原氏政權ヲ擅ニス後三條白河ノ兩帝之ヲ藤原氏ヨリ復シ堀河天皇ヨリ安徳天皇マデ凡ソ九代九十七年ノ間ハ上皇院宣ヲ以テ天下ニ令ス後鳥羽天皇ヨリ仲恭天皇マデ四代凡ソ三十年ノ間ハ鎌倉將軍天下兵馬ノ權ヲ執ル後堀河天皇ヨリ花園天皇マデ凡ソ十代九十六年ノ間北條氏陪臣ヲ以テ國命ヲ執ル後醍醐天皇ノ時南北兩朝ニ分カレ南朝ハ後村上長慶後龜山ノ四代北朝ハ光嚴光明崇光後光嚴後圓融ノ五代凡ソ七十一年兩統分立時代ニシテ政令兩出ス後小松天皇ヨリ後奈良天皇マデ凡ソ六代一百六十五年ノ間ハ足利將軍政ヲ執ル正親町後陽成兩帝五十四年ノ間ハ織田豊臣ノ二氏攝關大臣ノ職ニテ政權ヲ執ル後水尾天皇ヨリ孝明天皇マデ凡ソ十四代二百五十五年ノ間徳川將軍政ヲ執ル而シテ今上天皇ノ慶應三年十月征夷大將軍徳川慶喜大政ヲ奉還スルニ及ビ王

政神武天皇ノ古ニ復ス之ヲ明治維新トイフ尋デ諸侯ヲ廢シテ郡縣ノ制ヲ布キ明治二十三年以後ハ君主專制ノ政體ヲ改メテ立憲政治ノ制ヲ創メ給フ是レ我國古來政變ノ大略ナリ

第二編 大古史

天御中主神ヨリ鷓鴣草葺不合尊マテ其間年代詳ナラズ

(四) 造化ノ主神別天神及ビ神世七代トハ如何

鴻荒ノ事東西同然得テ知ルベカラズ我國神代ノ傳説ニ國史ハ天之御中主神ニ始マルトイフ是レ乃チ天地初發ノ神ナリ次ニ高皇產靈神神皇產靈神アリ此三神ヲ造化ノ主神トイフ次ニ可美葦芽彥舅神天之常立神アリ此五神ヲ別天神トイフ此後國常立尊次ニ豐雲野尊アリ天之御中主神ヨリ此マデ皆特生ノ神ナリ次ニ宇比地邇尊須比智邇尊次ニ角材尊活材尊次ニ大戸道尊大苦邊尊次ニ面足尊吾屋惶根尊次ニ伊弉諾尊伊弉册尊アリ此十神ハ皆耦生ノ神ニシテ一方ハ男性一方ハ女性ニ在セバナリ國常立尊ヨリ此マデヲ神世七代トイフ

(五) 伊弉諾尊伊弉册尊ノ御偉蹟ヲ述ベヨ

●我國ヲ大八洲トイフ所以如何

神世七代ノ中ニモ諸冊兩神殊ニ靈德アリ天神ノ命ヲ受ケテ淡路四國九州一岐對馬隱岐佐渡並ニ本州ノ八島ヲ開キ給ヘリ故ニ我が國ヲ大八洲トモ稱セリ二神御子多クオハセシガ首ヲ大日靈貫トイヒ特ニ靈德ヲ備ヘ給フ天照大神之ナリ次ヲ月夜見尊次ヲ素盞鳴尊トイフ二神乃チ天照大神ヲシテ高天原ヲ治メシメ月夜見尊ニハ夜食國ヲ治メシメ素盞鳴尊ニハ天下ヲ治メシメ給ヘリ

(六)天照大神ノ御靈德ノ一班ヲ叙セヨ

天照大神ハ女性ニ在マシ明德光華六合ヲ照徹ス故ニ此御名アリ大神既ニ伊弉諾伊弉冉ノ御命ヲ受ケ給ヒテ高天原ヲ御シ大ニ生民ノ道ニ御心ヲ盡シ五穀ヲ得テ耕植ノ道ヲ教ヘ蠶ヲ得テ紵織ノ業ヲ勸メ又齋殿ヲ建テ、以テ祖宗ノ天神ヲ祭セラル然ルニ素盞鳴尊御性勇悍ニシテ父ノ命ニ從ヒ給ハズ又高天原ニ上リテハ天照大神ニ對シテ無禮ノ舉動アリシカバ太神乃チ大磐戸ヲ鎖シテ隱レ給フ此ニ於テ天上ニ主ナク六合暗黒萬妖悉ク起ル高皇產靈神群神ヲ天安河原ニ會シ其子思兼神ヲ首トシ招禱ノ方ヲ議セシメ石凝姥命ヲシテ八咫鏡ヲ造ラシメ玉祖命ヲシテ八咫瓊曲玉ヲ造ラシメ天

日鷲命ヲシテ和幣ヲ造ラシテ天兒屋根命太玉命天香山ノ眞賢木ヲ拔キテ玉鏡及ビ幣ヲ挂ケテ以テ禱請ス天鈿女命歌ヒ且ツ舞フ大神ヤヤ、解ケテ微ニ磐戸ヲ開ク天手力雄命乃チ戸ヲ開キ大神ヲ出シ奉ル此ニ於テ天地復々清明萬妖忽チ其後ヲ絶ツ其御靈德ノ一班以テ知ル可シ

(七)素盞鳴尊ノ遺烈ヲ述ベヨ ●叢雲劍ノ由來ヲ問フ

素盞鳴尊ハ曩キニ天照大神ニ對シテ無禮ノ舉動アリシカバ群臣會議シテ之ヲ逐フ尊乃チ誓フテ曰ク「余ハ今根國ニ歸ラン姉尊ハ平安ニ天國ヲ照臨セヨ吾ガ子孫永ク姉尊ニ臣從セン」ト其子五十猛神ヲ牽キテ新羅ニ至リ其地ニ金銀多キヲ以テ先ツ舟楫ノ利ヲ盛ニセントシ杉檜披等ノ木種ヲ多ク持チ還リテ之ヲ播殖セシム其後出雲國簸川上ニ到リテ八岐大蛇(凶名)ヲ斬リテ神劍ヲ獲テ大神ニ獻ス之ヲ叢雲劍トイフ

(八)大己貴命大國主命ノ功蹟如何 ●惠比壽大黒天トハ誰ゾヤ

大己貴命(惠比壽)ハ素盞鳴尊ノ御子ニシテ最モ武畧ニ富ミ高皇產靈神ノ御子少彥名命ト力ヲ併セテ國土ヲ平定シ醫藥禁厭ノ方ヲモ教ユ其威力山陰北陸ヨリ信濃邊マデニ及ビケレバ大國主命ト(大黒天)稱セラレタリ

(九) 大國主命退隱シタル始末如何

● 出雲大社ノ起源如何

高天原ニ於テ天照大神素盞鳴尊ノ御子天忍穗耳命ヲ養ヒテ己ガ子トナシ之ヲシテ大八洲國ヲ知ラシメント欲ス即チ建御雷命ヲ遣ハシテ先ツ命ヲ大國主命ニ傳ヘシム大國主命乃チ詔ヲ奉ジテ其子事代主命等ト相議リ悉ク國土ヲ奉獻シテ出雲ニ退隱ス且ツ曰ク「我ガ子ヲシテ永ク天神ノ裔ヲ補翼セシメン」ト大神爲メニ宏壯ナル宮殿ヲ建テ、命ヲシテ之ニ居ラシメテ優遇ス彼ノ杵築社ニテ今ノ出雲大社是ナリ

(一〇) 三種ノ神器御由來如何

建御雷命既ニ大國主命ヲ説キ其後處々國中ヲ巡視シテ高天原ニ復命ス是ニ於テ天照大神即チ天忍穗耳命ノ請ヲ許シテ其子瓊々杵尊ヲ大八洲國ノ主セントシ玉ヒシ時八尺瓊曲玉八咫鏡及ビ叢雲劍ノ三種ノ神寶ヲ賜フテ宣ハク「豊葦原ノ瑞穗國ハ朕ガ子孫ノ王タルベキ地ナリ汝往テ之ヲ治メヨ寶祚ノ隆シナランコト天壤ト共ニ窮リナカルベシ此鏡ヲ見ルコト猶ホ我レヲ見ルガ如クセヨ」ト是ヨリ三種ノ神器ト稱シテ皇位ノ御璽トナシ歷世天皇是ヲ授受シ給ヘリ

(一一) 瓊々杵尊ノ御事蹟如何

瓊々杵尊ハ天照大神ヨリ三種ノ神器ヲ受ケ給ヒテ後乃チ天兒屋根命太玉命以下諸神ヲ從ヘテ日向ノ高千穗ニ下ラセ給フ天忍穗耳命天津久木等ハ戎裝シテ物部ヲ率キテ警衛ス國神猿田彥神途中ニ奉迎シテ先導タリ尊是ニ於テ國神ノ女木花開耶姬ヲ娶リテ彥火火出見尊ヲ生ミ彥火火出見尊ハ海神ノ女豊玉姬ヲ娶リテ鷓鴣草葺不合尊ヲ生ミ給ヘリ以上ヲ神代トイフ

(一二) 神代ニ於ケル風俗及ビ開化ノ度如何

神代ノ事ハ邈焉トシテ之ヲ詳ニスルコト能ハズト雖モ古史ノ傳フル所ヲ見ルニ當時高天原ニ於テハ耕織ノ道モ開ケ陶冶ノ術モ行ハレタリ故ニ衣服ハ筒袖股引ニ類スルモノアリテ頭ニ櫛鬘ヲ戴キ手足ニ勾玉管玉等ヲ纏ヒタリ又當時既ニ網罟ヲ結ビテ魚ヲ獲リ田畝ヲ耕シ穀物ヲ收メテ食物トナス住居ハ岩窟土窖ニ住ミシモノト木造ノ家屋ニ住ミシ者トアリシト雖モ其家ハ今日ノ如キ者ニアラズ柱ハ地ニ埋メ梁ハ藤葛ニテ結ビ家根ハ茅茸ニシテ風ヲ防カン爲千木ヲ置ク今ノ伊勢大廟ノ如キハ乃チ其古式ニ倣

フテ構造セシモノナリ舟車ノ具モ亦備ハリ兵器ハ弓矢劍矛等アリテ鋼鐵
 或ハ石ニテ作レリ其他日用ノ器ニハ甕、平瓮、手扶葉盤、鉏、斧等ノ類アリ
 キ婚姻葬祭ノ儀式モ稍々定マリ居レリ又頗ル敬神ノ風盛ニシテ祭式モ備
 ハリタリ當時禍福ハ偏ニ神ノ意ナリト思ヒシカバ病疫アレバ禁厭シ罪穢
 アレバ穢禊ヲ行ヒ疑ハシキコトハ太占ヲ以テ決シ悲喜哀怨ノ情感極マレ
 バ歌詠ニヨリテ其思ヲ陳ブ

第三編 上古史

神武天皇御創業ヨリ皇極天皇ノ三年
 マテ凡一千二百四十年間

(一三)神武天皇ノ東征ヨリ御即位マデヲ略記セヨ

第一代神武天皇ハ鷓鴣草葺不合尊ノ第四子ニシテ天照大神五世ノ孫ナリ
 天資聰明勇武ニ渡ラセ給ヒ實ニ不世出ノ英主ニ在マセシナリ其曾祖瓊々
 杵尊ノ時代ヨリ居ヲ日向ニ定メラレシガ故ニ九州地方ハ概シテ服從セ
 シカド東方遼遠ノ地ハ未ダ王澤ニ沾ハズ酋長各々部落ヲナシテ殺伐鬪爭
 ヲ事トセリ天皇之ヲ討平シテ天下ヲ統一シ大ニ皇基ヲ開創セントノ御志
 深ク嘗テ皇兄五瀨命等ト相議リテ宣ハク「豊葦原ノ瑞穗國ハ朕ガ祖先ノ

天神ヨリ受ケ給ヘル土地ナリ然ルニ今ヤ東方ノ各地ニハ酋長割據シテ互
 ニ侵略ヲ事トスト豈ニ都ヲ東方ニ遷シテ天業ヲ弘メザルベケンヤト即
 チ皇族ヲ率キ日向ノ高千穂ノ宮ヲ出デ給フ時ニ御年四十五天皇先ツ豊前
 ノ速吸門ニ至リ珍彥ヲ得テ嚮導トナシ安藝ニ航シ竟ニ吉備國(今ノ三備)ニ至
 リ即チ舟楫ヲ備ヘ兵食ヲ蓄ヘ高島ノ宮ニ駐マリ上國ノ動靜ヲ視フト三年
 遂ニ舟師ヲ率キ東シテ難波津ニ至リ河内ヲ經テ龍田ニ赴カセ給フ路險ニ
 シテ狭ク進行頗ル難シ即チ轉ジテ東方膽駒山ヲ越テ大和ニ入ラントス時
 ニ大和ニハ鳥見ノ酋長長髓彥トイフ者アリ天神ノ裔ナル饒速日命ノ子可
 美真手命ヲ奉ジテ主トナシ其勢近傍ニ振ヘリ今ヤ皇軍到ルト聞キ之ヲ孔
 舍衛坂ニ迎ヘ戰フ皇軍利アラズ皇兄五瀨命流矢ニ中リテ薨ズ天皇乃チ退
 イテ弱ヲ示シ轉ジテ紀伊ニ入り先ツ名草戸畔ヲ斬リ狹野ヲ經テ熊野ニ抵
 リ海ヲ渡リテ進マントス偶々暴風アリ舟漂盪シテ甚ダ危シ皇兄稻飯命ニ
 毛入野命憤恚シテ自ラ海中ニ投ズ天皇即チ庶皇子手研耳命ト共ニ荒坂津
 ニ至リ丹敷戸畔ヲ誅ス是ヨリ進ンデ大和ニ入ラントス山峯重疊荆棘路ヲ
 没シテ進ムベキナシ道臣命大來目命先驅シテ荆ヲ刈リ道ヲ通ジ遂ニ菟田

ニ達ス是ニ於テ此地ノ酋長エウカシ只狛ヲ誅シ更ニ進ンデ國見山ノ酋長ヤソタケル八十梟帥及ビ盤余邑ノ酋長兄磯城ヲ斬リ竟ニ進ンテ長髓彦ヲ討ツ饒速日命皇軍到ル處戰捷アリ民皆歸服スルヲ見テ出デ、降リヲ請ハントス長髓彦尙狼戾頑迷ニシテ降服セザリシカバ命乃チ之ヲ殺シテ歸順セリカグテ他ノ酋長土蜘蛛等ノ諸賊ヲ誅シテ大和近傍全ク平ギヌ既ニシテ天皇都ヲ大和國畝傍山ノ東南橿原ノ地ヲ奠メ國家ノ鎮護ヲ神ニ祈リ三種ノ神器ヲ正殿ニ安置シ極メテ莊嚴ニ御即位ノ式ヲ行ヒ給フ我ガ帝國ノ基礎茲ニ定マリヌ是ノ歲ヲ紀元元年トス今明治三十四年ヲ去ルコト二千五百六十一年ニシテ紀元節ハ乃チ此日ヲ祝スルナリ

(一四)神武天皇建國ノ制度如何 中臣、齋部、大伴、久米、物部氏ノ先祖ヲ問フ神武天皇既ニ中州ヲ平定シ帝位ニ即キ給ヒテ諸功臣ヲ賞シ職ヲ分タレケリ乃チ天種子命(中臣氏)天富命(齋部氏)ハ祭祀ヲ掌リ兼テ朝政ヲ補佐セシムコレ此時祭政一致ナリシヲ以テナリ道臣命(大伴氏)大久米命(久米氏)ハ武功多キヲ以テ宮門ノ護衛其他一切兵事ヲ掌ラシメ可美真手命(物部氏)ハ殿内ノ宿衛ヲ掌レリ又地方長官ニハ椎根津彦ヲ倭ノ國造トシ弟狛ヲ猛田縣

主トナシ弟磯城ヲ磯城ノ縣主トシ劔根ヲ葛城ノ國造トナシ一地方ノ政務ヲ委ヌ其外各種ノ職業ヲ以テ仕フル者ヲ品部トイヒ其一部ノ長ヲ伴造トイヘリ臣連オヒラシシカヒカヒト直首等ノ名アリ其勢力各互ニ差アリキ此等ハ凡テ所謂封建制度ニ類ス之レ其大畧ナリ

(一五)手研耳命ノ反ヲ記セヨ 神武天皇崩シ給ヒテ後庶子手研耳命潜ニ不軌ヲ計リシカバ皇太子神渟名川耳尊(綏靖天皇)同母兄神八井耳命ト謀リテ射ラ之ヲ射殺ス命大ニ其勇武ヲ稱セリ

(一六)我國ヲ一ニ秋津洲ト稱スル起源如何 神武天皇曾テ巡遊シテ大和ノ腋上ノ曠間丘ニ登リ遠ク地勢ヲ御覽シテ宜クク「美ナルカナ我ガ國形チ蜻蜒ノ如シ」ト蜻蜒ノ國音秋津トイフ是ヨリ始メテ秋津洲ノ名アリ後世蜻蜒洲トイフモ其意同シ

(一七)崇神天皇ノ御代ニ於ケル著名ナル事件ヲ列舉セヨ 崇神天皇神器ノ處分如何此御代ノ有名ナル出來事ハ大畧五ツアリ(一)御即位ノ始メニ惡疫流行シテ死者多ク百姓困窮離散スルヲ以テ天皇大ニ之ヲ憂ヒ即チ敬神ノ典ヲ舉

テ天神地祇ノ社ヲタテ神地神戸ヲ定メテ供神ノ用度ヲ豊カニス(二)天皇三種ノ神器ト其起居ヲ共ニスレバ或ハ神威ヲ瀆サンコトヲ恐レ給ヒテ大和ノ笠縫邑ニ遷シ神籬ヲ建テ、之ヲ安置シ別ニ護身ノ爲其模器ヲ造リ御身邊ニ置カル(三)不逞ノ徒ヲ鎮メ國家ノ安撫ヲ計ル爲始メテ將軍職ヲ置ク(四)外人始メテ入貢シ外交此ニ開ケリ(五)始メテ調役ヲ課ス

(一八)四道將軍トハ如何

●將軍職ノ起源

崇神天皇ノ御代ノ始メ疫病流行セシニ天皇ノ敬神ノ典ヲ擧ゲラレシヨリ後漸ク止ミ民稍々安堵セシカド僻遠ノ地猶未ダ皇化ニ浴セズ屢々不穩ノコトアリケレバ即位ノ十年(三七)四人ノ將軍ヲ置ク乃チ大彥命ヲ北陸ニ武渟川別ヲ東海ニ吉備津彥ヲ西海ニ丹波道主ヲ丹波ニ遣ハシ命ニ抗スル者ハ兵ヲ以テ討タシメ大ニ皇化ヲ四方ニ布カシメ給ヘリ

(一九)外國人入貢ノ始如何(二〇)鹽垂津彥ノ事蹟ヲ問フ

崇神天皇ノ四十五年(六二)任那(朝鮮ノ西南部)始メテ入貢ス其使者蘇那曷叱智越前國筥飯浦ニ至ル既ニシテ朝廷ニ上奏シテ曰ク「外臣ガ國ノ東北ニ巴汝ノ一地アリ地方三百里人口亦多シ新羅屢々來攻メ爭戰絶エズ冀クハ良將

軍ヲ得テ之ヲ鎮ゼン」ト天皇之ヲ許シ鹽垂津彥ヲ遣ハシ之ヲ鎮撫セシム

(二一)調役ノ方法ヲ問フ●弓弭ノ調手末ノ調トハ如何

崇神天皇ノ御代ニハ土地モ漸次開ケ人民モ富ミシカバ始メテ人口ヲ調べテ男ニハ弓弭(ユズ)ノ調(ミツギ)女ニハ手末(テマ)ノ調(ミツギ)課ス弓弭ノ調トハ獸皮肉ニシテ手末ノ調トハ絹布ノ類ナリキ

(二二)崇神天皇ヲ御肇國天皇ト稱シ奉ル所以如何

崇神天皇御心ヲ民事ニ用ヒ農事ヲ勸メ神祇ヲ崇奉シ仁恤ヲ施シ又池溝ヲ開キ船舶ヲ造ラノテ運輸ノ便ヲ開キ給フ豊年相續キテ人民益々富ミ榮ユ海内無事ナリシガ民皆尊稱シテ御肇國天皇トイフ

(二三)外國人歸化ノ始如何●秦人徐福來朝ノ次第ヲ問フ

垂仁天皇ノ朝ニ新羅ノ王子天日槍(アマノヒボコ)トイフ者歸化シ寶玉鏡劔等ヲ獻ズ天皇因テ邑ヲ但馬ニ賜ヒ之ニ居ラシムト又一説ニ是ヨリ先孝靈天皇ノ朝ニ秦人徐福秦始皇帝ノ命ヲ受ケテ不老不死ノ藥ヲ求メントテ我カ國ニ來リ遂ニ紀伊熊野ニ止マリ歸ラズトイフ蓋シ徐福ハ始皇帝ノ暴威無道ヲ恐レテ

遁レ來リシモナリシトゾ

(二四) 狹穗彥ノ叛亂ノ始末如何 ●八綱田ノ事蹟ヲ問フ
垂仁天皇ノ五年(六三) 皇后ノ兄狹穗彥陰ニ異志ヲ抱キ皇后ヲ脅シ七首ヲ
懷ニシ天皇ヲ弑シ奉ラントス天皇御夢ニヨリ之ヲ覺リ后ニ糺ス后畏レテ
具サニ實ヲ告グ天皇宣クハ「是レ汝ガ罪ニアラズ」ト直ニ八綱田ニ命シテ
狹穗彥ヲ攻メシム皇后宣ハク「我兄カク失ハハ何ノ面目アリテ天下ニ位
ヤン」ト乃チ皇子ヲ抱キテ兄ノ營ニ投ズ八綱田火ヲ放チテ營ヲ燒ク后乃
チ皇子ヲ營外ニ出シ親ラ兄ト共ニ火焰ノ中ニ亡ビ給フ

(二五) 相撲ノ權輿如何

紀元六百年代垂仁天皇ノ朝ニ大和ノ當麻^{タマ}ノ邑ニ當麻^{タマ}蹶速トイフ者アリ常
ニ自ラ誇リ天下膂力己ニ比スルモノナシト稱ス朝廷廣ク其好敵手ヲ求ム
遂ニ出雲ニ野見宿禰ヲ得御前ニ於テ力ヲ角セシム宿禰足ヲ擧ゲテ蹶速ノ
肋骨ヲ蹶折シ之ヲ殺ス實ニ相撲技ノ濫觴ナリトス

(二六) 殉死禁制ノ次第如何 ●野見宿禰ノ事蹟ヲ問フ

凡ソ皇族貴人等ノ崩御薨去ノ際其近臣モ亦自ラ生キ埋メテ其葬ニ隨フ之

ヲ殉死トイフ垂仁天皇ノ御弟倭彥命薨去ノ時(六五) 其弊習ニ從ヒテ近臣
數十人ヲ併セ葬リシニ數日ノ間死セズシテ呻吟スル聲絶エザリシカバ天
皇大ニ之ヲ憐ミ勅シテ以後之ヲ禁制セシメ給フ翌年皇后日葉酸媛崩御ノ
際ニ當リ野見宿禰^土壇輪^偶ヲ作リ以テ殉死者ニ代ヘント請フ天皇大ニ之
ヲ嘉ミシ立テ、永制トナス而シテ特ニ宿禰ニ土師ノ臣トイフ姓ヲ賜ハリ
代々其事ヲ掌ラシム

(二七) 垂仁天皇ノ敬神ノ御志深カリシ事ヲ叙セヨ

垂仁天皇モ亦崇神天皇ト同ジク敬神ノ御志深ク天照大神ノ廟ヲ大和ヨリ
伊勢ノ宇治ニ遷シ皇女倭姬命ヲシテ掌祀セシム今ノ内宮是ナリ

(二八) 景行天皇熊襲御征伐ノ次第ヲ記述セヨ

景行天皇ノ朝ニハ未ダ皇威ノ達スル所狹ク地方僻遠ノ間ハ各部落ノ長常
ニ相反抗シテ自立ヲ謀リ又タトヒ自立ヲ謀ラザルモ尙朝廷ニ服從セズ獨
リ強梁ヲ恣ニス熊襲ノ如キハ其最モ甚ダシキ者ナリ熊襲ハ今ノ日向大隅
薩摩地方ノ土人ノ總稱ニシテ頗ル勇悍強暴ナリ稱シテ隼人ト云フ其部落
中會長多ク之ヲ八十梟帥^{タカケル}ト稱ス梟帥ハ巨魁ノ義ナリ此輩天皇ノ御代ニ九

州ニ於テ叛キ威勢猖獗ナリ天皇親ラ軍ヲ統率シテ周防ヨリ豊國ヲ巡リ諸
 賊ヲ平ゲ竟ニ日向國ニ入リテ高島ノ行宮ヲ作リテ此ニ御シ熊襲討平ノ方
 ヲ議シテ宣ハク『賊魁甚ダ多ク寡ヲ以テ討ツコト難ク衆ヲ用フレバ民徼
 發ニ困マン朕戰ハズシテ克タント欲ス』ト一臣曰ク『聞ク賊魁ニ二女アリ
 市乾鹿文市鹿文トイフ若シ伴テ之ヲ納レ以テ敵情ヲ探グラバ賊ヲ獲ルコ
 ト易カラシ』ト天皇之ニ從ヒ假リニ其二女ヲ納レテ之ヲ嬖ス市乾鹿文奏
 シテ曰ク『陛下憂フル勿レ妾ニ策アリ』ト乃チ二三ノ兵ヲ從ヘテ家ニ歸リ
 父ニ飲マスニ酒ヲ以テシ其酣寢ヲ窺ヒテ密ニ弓弦ヲ斷チ兵ヲシテ之ヲ殺
 サシム此ニ於テ熊襲悉ク服ス天皇帝市乾鹿文ノ不孝ヲ惡ミ之ヲ誅シ妹市鹿
 文ヲ以テ火國造ニ賜フ

(二一九) 日本武尊熊襲御征伐如何

景行天皇ノ熊襲御征伐ノ後凡ソ八年ニシテ再ビ叛ス天皇皇子小碓尊ヲシ
 テ之ヲ討タシメ給フ尊時ニ御年僅ニ十六身體壯大勇武絶倫乃チ美濃尾張
 ノ射手ヲ從ヘテ筑紫ニ至リ女装ニカヘ匙首ヲ懷ニシ賊塞ニ入り婢妾ノ中
 ニ混ジテ機ヲ窺フ賊魁川上梟帥宴ヲ張リ一族ヲ饗ス梟帥乃チ尊ノ美ナル

ヲ見テ之ヲ愛シ延キテ坐側ニ置ク己ニシテ夜更ケ人散シテ梟帥醉臥ス尊
 直ニ劔ヲ拔キ之ヲ刺ス賊魁驚キ未ダ死セズ問フテ曰ク『我ヲ殺ス者ハ誰
 ゾヤ』ト尊宣ハク『大足彦天皇(景行)ノ子名ハ日本童男ナリ』ト梟帥嘆賞シテ
 曰ク『我未ダ剛勇皇子ノ如キモノヲ見ズ願クバ嘉號ヲ上リテ日本武皇子
 トイハン』ト終ニ死ス故ニ改メテ日本武尊ト呼ハセ給フ梟帥ノ死スルヤ
 餘賊悉ク降服シ西陲全ク平定セリ

(二二〇) 日本武尊ノ東夷征伐ノ始末如何

吉備武彦ノ事蹟ヲ問フ
 熱田神宮ノ由來如何

日本武尊熊襲御征伐ノ後二十一年ヲ經テ(七七)東夷亦反ス尊マタ征討ノ
 命ヲ受ケ吉備武彦大伴武日等ト共ニ都ヲ立チ出デ先ツ伊勢ノ神宮ヲ拜シ
 御姉倭姫命ニ謁ス倭姫命ハ尊ニ授クルニ叢雲劔ト燧袋トヲ以テス尊コレ
 ヨリ尾張ニ出デ駿河ニ至リシニ土賊僞リテ遊獵ヲ勸メ火ヲ原野ニ縱ツテ
 尊ヲ燒キ殺サントス尊乃チ劔ヲ拔キテ草ヲ薙キ燧ヲ鑽ツテ向ヒ火ヲ付ケ
 給ヒシカバ賊徒却テ焚死セリ因テ神劔ヲ改メテ草薙ノ劔トイヒ其地ヲ燒
 津トイフ(今ノ益頭郡)是ヨリ進ンデ相摸ニ至リ上總ニ航セントスルヤ海上暴
 風アリ船艦漂盪シテ進ム能ハズ尊ノ妃弟橘媛宣ハク『是レ海神ノ祟ナリ

妾身ヲ以テ之ニ代ラン」ト言ヒ訖テ直ニ海ニ投ゼラル既ニシテ風波靜定シ船漸ク岸ニ着クヲ得タリ尊上總ヨリ轉ジテ陸奥ニ入り海路ニ從ヒテ蝦夷ノ境ニ赴ク賊會風ヲ望ンデ悉ク歸服ス是ニ於テ東陸亦全ク平定スヨリテ陸路ヨリ常陸ニ出デ武藏上野ヲ經テ信濃ニ入り吉備武彥ヲ越ニ遣ハシテ其國ヲ巡察セシメ美濃ヲ經テ尾張ニ入ル偶々近江ノ膽吹山ニ妖賊アリト聞キ之ヲ平ゲントテ赴キ給ヒシニ病ニ罹リ終ニ伊勢ノ能褒野ニ至リ薨ジ給フ御寶算三十二彼ノ神劍ヲ熱田ニ遺シ置キシカバ茲ニ祠ヲ建テ、齋祀ス今ノ熱田神宮コレナリ

(三二) 關東ヲ吾妻トイフ起源如何

日本武尊東北御平定ノ後乃チ上野信濃等ノ諸州ヲ巡撫シ行キテ碓氷嶺ニ登リ願ミテ弟橘媛ノコトヲ追想シ給ヒ吾妻者耶ト宣フコレヨリ關東ノ諸國ヲ稱シテ今尙吾妻ト云フ蓋シ茲ニ源セリト

(三三) 御諸別王ノ事蹟如何

御諸別王ハ崇神天皇ノ皇子豐城入彦命ノ曾孫ニシテ景行天皇ノ朝ニ父彦狹島ノ職ヲ襲ギ命ヲ奉ジテ東山道十五國ノ督トナリ東北ノ蝦夷ヲ平定ス

又其皇子七十七人モ命ヲ奉ジテ君、別、國造、縣主稻置トナリ地方ヲ治ム

(三四) 大臣ノ嚙矢如何

景行天皇ノ皇子成務天皇即位シ給ヒ武内宿禰ヲ以テ大臣トナシ(七九) 大政ヲ輔佐セシム大臣ノ職此ニ始マレリ

(三五) 仲哀天皇ノ熊襲御征伐ヲ記セヨ

仲哀天皇ノ御代ニ熊襲又反ス天皇親ラ皇后及ビ群臣ヲ率キテ之ヲ征シ駕ヲ香椎宮(筑前)ニ駐メ衆ト會シテ評定ヲナシ給フ皇后氣長足姫(神功皇后)宣ハク「熊襲ノ屢々反スルハ恐クハ新羅後援ヲナスニ因ル故ニ先ヅ新羅ヲ討平セバ熊襲ハ何ゾ兵ヲ勞スルニ足ラン」ト天皇之ヲ聽カズ進ンデ熊襲ヲ討チシカド戰利アラズ終ニ軍中ニ崩ジ給フ(八五)

(三六) 神功皇后三韓御征伐ノ始末ヲ叙セヨ

●吉備鴨別ノ事蹟如何
●大矢田宿禰ノ事蹟如何

仲哀天皇熊襲御征伐ノ軍中ニ崩ジ給ヒケレバ皇后大臣武内宿禰ニ謀リテ大喪ヲ秘シ懷妊ノ御身ヲモ顧ミズ意ヲ決シテ外征ヲ企テ先ヅ吉備鴨別ヲシテ熊襲ヲ討タシム鴨別旬日ニシテ悉ク平ゲシカバ皇后遂ニ男裝シテ御躬ヲ三軍ヲ統ベ對馬ノ和珥津ヲ經テ直ニ新羅ニ渡リ給ヒヌ新羅王波沙寐

錦大ニ驚惶シテ出デ、降り誓テ曰ク「今ヨリ後永ク大王ノ御馬飼トナリ
 テ年毎ニ朝貢セン假令太陽西ヨリ出デ鴨綠江逆ニ流ル、コトアリト雖モ
 朝貢ヲ闕クルコトナケン」ト皇后之ヲ許シ遂ニ國都ニ入り府庫ヲ封ジ圖
 書ヲ收メシム新羅王質ヲ奉リ且ツ金銀絹帛八十艘ヲ獻ズ爾後年々新羅ノ
 貢物ハ八十艘ヲ以テ定額トナセリ尋テ高麗百濟ノ二國モ亦風ヲ望ンデ降
 服シ「今ヨリ永ク西蕃ト稱シテ朝貢セン」ト請ヒシカバ之ヲ許サル此ニ
 於テ三韓悉ク服ス皇后乃チ新羅ヲ馬飼部トシ任那ニ内宮家ヲ置キ大矢田
 宿禰ヲ以テ將軍トナシ成ヲ新羅ニ留メテ其地ヲ鎮撫セシメヤガテ御凱旋
 アリタリ

(三六) 神功皇后ノ御攝政ヲ記セヨ

(三七) 廣坂忍熊二皇子ノ叛ヲ記セヨ

神功皇后三韓ヨリ御凱旋アリテ筑紫ニ着カセ給ヒ蚊田ニ於テ愈々皇子ヲ
 生マセ給ヒヌ應神天皇コレナリ又胎中天皇トモ申ス天皇尙ホ幼ナルヲ以
 テ皇后萬機ヲ攝ス之ヲ攝政元年(八六)トス此年皇后百僚ヲ率キテ豐浦宮
 ニ至リ始メテ先帝ノ喪ヲ發シ梓宮ヲ奉シテ京ニ還ラントス時ニ天皇ノ庶

兄廣坂忍熊^{カコサヲラシク}ノ二皇子兵ヲ集メテ叛ス皇后乃チ武内宿禰ヲシテ之ヲ平ゲシ
 ム此後宿禰モ亦帝ヲ補佐ス蓋シ皇后政ヲ攝スルコト六十九年ニシテ崩ジ
 給フ

(三八) 武内宿禰ノ功勳ヲ叙セヨ

武内宿禰ハ屋主忍男武雄^{ヒコ}心命ノ子ニシテ實ニ上古第一ノ偉人ナリ其神功
 皇后ヲ輔ケテ三韓ヲ征服シ國威ヲ發揚セシ功勳ハイフモ更ナリ景行天皇
 ノ時ニ宿禰單身蝦夷ノ地ヲ跋涉シテ其風土ヲ巡察シ成務天皇ノ時ニハ始
 メテ大臣ニ任命セラレテ大ニ行政ノ組織ヲ整ヘ紀綱頓ニ張ル三韓ヨリ凱
 旋ノ後ハ廣坂忍熊二王ノ叛亂ヲ鎮メ應神天皇ノ朝ニハ又筑紫ニ行キテ西
 陸ヲ鎮撫シ兼テ三韓ヲ控制セリ仁德天皇ノ朝ニ至リテ薨ズ宿禰景行成
 務仲哀應神仁德ノ五朝ニ歷仕シ在官二百四十餘年年ヲ享クル三百餘歳長
 壽古今ニ類ナク和漢共ニ之ヲ稱ス當時三韓入貢ノ使武内ノ名ヲ聞キ常ニ
 懽服スト云フ嗚呼實ニ上古ノ偉人ニシテ國家柱石ノ臣タルコト誰カ疑フ
 モノアラシヤ

(三九) 神功皇后三韓御征伐ノ後ニ於ケル彼我關係ヲ畧述セヨ

三韓ハ乃チ今ノ朝鮮ナリ神功皇后征服ノ後彼ハ土地人民與奪ノ權ヨリ王位ノ廢立ニ至ルマデ總テ我ガ命令ニ從ヒ且ツ每歲朝貢ヲ絶タズ又書籍織匠、技工、醫術、曆算等ヲ貢シテ大ニ我カ文化ヲ裨益セリ然レモ雄略天皇ノ朝ニ至リ任那ノ國司吉備田狹彼ノ地ニ據リテ叛セシヨリ亂階茲ニ生ジテ叛亂頻リニ起リ新羅高麗ノ二國之ニ乘ジテマタ亂ヲ起シ欽明天皇ノ御代ニ至リ二國聯合シテ百濟ヲ攻メ任那ニ來リテ我官府ヲ毀テリ是ヨリ韓地殆ンド我カ羈絆ヲ脱ス

(四〇) 儒教渡來ノ始如何

●我邦文教ノ起源ヲ問フ

應神天皇ノ十五年(九四)ニ百濟王其臣阿直岐ヲ遣ハシテ良馬ヲ貢セシム阿直岐經典ニ通ズ天皇皇子菟道稚郎子ヲシテ就テ學バシム然ルニ阿直岐ノ推薦ニヨリ明年(九五)王仁來朝シテ論語十卷千字文一卷ヲ獻ゼリ稚郎子更ニ之ヲ師トシテ深ク經義ヲ研究ス之レ實ニ我ガ國文教ノ起源ナリトス蓋シ是ヨリ以前書ヲ讀ミ文字ヲ用フルコトナカリシガ如シ

(四一) 仁德天皇御即位ノ次第ヲ叙セヨ

仁德天皇御諱ハ大鷦鷯尊應神天皇ノ第四子ナリ父帝世ニ在マセシキ少子

稚郎子ノ才學アルヲ愛シ竟ニ大鷦鷯尊ニ議リテ皇太子トナシ給ヘリ然ルニ父帝崩御ノ後稚郎子ハ兄ノ尊ニ讓リテ曰ク「阿兄ハ齒德共ニ優レ給ヘリ宜シク我ニ代リテ天下ヲ知ラシメスベシ」ト尊宣ハク「先帝汝ヲ立テ給ヘルハ賢ヲ撰ビ愛ニ泥ミ給フニアラズ何ソ先帝ノ叡慮ニ背カンヤ」ト固辭シテ聽カザリシカバ稚郎子乃チ菟道ニ遜レ肯テ御位ニ即カズカクシテ御兄弟互ニ相讓ルコト三年天下調貢スルモノ到ラン所ヲ知ラズ皇子尊ノ御志動カシ難キヲ察シ自ラ及ニ伏シテ薨ジ給フ尊之ヲ聽キ大ニ驚キ難波ヨリ菟道ニ至リ慟哭シテ哀ヲ擧ゲサセ給フ是ニ於テ群臣尊ヲ勸メ奉リ速カニ御即位アラシムコトヲ請フ尊終ニ御位ニ即キ給ヒヌ

(四二) 仁德天皇御遷都ノ原因如何

●大阪ノ繁昌ナル由來ヲ問フ

神武天皇以來歷世都ヲ移サレシト雖モ大抵ハ皆大和ノ國ノ中ナリシガ仁德天皇ノ朝ニ至リテ始メテ攝津ノ難波ノ高津ニ移サレ堀江ヲ鑿リ大道ヲ開キ大ニ交通運輸ノ利便ヲ計リ給ヘリ是レ此ノ御代ニハ三韓トノ交通モ益々頻繁ニ至リシカバ地勢ノ便ヲ計リシヤ疑ナシ難波ハ今ノ大坂ニシテ其繁昌ノ由來ハ蓋シ深遠ナリト謂フベシ

(四三) 仁德天皇ノ仁德ヲ叙セヨ

仁德天皇難波ノ高津宮ニ在リ一日高臺ニ上リ四方ヲ遙望シテ人烟ノ疎ナルヲ見テ以爲ラク民皆貧ナリト即チ課稅ヲ除クコト三年常ニ御心ヲ民生ノ事ニ盡シ宮垣頽敗茅茨壞圯風雨交々侵入シ星光夜ル御座ヲ照スト雖モ毫モ介セズ方メテ勤儉ヲ行ヒ給ヘリ斯クノ如キコト數年ニシテ五穀豐穰百姓殷富ナリ天皇復タ高臺ニ登リ人烟ノ盛ナルヲ見テ大ニ喜ヒ給ヒ「朕既ニ富メリ」ト宣ヒテ更ニ三年ノ課役ヲ免ゼラレシカバ百姓益々富榮トナレリ是ヨリ前民屢々宮殿ヲ修理セント請ヒシガ此ニ至リテ許シケレバ老幼男女爭ヒ來リテ材ヲ運ビ土ヲ擔ヒ忽チ其工事ヲ畢ヘリカクテ此御代凡ソ二十餘年間更ニ刑罰ヲ加フルコトナカリキ天皇崩御ノ時民ノ悲慕スルヲ恰モ父母ヲ喪フガ如シ以テ其御仁德ノ一班ヲ知ルベシ

(四四) 史官ヲ置キシ始ヲ問フ

儒教渡來後百八十年ヲ經テ履仲天皇ノ朝ニ至リ漸ク始メテ諸國ニ史官ヲ置キテ記録ノ業ヲ起セリ當時其官ニ任セラレシ者多クハ阿直岐王仁及ビ其他歸化人ノ子孫ナリキ

(四五) 允恭天皇姓氏ヲ正サレシ次第如何

(四六) 姓氏ノ解釋ヲ問フ

允恭天皇ノ即位四年(七五)ニ天下人民ノ姓氏ノ混亂シテ分明ナラザルヲ憂ヒ諸ノ氏人ヲ味耜丘ニ集メ沐浴齋戒シ探湯ヲ設ケ神ニ盟ヒテ其詐冒ヲ正シテ眞僞ヲ定メタリ實ヲ告グルモノハ湯ヲ探ルニ其手傷害ナク僞ルモノハ傷害ス此ニ於テ姓氏正シクナリヌコレ上古ニハ未ダ官位ノ制ナク姓氏ヲ以テ其用ヲ爲シ、ガ人口次第ニ増加シ歸化人ナドモ多クナリシヨリ終ニ是ガ詐冒ヲナスモノ出デ來リシニ因ルナリ姓ハかばねトイヒ乃チ爵ニシテ家ノ尊卑ヲ示シ氏ハラヒトイヒ乃チ世襲ノ職ヨリ出デタルモノ多クシテ族類ヲ區別セリ例ヘバ物部ノ連、齋部ノ首、土師ノ臣トイヘバ物部齋部土師ハ氏ニシテ連首臣ハ姓ナリ

(四七) 氏族三別ノ制如何

古代ニハ神別、皇別、蕃別トテ氏族ヲ三ツニ區別シ以テ各人皆家系ヲ重ンズ乃チ神別トハ神代諸神ノ後裔ヲ云ヒ皇別トハ神武天皇以下歷世諸帝ノ皇族ヲイヒ蕃別トハ外國歸化人ノ子孫ヲイフナリ

(四八)眉輪王叛逆ノ顛末ヲ略叙セヨ

安康天皇ノ三年(六一)眉輪王天皇ヲ弑シ奉ル初メ天皇大草香皇子(允恭天皇ノ御弟)ノ妹幡梭皇女ヲ聘ノ同母弟大泊瀨皇子ノ妃トナサント欲シ根使主ヲシテ其旨ヲ傳ヘシム大草香ノ子大ニ悦ビ其私寶ノ押木珠纒ヲ獻ジ以テ信契トス根使主其美麗ナルヲ愛シ私ニ之ヲ奪ヒ匿シテ進セズ伴リ奏シテ曰ク大草香皇子命ヲ奉セスト天皇之ヲ聽キ大ニ怒リテ直ニ兵ヲ遣ハシテ大草香皇子ヲ殺シ乃チ幡梭ヲ取リテ大泊瀨皇子ノ妃トシ且ツ大草香皇子ノ妃中帶姫ヲ納レテ遂ニ皇后トナセリ初メ皇后大草香皇子ノ家ニ在ルル眉輪王ヲ生ム故ニ母ニ從ヒテ宮中ニ養ハル天皇一日山宮ニ幸セシキ竊ニ后ニ語リテ宜ハク『朕甚ダ汝ヲ愛スト雖凡心常ニ眉輪ヲ畏ル、』ト眉輪王時ニ年七歳樓下ニ在リテ此言ヲ聞キ後天皇ノ醉臥セラレシヲ伺ヒ刺シテ之ヲ弑ス大泊瀨皇子此變ヲ聞キ兵ヲ率キテ來リシカバ眉輪王遁レテ大臣葛城圓ノ家ニ匿レ皇弟ニ謂テ曰ク『臣元ヨリ天位ヲ求ムルニ非ラズ唯父ノ仇ヲ報イシノミ』ト皇弟怒テ其第ヲ燒キ眉輪、圓及ビ諸兄等ヲ焚殺ス後大泊瀨皇子泊瀨ノ朝倉宮ニ於テ即位シ給フ雄略天皇ト申ス

(四九)大臣大連並置ノ嚆矢如何

雄略天皇御位ニ即キ給ヒ武内宿禰ノ孫平群眞鳥ヲ大臣トシ大伴武以ノ子室屋ヲ大連トシテ共ニ朝政ヲ輔佐セシム之レ其並置ノ始トナス

(五〇)雄略天皇ノ服制改革ノ次第ヲ略叙セヨ

雄略天皇御性剛健ニシテ殺伐苛酷ノ御振舞少ナカラズト雖凡御心ヲ能ク政事ニ留メ尙且ツ殖産興業ニ力ヲ注キ給ヘリ御即位ノ六年ニハ后妃ヲノ躬ヲ桑ヲ採リテ蠶事ヲ勸奨セシメ又使ヲ吳ニ遣ハシテ漢織吳織衣縫等ノ女工ヲ徵シ十六年ニハ又諸國ニ令シテ桑ヲ植ユシム之レ偏ニ帝ガ我國固有ノ服裝ヲ改革セントシ給ヒシ所以ナリトゾ

(五一)任那日本府ノ興廢ヲ述ベヨ

●紀男磨河邊瓊岳ノ事蹟ヲ問フ
神功皇后三韓ヲ征服シ給ヒテ之ヲ内屬セシメ百濟ニ官家ヲ置キ又任那ニ日本府ヲ開キ國司ヲ置ケリ然レモ彼地ハ洋海渺茫ノ外ニ在リテ交通便ナラズ且彼ハ眞ニ降服シタルニアラズ唯一時ノ詐計ニ出ヅルヲ以テ其後新羅高麗國力漸ク盛ニ赴キシカバ朝貢ヲ獻セズ剩ヘ命ニ抗シ謀叛相繼グ獨リ百濟ハ新羅高麗ノ侵畧ヲ受ケシヲ以テ我が國ニ倚依シテ朝貢ヲ怠ラズ

任那モ亦從順ナリキ然レモ雄略天皇ノ御宇ニ任那ノ國司吉備田狹天皇ヲ怨ム事アリテ此ニ據テ叛ク新羅マタ朝貢ヲ缺クルコト數年ニ及ビケレバ天皇親征セントシ給フ是ヨリ三韓互ニ相侵畧シテ爭亂止マズカクシテ欽明天皇ノ二十三年(二二二)ニ至リテ新羅高麗二國相聯合シテ百濟ヲ攻メ任那ニ來リテ我官府ヲ毀ツ因リテ朝廷紀男騰河邊瓊岳ヲ遣ハシテ新羅ヲ征セシメシモ利アラズシテ止ミ又是ニ於テ韓地殆ント我ガ羸胖ヲ脱セシガ如ク此後歷朝興復ノ志アレモ遂ニ果サズ

(五二) 顯宗仁賢二帝御即位ノ次第ヲ叙セヨ

●來目部小楯事蹟如何

清寧天皇雄略天皇ニ繼キテ即位シ給ヒシモ皇子在マサハリシカバ皇統ノ絶エンコトヲ憂ヒ使テ諸國ニ出シテ遍ク皇胤ヲ求メシムコト時播磨ノ國司來目部小楯其國ニ履仲天皇ノ皇孫億計弘計ノ二王御父市邊ノ押磐皇子雄略天皇ノ爲メニ殺サル、ヤ潜匿セシコトヲ奏シカバ天皇大ニ喜ビ二王ヲ迎ヘ億計王(賢仁)ヲ立テ、皇太子トナス然ルニ天皇ノ崩御ノ後御兄弟互ニ相讓リ御位ニ即カズヨリテ其姑飯豐青皇女假リニ政ヲ聽ク幾クモナクシテ皇女薨セシカバ弘計王(顯宗)即位シ給フ又崩ズルニ及ビ億計王御位ニ

即キ給フ仁賢天皇コレナリ共ニ能ク仁政ヲ施シ給ヒシカバ百姓殷富海内無事ナリキ

(五三) 紀大磐ノ事蹟ヲ問フ

紀大磐ハ小弓ノ子ナリ小弓雄略天皇ノ九年(二二五)詔ヲ奉ジテ蘇我韓子大伴談、小鹿火ト師ヲ率テ新羅ヲ討チ大ニ敵ヲ敗リ後陣中ニ卒ス大磐其討ヲ聞クヤ直ニ新羅ニ赴キ韓子小鹿父ト和セズ終ニ韓子ヲ殺ス後チ顯宗天皇ノ三年(四七)大磐遂ニ任那ニ據リテ高麗ニ通シ將ニ西三韓ヲ併吞セント謀リシカド終ニ力竭キ事ナラズシテ走リ歸ル

(五四) 平群眞鳥伏誅ノ顛末如何

平群眞鳥ハ武内宿禰ノ曾孫ニシテ木兔ノ子ナリ雄略天皇即位シ給フニ及ビ大臣トナリ清寧顯宗仁賢ノ四朝ニ歷仕ス仁賢天皇ノ崩ズルヤ皇太子未ダ祚ニ登リ給ハズ眞鳥擅ニ威福ヲ弄シ陰ニ不軌ヲ謀ル其子鮪モ亦驕慢益々人臣ノ禮ナシ皇太子大伴金村ニ命ジテ眞鳥父子ヲ誅セシメ後即位シ給フ武烈天皇是ナリ尋テ金村大連ニ舉ケラル

(五五) 繼體天皇ノ御系統及ビ御即位ノ次第ヲ記述セヨ

繼體天皇御諱ハ男大迹王^{ホト}應神天皇五世ノ孫彥主人王^{ヒコウシ}ノ御子ナリ幼ニシテ御父ヲ失ヒ御母ニ從ヒテ越前ノ高向ニ在マス武烈天皇崩シ給ヒテ御嗣ナカリシカバ大伴金村等相議リテ王ヲ越前ヨリ迎ヘ御位ニ即ケ奉リヌ時ニ御年五十八在位二十五年ニノ崩御セラレ^(九一)

(五六)大伴金村ノ事蹟ヲ問フ

●大伴金村ノ對韓政策如何
●近江毛野ノ事蹟ヲ問フ

大伴金村ハ談ノ子室屋ノ孫ナリ仁賢天皇崩シ給フヤ大臣平群真鳥父子ヲ誅シ皇太子ヲ奉ジテ即位シ奉ル武烈天皇ト申ス金村大連ニ任ゼラル天皇崩ジテ御嗣ナカリシカバ男大迹王ヲ越前ニ迎ヘ奉リ之ヲ立ツ繼體天皇是ナリ其御代ニ百濟朝貢シ上表シテ任那ノ國四縣ヲ請フ金村奏シテ曰ク『四縣ハ百濟ニ近クシテ官府ニ遠シ之ヲ百濟ニ賜ヒ併ヒテ一國トナサバ甚タ便ナラン』ト天皇之ヲ聽ス之ヨリ韓土ノ紛擾ヲ來タシ新羅又任那ヲ侵畧セシカバ近江毛野ヲシテ兵六萬ヲ率キテ任那ヲ助ケ新羅ヲ討タシメ諸蕃ヲ和解セシム然レモ毛野ノ所置宜シカラズ却テ諸蕃ノ怨ヲ得テ召還セラル此時諸韓反服常ナク金村亦制馭ノ法ヲ誤リ世評紛々タリ金村慙懼措ク所ヲ知ラズ病ト稱シテ朝セズ然レモ金村仁賢以來武烈繼體安閑宣化

欽明ノ六朝ニ歷仕シ五朝ノ大臣トナリ奮勳少ナカラザルヲ以テ欽明天皇之ヲ優遇シテ其失ヲ問ヒ給ハザリキ

(五七)磐井叛亂ノ始末如何

●物部麤鹿火ノ事蹟ヲ問フ

近江毛野任那ヲ佐ケ新羅ヲ討ツ時ニ當リ筑紫ノ國造磐井新羅ノ賄賂ヲ受ケテ叛シ火豊二國ニヨリテ海路ヲ扼シ三韓ノ貢船ヲ誘致セリ磐井ハ實ニ西陲ノ一豪族ニシテ勢頗ル強ク毛野進ム能ハズ因テ繼體天皇更ニ物部麤鹿火^{ウカヒ}ヲシテ之ヲ討タシム是ニ於テ毛野渡韓スルヲ得タリ麤鹿火ハ麻佐良ノ子ニシテ仁賢武烈繼體安閑宣化ノ五朝ニ歷仕シ功勳亦少ナカラス

(五八)佛法渡來ノ次第ヲ叙セヨ

●寺院及ビ佛教信者ノ嚆矢如何
●物部氏滅亡ノ次第如何

佛法ノ始メテ我國ニ渡來シタルハ^(八一)南梁ノ人司馬達等歸化シテ大和ニ居リ私ニ其法ヲ弘メシニアリトイフ然レモ當時更ニ信ズル者ナカリキ然ルニ欽明天皇ノ十三年^(一一三)ニ至リ百濟王釋伽佛像及ビ經論ヲ獻シテ盛ニ其功德ヲ稱ス天皇之ヲ廟議ニ附シ其信ズベキヤ否ヤヲ諮ル大臣蘇我稻目曰ク『西方諸國皆已ニ之ヲ禮ス我國ノミ何ゾ禮セザランヤ』ト大連物部興尾中臣鎌子ハ其說ヲ駁ノ曰ク『我國古來天神地祇ヲ祀レリ今ニ及ン

テ蕃神ヲ祀ラバ恐ラクハ我が神祇ノ怒ヲ招カン』ト天皇之ニ從ヒ姑ク稻目ニ付シテ試ミニ禮セシム稱目大ニ喜ビ其向原ノ家ニ安置シテ向原寺ト稱スコレ我國寺院ノ初メニ國人佛法ヲ信ズル初メナリトス是歲會々疾病大ニ流行セシカバ尾興寺奏シテ曰ク『今日ノ災コレ全ク蕃神ヲ信ズル崇ナリ速ニ之ヲ廢セン』ト天皇之ヲ許シテ向原寺ヲ燒キ佛像ヲ難波ノ堀江ニ投ゼシムサレド稻目等尙拜佛ノ念ヲ絶タス私ニ韓土ヨリ佛像經論ヲ獻ゼシメタリ其後敏達天皇ノ朝(三二)ニ至リ百濟ヨリマタ佛像經論呪禁師造佛士造寺匠等ヲ獻ジ次イデ新羅ヨリモ亦佛像ヲ上レリ當時稻目既ニ薨ジテ其子馬子大臣タリシガ父ノ志ヲ繼ギ更ニ佛殿ヲ造リ僧尼ヲ招キ盛ニ齋會ヲ行フ然ルニ疫疾再ビ大ニ流行セシカバ尾興ノ子大連守屋鎌子ノ子勝海又各其父ノ志ヲ繼ギ奏請シテ佛寺ヲ毀テ佛像ヲ棄テ僧尼ヲ還俗セシメタリサレド疫病益々盛ニノ天皇モカ、リ給ヒ守屋モ亦嬰リシカバ信佛ノ徒ハコレ佛ヲ燒ケル崇ナリトイヘリ既ニシテ馬子其病ノ爲メニ強請シテ獨リ佛ヲ拜スル許可ヲ得タリ是ヨリ佛法次第ニ盛ニ趣キ蘇我物部二氏ノ軋轢愈々烈シクナリヌ其後(四二)用明天皇御病ニ罹リ給フヤ天皇ノ

第一皇子厩戸皇子晝夜御傍ニ在リテ佛ニ祈ル天皇モ亦佛ヲ拜セントス守屋勝海之ヲ阻ム馬子遂ニ皇子ニ謀リ守屋勝海ヲ殺セリ物部氏此ニ於テ亡ブ是ヨリ推古天皇ノ末年(八四)ニ至リ海内ノ寺四十八ヶ所僧八百十六人尼五百六十九人ノ多キニ達シ佛教大ニ行ハル蓋シ佛法渡來ヨリ茲ニ至ルマテ七十二年ヲ經タリキ

(五九) 佛法ノ來歴ヲ問フ ●漢土へ佛法傳來ノ時代如何

佛法ハ印度ニ於テ釋迦ノ立テタル教法ニシテ因果應報ヲ説キ一切平等主義ヲ唱ヘ衆生濟度ヲ以テ目的トセリ後漢ノ明帝ノ時支那ニ傳來シ夫レヨリ高麗百濟ヲ經テ我國ニ渡來セシナリ

(六〇) 蘇我馬子ノ大逆ヲ記セヨ

物部氏已ニ蘇我氏ニ亡ボサレ大伴氏ハ金村韓地ニ失敗セシヨリ勢衰ヘシカバ馬子獨リ自ラ驕恣專横ヲ極メ終ニ崇峻天皇ヲ弑シ奉ルニ至レリト始メ用明天皇崩ジテ馬子崇峻天皇(皇后小姊君乃チ馬子ノ妹ノ生ミ奉ル所)ヲ擁立セシガ其功ヲ特ニ益々暴戾横恣自ラ朝政ニ預リ毫モ憚ル所ナシ天皇甚ダ之ヲ惡ミ常ニ除カントシ給ヘリ馬子之ヲ聞キ東漢駒ヲ教峻シテ之ヲ寢殿ニ弑セシメ而シ

テ後東漢駒ヲ殺シ逆罪ヲ糺スト稱ス既戶皇子之ヲ知リ敢テ伯父ノ仇ヲ咎メズシテ曰ク『是レ過去ノ報ナリ』ト因果ノ理ニ歸シテ馬子ヲ遇スルコト初メニ異ナラザリキ

(六一) 女帝ノ嚙矢ヲ問フ

崇峻天皇不慮ノ禍ニ崩シ給ヒ推古天皇馬子ノ爲メニ擁立セラルコレ蘇我氏ノ出ナルヲ以テナリ天皇ハ實ニ欽明天皇ノ皇女ニシテ敏達天皇ノ皇后タリコレヲ我國女帝ノ初メトナス

(六二) 佛教ノ技藝發達ニ及ボシタル影響如何

推古天皇ノ御代ニ至リ佛法益々盛大ノ域ニ赴キ工藝美術ノ進歩モ亦著シク繪畫ニハ高麗ノ歸化僧曇徵最モ有名ナリ又百濟ノ味摩之ハ吳ノ技樂ヲ傳ヘ少年ヲノ傳習セシム又彫刻ニハ鞍作鳥(鳥佛師)アリテ其製作今ニ傳ハレリ佛寺ノ競ヒ興ルニ付テハ寺工佛工瓦工陶工等此朝ヨリ漸次ニ起レリ其他織縫、音樂、醫術等モ大ニ進歩シ又百濟ノ僧觀勒ハ曆天文地理方術等ノ書ヲ貢シ書生ヲ選ビテ業ヲ授ケシカバ大ニ文藝技術ノ發達ヲ促シタリキ

(六三) 始メテ曆ヲ頒チシ年代ヲ問フ

推古天皇ノ十二年(六二)始メテ曆ヲ天下ニ頒ツ

(六四) 冠位及ビ憲法制定ノ起源如何

●官吏ニ位階アル起源如何
●我國成文律ノ嚙矢ヲ向フ

推古天皇ノ十一年(六一)ニ既戶皇子ノ議ヲ用キ隋朝ノ制ニ倣フテ冠位ヲ群臣ニ賜フ其品ヲ六位ニ分ツ即チ德仁禮信義智トイフ品ニ各大小アリ凡テ十二階トナス官吏ニ位階アルコト是ヨリ始マリ朝廷ノ秩序大ニ整フ翌年(六二)又皇子憲法十七條ヲ制定ス之ヲ我國成文律ノ嚙矢トス然レモ其文體ハ漢文ニシテ官吏ヲ戒飾スル格言的ノモノニ過ギザリキ

(六五) 外國通信ノ始如何

推古天皇ノ十五年(六二)既戶皇子マタ佛經ヲ求メントテ大禮小野妹子ヲ支那ニ遣ハシ初メテ隋ト交通ヲ開ケリ其翌年妹子等歸ルニ臨ミ隋ヨリハ裴世清ヲシテ來朝セシメタリ是ヨリ彼ノ地ニ留學スル者サヘアルニ至リ文物制度ノ輸入隨フテ盛ナリキ

(六六) 海外留學生ノ起源如何

推古天皇ノ十六年(六二)裴世清歸國スルニ及ンデ小野妹子難波雄成ヲ使

トシテ報聘セシム學生高向玄理、僧旻、南淵請安等八人之ニ從テ請安玄理ハ留學スルコト三十餘年舒明天皇ノ朝(〇〇三)ニ至リ唐ヨリ還ル經術共ニ一世ニ冠タリ是ヨリ我國文學煥然トシテ旭日東天ニ昇ルノ勢アリ

(六七)蘇我氏ノ專横ヲ記述セヨ

物部氏亡ビテ政權自ラ蘇我氏ニ歸シ馬子ハ大臣トテリテ四朝ニ歷仕シ外威ノ親ヲ特ミ威福ヲ恣ニシ悖逆無道至ラザルナク其子蝦夷相繼ギテ大臣トナリマタ專横ナリ推古天皇崩ジケレバ又其皇后ヲシテ御位ニ即カシム皇(田村皇子)ヲ擁立ス次テ又天皇崩ジケレバ又其皇后ヲシテ御位ニ即カシム皇極天皇ト申ス蝦夷兩皇策立ノ功ヲ特ミ驕僭度ナク自ラ皇帝ヲ擬シ恣ニ其子入鹿ニ紫冠ヲ授ケテ大臣ニ擬シ私ニ朝政ヲ執ラシメ大ニ第宅ヲ起シテ宮門ト稱シ其子ヲ王子ト稱スルニ至リ又入鹿代リテ蝦夷ノ職ヲ襲ギ既戶皇子ノ御子山背大兄王ノ聲望高キヲ忌ミ俄ニ襲フテ之ヲ殺ス蝦夷又宅ヲ畝傍山ノ東ニ造リ城ヲ築キ濠ヲ環ラシテ出入スル毎ニ兵士之ニ從テ其僭擬驕横ノ一班推シテ知ル可シ

(六八)蘇我入鹿伏誅ノ始末ヲ述ベヨ

●蘇我氏滅亡セシ次第ヲ問フ

皇極天皇ノ御代ニハ蘇我入鹿驕恣僭横最モ至リ不臣ノ心ヲ挾ミ社稷ヲ闕闔ス此時ニ當リ中臣鎌足(鎌子)トイフ者アリ入鹿ノ專横ヲ憤リ慨然トシテ匡濟ノ志アリ陰ニ皇極天皇ノ御弟輕皇子(孝德天皇)ニ結ビ皇子中大兄(天智天皇)ニ謀ラント欲セシガ未ダ其機ヲ得ズ會々法興寺ニ蹴鞠ノ會アルニ及ビ始メテ皇子ト親シムヲ得是ヨリ周孔ノ教ヲ南淵請安ニ學ブニ托シ相往來シ密ニ謀ル所アリ皇子ヲ勸メテ蘇我倉山田石川麿ト婚ヲ結バシメ大事ヲ成スノ毘輔トス又佐伯子麿葛城稚犬養網田等ヲ拔キテ其助トス皇極天皇ノ四年(〇五三)六月會マニ韓ノ使者入貢ス皇子乃チ鎌足ト謀リ此機ニ乘シテ事ヲ舉ゲントス此日天皇大極殿ニ出御シ給ヒ入鹿朝服シテ參殿ス皇子親ラ長鎗ヲ把リテ殿側ニ隠ル鎌足マタ弓矢ヲ持シテ之ニ從ヒ衛門府ニ戒メテ諸門ヲ閉ザシム此時石川麿韓使ノ奉ル表文ヲ讀ミ將ニ終ラントス子麿等恐レテ發セズ石川麿手戰キ聲顛ヒ流汗淋漓タリ入鹿怪ンテ故ヲ問フ石川麿曰ク「天威咫尺覺エズ斯ノ如シ」ト皇子其機ヲ失ハンコトヲ恐ル直ニ入リテ入鹿ノ肩ヲ研ル入鹿驚キ立ツ子麿漸ク出デ、其脚ヲ斫リ遂ニ之ヲ大極殿ニ誅ス事不意ニ起リ龍顏頗ル動カセ給フ中大兄皇子直ニ上奏シテ

曰ハク「入鹿皇族ヲ剪滅シ尙且陰ニ皇位ヲ傾ケントス故ニ社稷ノ爲メニ
謹ンデ之ヲ誅ス」ト天皇起テ内ニ入り給フ皇子乃チ法興寺ニ入り自ラ備
フ諸皇族以下諸臣從ヒ屬スルモノ多シ此日入鹿ノ屍ヲ父蝦夷ニ賜フ蝦夷
ノ黨亦兵ヲ集メテ自ラ守ル皇子即チ巨勢德大古ヲシテ兵ヲ牽キテ蝦夷ヲ
討タシム蝦夷悉ク古書珍寶ヲ焚テ自殺ス是ニ於テ蘇我氏全ク亡ブ

(六九) 孝德天皇御即位ノ次第如何

皇極天皇ノ四年(〇三)六月蘇我入鹿既ニ誅セラル此月天皇御位ヲ中大兄
皇子ニ傳ヘ給ハントス中臣鎌足モト輕皇子ト約スル所アルヲ以テ竊ニ之
ヲ立テントシ中大兄皇子ニ告ゲテ曰ク「古人大兄皇子ハ殿下ノ御兄ナリ
輕皇子ハ殿下ノ御舅ナリ殿下先ツ大位ニ登ルハ長ク敬スル所以ニアラズ
何ソ御舅ヲ立テ、民望ニ從ハザル」ト皇子之ニ從ヒ密ニ奏シテ輕皇子ヲ
立ツ孝德天皇是ナリ

(七〇) 太古ノ風俗ト上古ノ風俗トノ差異如何

衣食住等生活ノ有様ハ貴賤ニヨリ各其差異アルハ勿論ナレモ上古ノ風俗
ノ一班ハ太古ト大差ナシ神代ヨリ紀元九百年代(應神天皇ノ朝)マデハ真正ナル

日本流ニシテ固有ノモノナレモ夫ヨリ以後ハ三韓トノ交通開ケシニ由テ
衣服ノ製作飲食ノ調理家屋ノ建築等モ彼ノ國ノ風ヲ模擬スルニ至リ大ニ
改新セルモノアリ

(七一) 上古ノ服裝如何

上古衣服ノ制ハ先ツ下ニ褌ヲ穿テ上ニ窄袖ノ衣ヲ着ス其長ケ膝下ニ至レ
リ左衽或ハ右衽上下ニ紐アリテ之ヲ結び其上ニ帶ヲナス婦人ハ大抵褌ノ
上ニ裳ヲ纏ヒ窄袖ノ上ニ手纏又釧トテ玉或ハ鈴ナドヲ飾レルモノヲ纏フ
足ニモ之ト同ジク足結ヲ纏フ又男女共多クノ寶石ヲ緒ニ聯子之ヲ頸ニ掛
ケテ胸部ノ飾トス是レ概テ貴人ノ用キシ所ナリ衣服ニハ始メ獸皮ヲ用ヒ
シカド多クハ布或絹ヲ以テ之ヲ制ス色ハ赤ヲ以テ最上トシ紫青之ニ次グ
黃黑ハ長服トス(蓋シ賤民ハ常服)之ヲ染ムルニハ草木花實ノ液汁ヲ以テセ
リ應神天皇ノ朝ヨリ韓風ノ衣服大ニ行ハレ其服袖大ニシテ丈ケ長ク襟ヨ
リ裾ニ至ルマデ上下ヲ通ジテ一枚トシ左右ヨリ打違ヘテ之ヲ重ヌ之レ固
有ノ服ニ比スレバ不便悠長ナリト雖モ其風ハ却テ都雅ナリシモノ、如ク
始メハ貴人間ニ行ハレ後漸ク一般ノ間ニ行ハル、ニ至レリ今日ノ衣服ハ

此ニ基クトイフ

(七二) 上古ノ頭髮ハ如何

上古ニ於ケル頭髮ハ男女トモ幼時ハ凡テ垂髻ナリ又男子ハ十二三歳ヨリ十四五歳マデ髪ヲ額上ニ束テ予之ヲ總角ニス是ヨリ後ハ髪ヲ左右ニ分チテ結ブみづら之ナリ女子ハ凡テ垂髻ニシテ十三四歳以上ニ至レバ頂後ニ之ヲ束テ餘髪ヲ背後ニ垂下ス蓋シ當時ハ髪ヲ截シ鬚髯ヲ剃ルコトナカリシナリ

(七三) 上古ノ食物如何

我國ハ神代ヨリ既ニ米作ノコト行ハレシヲ以テ國民多クハ米食ス米ハ玄米ヲ甑蒸シテ強飯トセルモノナリ之ヲ舂キテ白米トセルハ仁徳天皇以後ノコトナリトイフ其他副食トシテ魚鳥獸肉ヲ食フ概言スレバ上古ハ一班ニ肉食行ハレシモ彼佛教渡來シテ殺生ヲ戒メシヨリ肉食ノ度大ニ減スルモノ、如シ又上古ハ今ノ如ク三食ナラズ朝夕二回ナリキ又當時酒アリト雖モ今日ノ如キモノニアラス所謂醴酒ニシテ一夜釀ノモノナリキ又飲食ノ器具ハ陶土或ハ木葉ヲ以テ製シタル杯盤盥手挾等ニシテ飯ハ木葉ニ盛

レリ又食卓アリ神前ニ饗物ヲ供ヘ或ハ貴人ニ献スル時ニ之ヲ用フ

(七四) 上古ノ家屋如何

賤民ハ猶ホ神代ノ頃ト同シク土窖石窟等ニ住スルモ貴人ハ木造ノ殿舎ニ住スルニ至レリ其建築ノ狀ハ先ツ地ヲ穿チ地下ニ磐石ヲ以テ礎トシ其上ニ一大柱ヲ立テ其四方ニ小柱若干ヲ並べ立テ梁ヲ立テ桁ヲ掛ケ藤葛ヲ以テ之ヲ結ブ屋根ハ貴賤ノ別ナク草ヲ以テ葺ク而シテ貴人ノ家ニハ削レル圓木數箇ヲ其上ニ列ス之ヲかつをきトイフ其兩端長ク屋頂ニ相交又シテ突出ス之ヲひき或ハちぎトイフ庶民ハ屋上かつをきを置クコトヲ許サレズ以テ貴賤ノ別ヲナセリ蓋シちぎハ神代ノ遺風ニシテ始メハ防風ノ用ニ供セシカド此頃ニ至リ一ノ裝飾トナリシナリサレモ應神天皇以來三韓ノ工匠多ク來朝シテ彼ノ建築術ヲ傳ヘ欽明天皇以後ニハ造寺工瓦工等モ渡來シ大厦高樓ヲ建築シ瓦葺モ行ハル、ニ至リヌ

第四編 中古史

孝徳天皇ノ大化元年ヨリ後鳥羽天皇ノ文治元年迄
五百四十一年間

(七五) 大化ノ革新トハ如何

蘇我氏亡ブルキニ及ビ皇極天皇御位ヲ孝德天皇ニ讓リ給フ天皇中大兄皇子及ビ中臣鎌足ノ議ヲ用ヒテ一大改革ヲ行ハセ給フ之ヲ大化ノ革新トイフ

(七六)大化革新ノ主旨ヲ問フ

大化ノ革新ハ主トシテ唐朝ノ制度ヲ採用シ其大旨ハ地方分權ヲ改メテ中央集權ノ制ヲ立テ、全國畫一ノ法ヲ布キ紀綱ヲ刷振シテ地方族長ノ權勢ヲ打破シ民心ヲ收攬スルニ在リ

(七七)大化革新ノ大畧ヲ叙セヨ

(七八)始メテ年號ヲ立テシ年代ヲ問フ

(七九)大化革新ノ四綱新詔トハ如何

(八〇)二官八省トハ如何

孝德天皇即位シ給ヒテ中大兄皇子ヲ皇太子トシ大臣大連ヲ廢シテ新ニ内臣左右大臣及ビ博士ヲ置キ中臣鎌足ヲ内臣トシ阿部倉梯麿ヲ左大臣トシ蘇我倉山田石川麿ヲ右大臣トシ高向玄理僧旻ヲ博士トシ中央政務ヲ主トラスム當時臣連伴造國造等ガ私有セル土地人民頗ル多クノ貧者益々苦

ミ富者愈々榮ヘ隨テ良民賤民ノ區別モナカリシカバ皇太子ハ鎌足ト謀リテ此積弊ヲ一掃セントス天皇ノ即位元年(一三)始メテ年號ヲ立テ、大化トイフ八月始メテ革新ノ制ヲ布キ先ツ東國ノ國司ヲ任ジ畿内六縣ノ使人ヲ派遣シテ大小所領ノ人衆ヲ校リ新ニ戶籍ヲ造リ田畝ヲ校定シ從來臣連伴造國造等ノ私有ノ土地人民ヲ檢收シ又人民私有ノ武器モ悉ク收メテ其國ノ兵庫ニ納レシム又國司ノ百姓ヲ臣從スルコトヲ禁シ民利ヲ與ヘテ兵力ヲ殺ギ恩威並ビ行ハシム又一方ニハ鐘匱ヲ朝ニ設ケテ冤枉ヲ訟ヘシメ地方豪族ノ恣ニ民ヲ使役シ租稅ヲ賦課シ土地ヲ兼併スルコトヲ禁シ以テ民心ヲ收攬シ良民賤民ノ區別ヲ明ニセシカバ百姓大ニ喜ブ是ニ於テ大化二年(一六)四綱ノ新詔ヲ布クニ至レリ

第一 部曲田莊ヲ罷メテ公地公民トナス事

歷朝置カレシ子代ノ民處々ノ屯倉(皇室御料)及ビ別、臣、連、伴造國造村首等ノ所有セル部曲田莊(私有ノ土地人民)ヲ罷メテ公地公民トナシ食封ヲ大夫以上ニ賜ヒ布帛ヲ官人百姓ニ賜フ

第二 畿内京師郡驛等ノ制ヲ定ムル事

畿内ノ境界ヲ定メ京師ヲ修ム凡ソ京師ニハ坊毎ニ長一人ヲ置キ
四坊ニ分一人ヲ置キ戸口ヲ檢按シ好非ヲ督察セシム又郡ヲ三等
ニ分チ五十戸ヲ一里トシテ四十里ヲ大郡三十里乃至四里ヲ中郡
三里ヲ小郡トシ其郡司ニハ國造ノ内ヲ選ビ大領小領主政主張ノ
四部官ニナス又諸國ノ要所ニハ關塞斥喉防人ヲ置キ諸道ハ驛馬
傳馬ヲ置キ鈴契傳符ヲ以テ官使ノ往來ヲ便ニス

第三

班田收授ノ法ヲ立ツル事
田制ヲ改定シテ戸籍計帳ニヨリ班田收授ノ法ヲ立ツ田ハ長サ三
十步廣サ十二步ヲ一段トシ十段ヲ町トシ段ニ租稻二束二把町ニ
二十束ヲ納メシム

第四

賦役調役ノ法ヲ改正セシ事
賦役ノ制ヲ改メテ田調戸別調調副物及ビ庸役ノ法ヲ定ム田調ハ
絹繩絲綿ノ類土地ノ產物ヲ徵ス田一町ニ絹一丈ノ率タリ戸別調
ハ戸毎ニ布一丈二尺調ノ副物ハ魚鹽ノ類ヲ納ムコレモ亦郷土ノ
出ス所ニ隨テ庸ハ布若クハ米ヲ收ム雜庸ハ官長ハ馬ヲ輸シ兵士

ハ刀、甲、弓矢幡鼓ヲ輸ス仕丁ハ五十戸毎ニ一人ヲ取リテ諸司ニ
充テ采女ハ郡領以上ノ姊妹子女ヲ貢セシム

カクテ朝廷ニハ世官在職ノ風ヲ廢シテ大ニ人オヲ登用シ大化五年(三九)
ニ至リ政府ノ組織ヲ改革シテ二官八省トナシ太政官ノ上ニ神祇官ヲ置キ
以テ敬神愛國ノ國風ヲ明ニシ太政官ニ中務、式部、治部、民部、兵部刑部大
藏及ビ宮内ノ八省ヲ屬シテ各其職務ヲ主ドラシム又冠位十三階ヲ改定シ
朝議ヲ整フ凡テ此等ノ改革ハ曾テ漢土ニ留學生タリシ高向玄理僧旻等ノ
說ニ隨フテ隋唐ノ制ヲ參酌シタルモノナリ是ニ於テ封建制忽チ一變シテ
郡縣制トナレリ是レ所謂大化革新ノ概畧ナリ

(八一) 大化革新以後鎌倉時代ニ至ル政權ノ所在ヲ問フ

大化革新ハ實ニ未曾有ノ大改革ニシテ多年ノ積弊ヲ一掃セシカバ紀綱大
ニ振ヒ政治ノ實權ハ悉ク皇室ニ歸セシト雖モ藤原氏ノ一門外戚ノ親ヲ特
ニ漸ク權ヲ專ラニスルニ及ビ紀綱マタ弛ミ特ニ奈良平安ノ淫靡文弱ナル
時代ニ至リ地方豪族ハ又漸ク權ヲ恣ニシ朝命ヲ奉セズ國憲ヲ蔑如シ隱然
兵馬ヲ擁シ雄視スルニ至リシカバ在朝ノ官人ハ唯其虛位空爵ニ坐スルノ

ミカクシテ政權漸ク武人ニ歸シ藤原氏朝廷ト共ニ衰ヘ源賴朝府ヲ鎌倉ニ開クニ及ビ政權全ク武門ノ掌握スル所トナレリ

(八二) 改元ノ始ヲ問フ

大化五年(一三)ノ末ニ穴門國白雉ヲ獻ス朝廷之ヲ祥瑞ナリトシ年號ヲ白雉ト改ム是レ其始ナリ

(八三) 阿倍比羅夫ノ東夷征伐ヲ畧叙セヨ

大化革新ニヨリ内治漸ク整ヒシカド東北ノ蝦夷未タ王化ニ服セズ且其地高麗肅慎ニ近ケレバ屢々其形勢ニ煽動セラレ邊境ヲ騷カシ良民ヲ害スルコト少ナカラズヨリテ齊明天皇ノ四年(二八)越國守阿倍比羅夫舟師百八十艘ヲ率キテ之ヲ征シ郡領ヲ淳代津輕ノ二郡ニ置キ又渡島ノ蝦夷ヲ招撫シ郡領ヲ後方羊蹄ニ置キ遂ニ蝦夷ヲ嚮導トシテ肅慎(一)ヲ伐ツコト二度以テ蝦夷ノ後援ヲ絶テリ

(八四) 阿倍比羅夫渡韓ノ理由ヲ畧叙セヨ

韓地ハ欽明天皇ノ朝ニ任那滅ビシ以來屢々兵ヲ送りテ回復ヲ計リシカド其功ナク齊明天皇ノ朝ニ至リ新羅唐兵ヲ假リテ終ニ百濟ヲ滅ス六年(二

〇三)百濟ノ相臣救ヲ乞ヒ且ツ其王子餘豐ノ質トシテ來レルヲ迎ヘテ國主トシ興復ヲ圖ラント請フ朝議之ヲ許シ七年(二二)皇太子中大兄天皇ヲ奉制ヲ稱シ未ダ位ニ即キ給ハズ初メ百濟ノ救ヲ乞ヒシ時狹井檣柳朴市秦田來津ノ二將ニ兵五千餘ヲ率キ王子豐ヲ護送シ又阿曇連比羅夫ヲ大將軍トシテ舟師百艘ヲ率キテ之ヲ救ハシメ豐ヲ立テ、王トス然ルニ幾モナクシテ内亂起リ豊ハ高麗ニ走リ我軍唐兵ト戰ヒテ利アラズ百濟遂ニ滅ブ其後新羅又唐兵ト共ニ高麗ヲ滅ボセシカバ三韓悉ク我ガ支配ヲ離ル、ニ至レリ

(八五) 天智天皇ノ御治政ヲ叙セヨ

●近江令トハ如何
●庚午年籍トハ如何

齊明天皇既ニ筑紫ニ於テ崩シ皇太子大兄稱制六年ニシテ始メテ即位シ給フ天智天皇ト申ス都ヲ近江ノ滋賀ニ遷シ皇弟大海人皇子ヲ皇太弟ニ立テ皇子大友ヲ太政大臣ニ拜シ中臣鎌足ヲ内大臣トシ蘇我赤兄ヲ左大臣ニ中臣金ヲ右大臣トナス此時朝野事ナク民皆太平ヲ謳歌ス天皇マタ鎌足ヲシテ新ニ律令二十二卷ヲ撰バシム後ニ之ヲ近江朝ノ令トイフ今傳ハラズ天

皇マタ始メテ學校ヲ設ケ禮法ヲ定メ新ニ戶籍ヲ作り盜賊浮浪ヲ糺ス之ヲ庚午年籍トイフ又新ニ漏刻ヲ造リ鐘鼓ヲ擊チテ時ヲ報ス天皇能ク民情ヲ察シ治ヲ施シ給ヒケレバ後世其德ヲ稱シ中興ノ英主トイヒ奉レリ

(八六)藤原鎌足ノ功勳ヲ叙セヨ

藤原鎌足ハ又中臣鎌子トモ云フ天兒屋根命ノ後裔ニシテ御食子ノ子實ニ藤原氏ノ元祖タリ其中大兄皇子ト共ニ大姦蘇我蝦夷父子ヲ誅シ社稷ヲ富嶽ノ安キニ置キ奉リシ功勳ハイフモ更ナリ皇極天皇御讓位ノ時ニハ百方幹旋シテ先ツ孝德天皇ヲ立テ中大兄皇子ト協力シテ大化ノ新政ヲ斷行ス實ニ未曾有ノ大改革ニシテ制度整正シ政權大ニ張ル(前問)鎌足累年ノ功ヲ以テ大錦冠ヲ受テ封若干ヲ賜ハル天智天皇即位ノ二年(二二)十月病ヲ以テ薨ズ時人之ヲ惜ム薨ズル前天皇特ニ大織冠ニ叙シ姓ヲ藤原ト賜フ薨ズルニ及ビ天皇再ビ第二臨マセ給ヒ蘇我赤兄ヲシテ詔ヲ宣ヘ金香爐ヲ賜フ鎌足實ニ器局秀絶王佐ノ功臣ニシテ中古第一ノ俊傑盛功偉烈千載ノ下ニ耀々タリ

(八七)壬申亂ノ始末ハ如何

天智天皇會テ事ヲ以テ皇太弟大海人ト善ラズ天皇ノ御不豫ナルニ及ビ(二二)大海人皇子皇儲ヲ辭シ削髮シテ吉野ニ入ル因テ大友皇子即位シ給フ弘文天皇ト申ス大海人皇子固ヨリ平カナラズ既ニシテ流言アリ「朝廷吉野ニ備フ」ト大海人皇子曰ハク「我が遺去スルハ是レ命ヲ全フセン爲メノミ今斯クノ如シ豈ニ坐ガラヒアルヲ待タンヤ」ト乃チ兵ヲ擧グ時ニ朝廷ハ滋賀宮ニ在リ大海人皇子依テ村國男依等ヲ美濃ニ遣ハシ高市大津ノ二皇子ヲ召シテ伊勢ニ會セシム東國ノ國司來屬スル者多シ朝廷之ヲ聞キ大ニ驚キ俄ニ兵ヲ諸國ニ徵スル者應ズルモノ少ナシ既ニシテ近江ノ將穗積百足ハ吉野ノ將大伴吹負ニ討タレ高坂王羽田矢國ハ吉野ニ降リ山部王蘇我果安ハ軍中ニ相殺ス故ニ近江軍ハ益々衰ヘ吉野勢ハ愈々振フ遂ニ兩軍瀬田川ヲ挾ンテ相陣ス近江軍ノ先鋒智尊能ク防戦セリ然レモ利アラズ衆大ニ潰ユ大臣等皆逃レ去ル天皇乃チ舍人ト共ニ山城ノ山前ニ走り終ニ親ラ縊レテ崩シ給フ在位僅ニ八ヶ月御年二十五明年(二三)二月大海人皇子大和ニ入り淨見原ノ宮ニ即位シ給フ天武天皇是ナリ

(八八)天武天皇ノ御治蹟如何

●淨見原朝廷ノ政トハ如何
●巡察使ノ始テ問フ

天武天皇天資聰明英武御心ヲ政治ニ留メ給ヒ治蹟ノ見ル可キモノ頗多シ即位ノ十年(四三)草壁皇子ヲ立テ、皇太子トナシ萬機ヲ攝セシメ親ク律令ノ撰修ニ從事ス次デ禁式九十二條ヲ發布ス又跪禮匍匐ノ禮ヲ停メ孝徳天皇ノ難波朝廷ノ禮ニ復シテ立禮ヲ用キラル又冠位ヲ改メテ諸王以上ノ位十二階諸臣ノ位四十八階トシ官職ノ高下ヲ明ニス天皇マタ從來ノ姓ヲ改メテ真人朝臣宿禰忌寸道師臣連稻置ノ八姓トナシ之ヲ諸氏ニ賜ヒテ其家格ヲ定メ又氏ノ上ヲ設ケテ氏族ヲ總轄セシム兵事ニ於テ最モ御心ヲ留メラレ兵政官ヲ太政官ノ次ニ置キ親王諸臣ニ詔シテ軍事ヲ獎勵ス十三年(四五)ニハ使ヲ諸國ニ遣ハシ國司郡司百姓ノ情狀ヲ巡察セシムコレ巡察使ノ始ナリ敬神ノ御志モ亦篤ク伊勢ノ齋宮ヲ復シ二十年毎ニ神宮改造ノ制ヲ立ツ其他上下ノ服色ヨリ男女ノ頭髮ニ至ルマデ凡テ風儀ニ關シ規定シ給ヘルコト多シ後世此朝ヲ稱シテ淨見原朝廷ノ政トイフ

(八九)大寶律令ノ制定トハ如何 (九〇)養老ノ律令トハ如何

文武天皇即位シ給フニ及ビ朝儀ヲ定メ制度ヲ立テ、頗ル改正スル所アリ即位ノ四年(六〇)刑部親王(一ニ忍壁)藤原不比等(二子)ニ勅シテ律令ヲ撰

定セシム翌大寶元年(六一)ニ至リテ始メテ成ル令十一卷律六卷アリ之ヲ大寶ノ律令トイフ翌年之ヲ天下ニ頒行シ明法博士ヲ諸道ニ遣ハシテ新令ヲ講ゼシム

其後元正天皇ノ養老二年(七三)ニ至リ太政大臣不比等マタ勅ヲ奉ジテ律令ヲ改修シ各十卷トス之ヲ養老ノ律令トイフ是レ後世マデ遵奉シ來レル法典ナリサレド大要ハ大寶ノモノト相同ジ律令ノ外ニ後ニ格式アリタリ此ノ律令頒布シテヨリ朝廷ノ儀式始メテ整ヒ中央集權ノ制度全ク成レリ

(九一)大寶律令ノ官制如何 (九二)大寶律令ノ祿制如何

中央政府ハ二官八省ヨリ成レリ神祇官ハ太政官ノ上ニ位シ神祇ノ事ヲ掌ルコレ即チ我國ノ古風ヲ存セシナリ太政官ハ今日ノ内閣ニノ太政大臣左右大臣大小納言以下百官アリ八省諸政ヲ分轄シ彈正臺五衛府其下ニ屬ス八省トハ中務ナカウケ式部、治部、民部、兵部、刑部、大藏、宮内ヲイヒ五衛府トハ衛門府、左右衛士府、左右兵衛府ヲイフ左右馬寮之ニ附ス京師ニハ左右京職アリ其下東西市司アリ以上ヲ中央政府トス之ニ屬ス八官ハ凡テ内官トイフ地方ニアルヲ外官トイフ地方ノ政ハ國司之ヲ掌リ郡司之ニ屬ス太宰

府ニハ又別ニ官人ヲ置キ防人オキモツカサ司其下ニ在リ
又俸祿ニハ數種アリ位階ニヨリテ賜フヲ封戸、位田、位祿ノ三種トシ職務
ニヨリテ賜フヲ季祿職封職田ノ三種トス又別ニ功田賜田アリテ文武ニ拘
ラズ有功ノモノニ賜ハレリ

(九三)大寶律令ノ田制及ビ租法如何

田制ハ大化ニ方五尺ヲ一步トシ長三十步廣十二步ヲ一段トシ十段ヲ一町
トス後大化以前ノ制ニ復シ大寶ニ至リテ再ビ大化ノ制ニ從フ凡ソ全國ノ
田地ハ之ヲ人民ニ班チテ耕作セシム即チ民生レテ六歲ニ至レバ男ハ二段
女ハ其三分ノ二ヲ受ク之ヲ口分田クフテトイフ死スレバ官ニ沒ス六年毎ニ收授
ヲ行フ班田收授ノ法是ナリ田ハ又肥瘠ニヨリテ三等ニ分ツ税法ニ三種ア
リ田ヨリ徵スルヲ租トイヒ戸ニ課スルヲ調トイフ布又ハ土宜ノ物ヲ以テ
正十一人ノ歲役ニ代フルヲ庸トイフ

(九四)大寶律令ノ兵制如何 (九五)大寶律令ノ學制如何

(九六)大寶律令ノ戶籍法如何
兵制ハ京師ニ五衛府アリ諸國ニ軍團アリ徵兵ノ法ハ全國ノ正丁三分ノ一

ヲ採リ比近ノ軍團ニ入ル弓馬ニ便ズルモノヲ騎兵トシ餘ヲ歩兵トス又民
ノ私ニ兵器ヲ蓄ブルコトヲ禁シ變亂ヲ未發ニ制セリ其都ニ出デ、宮闕ヲ
守ルモノヲ衛士トイヒ太宰府ニ派遣セラレテ外邊ヲ警備スルヲ防人オキモツカサトイ
フ一日緩急アレバ將軍副將軍軍監等任命セラレテ兵士ヲ統轄ス
學制ハ京師ニ大學諸國ニ國學ヲ設ケテ諸種ノ學藝ヲ教ヘ其業ノナルモノ
ヲ舉ゲテ官ニ任ズ然レモ一般ノ人民ハ入學ヲ許サレズ主トシテ官吏ノ子
弟ヲ教育スル所ノモノ、如シ

戶籍ハ六年毎ニ新造シ舊籍ハ三十年間保存ス尋常ノ公民ヲ良民トシ余ヲ
賤民トス賤民ニハ又陵戸官戸、家人公奴婢、私奴婢ノ別アリ良賤相婚嫁ス
ルヲ許サズ又人民ヲ年齡ニヨリテ黃少中丁老耆ノ六等ニ分チ調庸ヲ課ス
ルノ標準トナス

(九七)律令格式ノ別ヲ問フ

令トハ即チ天子ノ命令ニシテ勸戒ヲ主トシ律トハ今ノ刑法ニシテ違令ヲ
正スノ條項ナリ凡ソ官制學制等ヨリ一切法律上ノ制令ハ皆令中ニ含マレ
死以下ノ刑罰ハ皆律中ニ含マル律令ハ容易ニ變更スルコトヲ得ズ故ニ後

ニ至リ改正ノ要アルハ別ニ詔勅若クハ官符ヲ發シテ之ヲ定ム之ヲ格トイフ又官府ノ章程式制ヲ明示シ以テ法令ノ闕ヲ補ヒ遺ヲ拾ヒタルモノヲ式トイフ故ニ格式ハ律令制定以後ニ現出スルモノナリ

(九八)三代格式トハ如何

律令制定ノ後嵯峨清和醍醐ノ三帝ノ朝ニ各弘仁(大寶元年ヨリ弘仁十年マデ)貞觀(弘仁十一年ヨリ貞觀十年マデ)延喜(貞觀十一年ヨリ延喜七年マデ)ノ三格式ヲ撰バル之ヲ合セテ三代格式トイフサレド今日傳ラズ

(九九)奈良朝時代トハ何帝ノ御代ナルカ且其年代如何

元明天皇和銅三年(七一三)都ヲ大和ノ平城ニ遷シ左京右京ニ分チ帝都ノ規模ヲ大ニセリ是ヨリ元正聖武孝謙淳仁稱徳光仁ノ七代凡ソ七十五年間ノ帝京タリ世此間ヲ稱シテ奈良朝トイフ桓武天皇ノ延暦十三年(一四四)都ヲ山城ニ遷サレシヨリ廢都トナリヌ(或ハ又元明天皇ヨリ桓武天皇ノ延暦十二年チ入レ八代凡ソ八十五年間ヲ稱スル者アリ)

(一〇〇)錢貨鑄造ノ起源如何

古代我國ニテハ交易ノ媒乃チ通貨トシテ稻米帛等ヲ用キシガ元明天皇登極ノ初メ(六一三)武藏ヨリ銅ヲ獻ス因テ和銅ト改元シ鑄錢司ヲ置キ始メテ

銅錢ヲ鑄ス(一説ニ天武天皇ノ朝既ニ銀錢ヲ鑄スト)

(一〇一)長屋王ノ冤ヲ記セヨ

聖武天皇ノ天平元年(八九九)天皇大法會ヲ元興寺ニ舉行ス天武天皇ノ孫高市皇子ノ長子左大臣長屋王勅ヲ奉ジテ三寶ヲ供養ス一沙彌不法アリ王之ヲ撻ツ或者之ヲ讒奏シテ曰ク『王國家ヲ傾ケンコトヲ謀ル故ニ法會ノ日不善ヲ行フ』ト天皇崇佛ノ志深キヲ以テ大ニ怒リ藤原宇合等ヲ遣ハシテ王ノ第ヲ圍ミ翌日舍人親王等ヲ遣ハシ窮問シテ自盡ヲ賜フ御年四十六妃及ビ王子モ皆自殺ス世其冤ヲ哀ム又上毛野宿磨等王ト交通スルモノ七人坐セラレテ流ニ處セラル

(一〇二)聖武天皇崇佛ノ有様如何

聖武天皇崇佛ノ御志深ク天平十三年(七一四)諸國ニ詔シテ國分寺ヲ建テ國毎ニ僧寺尼寺各一ヲ置カシム當時水旱疾疫必ズ佛ニ祈ル事トセリ拜佛誦經ハ施政ノ一大方便ノ如クナリヌ又奈良ニハ東大寺ヲ建テ總國分寺トナシ長五丈三尺ノ金銅大佛(奈良大佛)ヲ鑄造シテ此ニ安置ス唐僧鑑真ニ就イテ戒ヲ受ケ沙彌勝滿ト稱シ自ラ三寶ノ奴ト稱セラル皇后光明子(藤原不比等ノ女)モ

亦篤ク佛ヲ信シ共ニ其興隆ヲ計リ給ヒシカバ佛法頗ル盛ナリ隨テ慈善ノ業モ伴ヒ起リ施藥院悲田院等ノ設立アリ然レモ其心醉ノ弊ハ或ハ長屋王ノ冤ノ如キ或ハ財用缺乏ノ如キ失政トナリ宮廷亂レ紀綱弛ミ終ニ奈良朝腐敗ノ基ヲ胚胎セリ

(一〇三)印刷術ノ起源如何

●孝謙天皇崇佛ノ有様如何

聖武天皇御位ヲ皇女孝謙天皇ニ讓リ給フ天皇亦篤ク佛法ヲ信シ東大寺大佛落成式ニハ一萬ノ僧ヲ會シテ齋會ヲ修ス重祚ノ後ニハ百萬ノ小塔ヲ造リテ中ニ印刷ノ經文ヲ藏メテ之ヲ諸寺ニ分ツ是レ我國印刷術ノ始ナリト

(一〇四)僧行基ノ功業ヲ叙セヨ

●神佛同體說ノ權輿ヲ問フ

聖武天皇ノ朝ニハ佛法興隆シ名僧漸ク輩出ス行基ノ如キハ其功業頗ル著シキ者ナリ行基衆生濟度ノ傍ニ道路ヲ開キ橋梁ヲ架設シ開墾疏通ノ事業ヲ計企シ所々ニ船津ヲ定メ又畿内五國ニ精舍ヲ建ツルコト四十九ヶ所ニ及ブ行基國利民福ヲ計ルコト此ノ如キヲ以テ道路渴仰スル者頗ル多ク天皇モ亦之ヲ信ズルコト深シ東大寺ヲ建立スルヤ行基與リテ功アリシカバ天皇始メテ大僧正トナシ大菩薩ノ號ヲ賜ハル行基マタ本地垂跡ノ說ヲ唱

ヘテ天照太神ハ盧舍那佛ノ化身トス以テ弘法ノ方便トセリ神佛同體ノ說此ニ權輿ス

(一〇五)藤原廣嗣亂ヲ起シ、始末如何

聖武天皇天平十二年(一〇四)藤原廣嗣亂ヲ起ス初メ天皇深ク佛法ヲ信シ僧玄昉ヲ内道場ニ入ル玄昉屢々說法ト稱シ光明皇后ニ近侍ノ頗ル醜聲アリ宮廷大ニ亂ル廣嗣(宇合)痛ク玄昉ヲ惡ム又吉備眞備ト協ハザルヲ以テ上表シテ時政ノ得失ヲ論ジ二人ヲ斥ケント請フ天皇許サズ却テ太宰少貳ニ貶セラレ妻ヲ京ニ留メテ獨リ任地ニ赴ク玄昉其間ニ廣嗣ノ夫人ヲ姦セントス廣嗣之ヲ聞キ益々怒リ再ビ上書シテ玄昉眞備ヲ除カント請フ又許サレス是ニ於テ九月廣嗣國中ノ兵ヲ徵シ入京シテ君側ヲ清メントス西海諸國皆之ニ應ズ朝廷謀反トナシ大野東人ヲ大將軍ニ紀飯麿ヲ副將軍ニ任シ東海東山山陰山陽南海五道ノ兵一萬七千ヲ發シテ之ヲ討タシム廣嗣事ノ成ラザルヲ知リ海ニ航シテ遁レントシ暴風ニ遭ヒテ果サズ官軍ノ虜トナリ遂ニ肥前ニ斬ラル余黨悉ク平グ後十七年(一〇五)ニ至リ玄昉筑紫ニ貶セラレテ死シ眞備亦孝謙天皇ノ朝貶セラレテ肥前守トナル時人之ヲ快ト

ス

(一〇六) 橘奈良麿廢立ヲ企テシ顛末如何

孝謙天皇御即位ノ後ニハ藤原不比等ノ孫仲麿ヲ寵任シ皇后官職ヲ改メテ紫微中臺トシ仲麿ヲ以テ紫微令トシ中衛大將ヲ兼テシメ委ヌルニ樞機ヲ以テシ威權甚ダ盛ナリ天皇マタ其言ヲ用ヒ皇太子道祖王(天武天皇ノ孫新田部親王ノ子)ヲ廢シ己レノ女婿大炊王(淳仁天皇)ヲ立ツ左大臣橘奈良麿仲麿ノ專横ヲ惡ミ廢太子及ビ長屋王ノ子安宿黃文ノ二王並ニ大伴古麿大野東人等ト謀リ仲麿ヲ除キ後廢立ヲ行ハントス會々事破レテ皆殺サル時ニ天平寶字元年(一七四)ナリキ

(一〇七) 院政ノ權興ヲ問フ

天平寶字二年(二八)孝謙天皇御位ヲ皇太子大炊王ニ讓ル之ヲ淳仁天皇ト申ス政太上皇ヨリ出ツ院中ノ政此ニ權興セリ

(一〇八) 藤原仲麿謀反ヲ起シ、顛末ヲ畧記セヨ

淳仁天皇即位シ給ヒ太上皇院政ヲ聽キ猶藤原仲麿ヲ愛シテ太保(右大臣ノ一名)トシ氏名ヲ惠美押勝ト賜ヒ正一位ニ叙ス此時河内ノ僧道鏡禪行ヲ以テ聞ユ

太上皇召シテ内道場ノ禪師トシ大ニ寵セラル天皇屢々諫ム故ニ太上皇ト隙アルニ至レリ押勝其寵ノ衰フルヲ見憤怨ニ堪エズ天平寶字八年(二四)九月遂ニ兵ヲ舉ケテ反ス朝廷其官爵ヲ褫ヒ使ヲ遣ハシテ三關ヲ固ム押勝黨與ヲ帥キテ近江ニ奔リ鹽燒王ヲ擁立シテ帝トス上皇藤原藏下麿ヲシテ之ヲ討タシム押勝等軍敗レ遂ニ誅ニ伏シ鹽燒王亦殺サル太上皇マタ天皇ヲ疑ヒ之ヲ廢シテ淡路ニ遷シ自ラ重祚ス稱徳天皇之ナリ明年(二五)廢帝淡路ニ崩ジ給フ

(一〇九) 藤原良繼ノ企謀ノ顛末ヲ略記セヨ

藤原良繼ハ式部卿宇合ノ第二子ナリ天平中兄廣嗣ノ事ニ坐シ伊豆ニ流サレ後赦ニ遇フテ還ル天平寶字中右中辨ニ補セラル時ニ藤原仲麿政ヲ專ラニシ三子並ビ參議ニ任ゼラル良繼其下ニ在リ内慚憤ヲ懷キ七年(二四)佐伯今毛人石上宅嗣大伴家持等ト密ニ仲麿ヲ除カンコトヲ謀ル事露レテ逮捕セララル良繼曰ク『吾獨リ謀首タリ他人ハ罪ナシ』ト乃チ大不敬ニ坐シテ姓ヲ除キ位ヲ奪ハル居ルコト一年仲麿叛イテ近江ニ奔ルヤ即日良繼ニ詔シ兵數百ニ將トシテ之ヲ擊タシム亂平グ正四位ニ叙セラレタリ

(一一〇)道鏡ノ大逆ヲ記セヨ
(一一一)和氣清麿ノ忠節ヲ述ベヨ

稱徳天皇ノ天平神護元年(二四)道鏡ヲ拜シテ太政大臣禪師トシ文武百官ニ勅ノ拜賀セシム二年又法王位ヲ賜ヒ法王官職ヲ置ク是ニ於テ道鏡ノ威權日ニ盛ニ出入鸞輿ニ乘リ服食一ニ供御ニ擬ス神護景雲三年(二九)太神主習宜阿曾麿道鏡ニ媚附シ宇佐八幡ノ神教ナリト矯リテ曰ク「道鏡ヲシテ天位ニ即カシメバ天下益々太平ナラン」ト道鏡之ヲ聞キ大ニ喜ビ自負ス天皇頗ル惑フヨリテ和氣清麿ヲ宇佐ニ遣ハシテ更ニ神教ヲ乞ハシム清麿發スルニ望ミ道鏡劔ヲ按シ威嚇シテ曰ク「若シ我ヲシテ志ヲ得セシメバ卿ヲ擧ゲテ太政大臣トナスベシ若シ我言ニ違ハハ重刑立ロニ身ニ及ブベシ」ト清麿宇佐ニ詣リ復命シテ曰ク「我國開闢以來君臣ノ分定マレリ未ダ臣ヲ以テ君トセルコトアラズ天日嗣ハ必ズ皇緒ヲ立ツベシ若シ天位ヲ窺竄スル無道ノモノアラバ速ニ之ヲ誅セヨ」ト憚リモナク之ヲ直言ス道鏡大ニ怒リテ其官ヲ解キ名ヲ穢麿ト改メ大隅ニ流シ尙人ヲシテ途ニ害セシメントス會々雷雨晦暝ニシテ果サリキ參議藤原百川其忠烈ヲ感ミ封

戸ヲ割イテ之ニ給ス然レモ清麿ノ一言ニシテ道鏡禪位ノコト全ク罷ム後光仁天皇即位ノ寶龜元年(四〇)ニ至リ坂上刈田麿道鏡ノ罪惡ヲ奏セシカバ下野ノ藥師寺ノ別當ニ貶セラレ清麿召シ還サレテ本官ニ復シヌ後チ累進シテ民部卿ニ至ル

(一二二)奈良朝時代ノ文藝發達ノ原因ヲ問フ
佛法傳來セシヨリ漢學モ亦漸ク盛ニナリ大化以後學校ノ設立遣唐使ノ往來留學生ノ派遣益々頻繁ニ赴キ大ニ我ガ學術宗教技藝ノ進歩ヲ促セリ當時唐土モ最盛ノ時代ニシテ其文物ノ流入ハ悉ク我ガ改革ノ主動者タラザルハナカリキ

(一二三)國史及ビ地誌ヲ撰修セシ始如何
推古天皇ノ二十八年(八〇)聖徳太子蘇我馬子ト共ニ天皇記國記等ヲ撰スサレド此等ノ書ハ蘇我氏ノ滅亡ト共ニ亡ビヌ天武天皇マタ修史ノ業ヲ始メ正史ヲ編セント欲ス時ニ舍人裸田阿禮トイフモノアリ頗ル強記古史ニ精通ス天皇乃チ勅シテ古事ヲ口授シ之ヲ誦習セシム會々天皇崩ジ其業中絶ス和銅四年(七一)ニ至リ元明天皇太安萬呂ニ勅シ阿禮ノ誦スル舊辭ヲ

撰錄セシム翌年ニ至テ成ル古事記三卷(神代ヨリ推古天皇ニ至ル)之ナリ和銅六年(一三三)ニ至リ畿内七道ニ令シテ國內ノ產物山川原野ノ名號ノ由來古老相傳ヲ舊聞異事ヲ誌シテ上ラシム名ケテ風土記トイフ本邦最古ノ地誌ナリ元正天皇ノ朝マタ舍人親王太安萬呂等ニ勅ノ國史ヲ撰修セシム養老四年(八〇三)成ル日本紀三十卷(神代ヨリ持統天皇ニ至ル)之レナリ其後平安朝ノ中頃ニ至ルマデ歷朝修史ノ舉アリ

(一一四)奈良朝時代ノ文學ノ有様ヲ略述セヨ ●五十音圖ノ作者如何
當時文學ノ主ナルモノハ漢文ニシテ國史律令モ亦之ヲ以テ書セリ和歌ハ實ニ此朝ノ文學ノ粹ニシテ孝謙天皇朝橘諸兄ノ撰ニ係リ後大伴家持ノ増補セル萬葉和歌集ノ如キハ健雄優婉實ニ我國ノ歌範タリ歌人ニハ柿本人麿山部赤人山上憶良大伴旅人等アリ留學生中ニハ阿倍仲麻呂備真備最モ才名アリ仲麻呂唐ノ玄宗ニ仕ヘテ顯官ニ登リ彼地ニ歿ス真備ハ歸朝ノ後大學博士トナリ五十音圖ヲ作ル之レ實ニ我國文學上ノ一躍ニシテ大ニ其面目ヲ新ニセリ

(一一五)奈良朝時代ノ美術工藝ノ進歩ヲ述ベヨ

佛法ト共ニ長足ノ進歩ヲナシタルヲ美術工藝トス佛像ノ彫刻鑄造繪畫ヨリ寺院ノ建築裝飾等ニ至ルマデ最モ壯嚴精美ヲ極ム是レ所謂天平式ノ工藝美術トテ今尙保存セラレ後世美術ノ模範トナレル者ナリ其他蒔繪織物等ノ美術モ進ミ玻璃石鹼ノ製造術モ既ニ開ケタリキ

(一一六)桓武天皇ノ平安奠都ノ次第ヲ叙セヨ

大化革新以來社會ノ事物次第ニ進歩シ帝都ト地方トノ關係ハ益々頻繁トナリ奈良ノ都ハ政令紊亂ノ餘ヲ受ケテ膨大セントスル社會ノ首都タルニ適セザリシカバ更ニ都ヲ遷サントノ御志アリ延曆三年(四四)山背國長岡ノ地ヲ相シテ宮城ヲ造ラシム十年ニシテ成ラズ因リテ延曆十三年(五四)更ニ宇多ノ地ヲトシ新都ヲ經營シ給ヘリ此地ノ形勢タルヤ山河襟帶自然ニ城ヲナセリ故ニ山背ヲ改メテ山城トシ平安城ト名ヅク實ニ今上天皇ニ至ル迄千有餘年ノ帝都タリキ

(一一七)平安城結構ノ概略如何

平安城ノ結構ハ平城ノ制ヲ擴張シタルモノニシテ規模宏壯東西千五百八丈南北千七百五十三丈アリ其中央ニ南北ニ通ゼル一大路アリ其幅二十八

丈之ヲ朱雀大路トイフ是ヨリ東ヲ左京トイヒ西ヲ右京トイフ各東西ニ通ズル九條ノ道路アリ大内裏ハ一條二條ノ中央ニ位シ四方ニ十二門ヲ設ケ皇居其中央ニアリ大極殿ヲ始メ諸官衙之ヲ圍ム今ノ京都ハ當時ノ左京ノミ殘レルナリ

(一一八)坂上田村麿ノ東陞鎮定ノ次第如何

齊明天皇ノ朝ニ阿倍比羅夫蝦夷ヲ平定シ東陞漸ク靜カナリシカド年ヲ經ルニ從ヒ又邊境ヲ騷ガス故ニ歷朝常ニ東北ノ經營ニ力ヲ用ヒ聖武天皇ノ朝ニハ藤原宇合ヲシテ之レヲ征セシム此時鎮守府將軍大野東人陸奥ニ多賀城出羽ニ秋田城ヲ築キテ鎮撫ノ策ヲ講ジタリ光仁天皇ノ朝蝦夷又亂レ藤原繼繩之ヲ征シテ平グルコト能ハズ桓武天皇ノ朝ニ及ビテモ大伴家持紀古佐美等亦之ヲ平グルコト能ハズ延曆十二年(一四)坂上田村麿ヲシテ東陞ヲ鎮定セシム田村麿勇武絶倫頗ル謀略ニ富ミ始メテ功アリシカバ十五年(一四)征夷大將軍ニ任ゼラレ再ビ大ニ蝦夷ノ巢窟ヲ殲シ夷酋五百人ヲ斬リ二城ヲ築キテ凱旋ス東北是ヨリ稍ヤ靜マレリ

(一一九)御謚號撰定ノ起源ヲ問フ

桓武天皇文章博士淡海三船ニ勅シテ神武天皇ヨリ光仁天皇ニ至ル御歷代ノ謚號ヲ撰定セシメ給フ爾後歷朝ノ諸帝ヲ稱スルニ宮號ヲ以テセズ專ラ謚號ヲ用フ

(一二〇)藥子ノ亂トハ如何

平城天皇病ヲ以テ御位ヲ皇太弟ニ讓ル之ヲ嵯峨天皇ト申ス上皇ノ寵姫尙侍藥子威柄ヲ弄シ兄藤原仲成ト謀リ上皇ヲ復祚シテ己レ后位ニ登ラント欲ス因テ弘仁天皇(七四)上皇ノ勅ヲ矯メテ都ヲ平城ニ遷サントス人心洶々タリ天皇因テ其官位ヲ奪ヒ宮外ニ擯ケ仲成ヲ捕ヘテ之ヲ誅ス上皇大ニ怒リテ兵ヲ舉ゲ藥子ト與ヲ同ウシテ東ス然レモ天皇既ニ坂上田村麿ヲシテ美濃路ヲ塞ガシム上皇進ムコト能ハス宮ニ還リテ薙髮シ藥子ハ毒ヲ仰テ死ス之ヲ弘仁ノ變トモ云フ

(一二一)文屋綿麿及ビ藤原保則ノ勳功ヲ叙セヨ

坂上田村麿東北ヲ鎮定セシカド尙其遺孽全ク盡滅セズ故ニ嵯峨天皇ノ弘仁二年(七四)征夷將軍文屋綿麿大ニ兵勢ヲ極メテ其巢窟ヲ覆ス其後陽成天皇ノ元慶中ニ至リ出羽ノ夷マタ叛シテ秋田城ヲ焚キシガ藤原保則乃チ

出羽權守トナリ威信ヲ示シテ之ヲ化セシカバ夷民大ニ歸服シ東北漸ク靜
カナリ

(一一三)藏人所設置ノ起源及ビ其職制ヲ問フ

藥子ノ亂以來嵯峨天皇大ニ鑑ミル所アリテ其年(弘仁元年)始メテ藏人所ヲ置
キ機密ノ文書及ビ訴訟ヲ掌ラシム頭二人アリ(初任ノ人ハ藤原冬實)常ニ樞機
ニ與ル是ヲ以テ權勢次第ニ増加シテ大小ノ公事其手ヲ經ザルモノナク詔
勅ノ外ニ内侍宣ヲモ發スルニ至リヌ

(一一三)檢非違使及ビ使廳設置ノ起源如何且其職制ヲ問フ

嵯峨天皇ハ朝廷ノ漸ク文弱ニ流レ政刑次第ニ弛緩スルヲ憂ヒ更ニ檢非違
使ヲ置キ盜賊ヲ逮捕シ非法ヲ糾彈スルコトヲ掌ラシメラレシガ次テ淳和
天皇ノ天長中ニ至リ始テ檢非違使廳(單ニ使廳トモイフ)ヲ置カル是ヨリ衛府彈正臺
刑部省等ノ職皆使廳ニ歸シテ大寶令ノ制漸ク變ジタリ

(一一四)平安時代ニ於ケル佛教宗派及ビ其興亡ヲ畧叙セヨ

初メ佛法傳來セシ時ハ未ダ宗派ノ稱ナカリシガ推古天皇ノ朝ヨリ奈良朝
ノ末ニ至ルマデニ三論(高麗)法相(智通)華嚴(唐)律(鑑)其他俱舍成實ノ

六宗交々起リ傳ヘラレシガ此朝時代ニマタ天台(最)眞言(法)ノ二宗起
リ凡テ八宗トナリヌサレド天台眞言ノ勃興シ本地垂跡ノ說益々流布スル
ニ至リ他ノ六宗ハ次第ニ衰ヘヌ

(一七五)最澄、空海ノ事蹟如何

●いろは歌ノ作者如何

最澄ハ近江ノ人ナリ桓武天皇ノ延暦二十三(一四)年入唐シテ天台山ニ登
リ教義ヲ道遠ニ學ブ歸朝ノ後天台宗ヲ弘ム又延暦寺ヲ比叡山ニ建テ、王
城鎮護ノ寺トス清和天皇ノ朝諡シテ傳教大師トイフ

空海ハ讃岐ノ人最澄ト同年ニ入唐シ眞言ノ教旨ヲ慧果ニ學ブ三年ニシテ
歸リ後嵯峨天皇ノ弘仁七年(七六)紀伊ノ高野山ニ金剛峯寺ヲ建テ、大ニ

眞言宗ヲ弘ム天皇特ニ空海ヲ信シ給ヒテ東寺ヲ賜ハリ教王護國寺ト改メ
京城ノ鎮トス醍醐天皇ノ朝諡シテ弘法大師トイフ空海最澄ハ實ニ我國宗
教界第一流ノ名僧ニシテ布教ノ傍ニ民利ヲ計リシコト彼ノ行基ニ讓ラズ
マタ本他垂跡ノ說ヲモ大成セリいろは四十七字ノ歌ハ空海金剛峯寺建立
ノ時ニ作レリト

(一二六)藤原氏ノ權勢ヲ得シ源因如何

●藤原氏四家トハ如何

藤原氏ノ權勢ヲ朝廷ニ得セシハ其由來スル所ニツアリ累代ノ勳功ト皇室ノ外戚之ナリ鎌足ハ天智天皇ト共ニ蘇我氏ヲ亡ボン中興ノ業ヲ輔ケシ大功ハイフモ更ナリ其子不比等ハ持統文武元明元正ノ四朝ニ歷事ノ大臣トナリ律令ヲ撰定シテ偉功アリ又其長女宮子ハ文武天皇ノ皇后トナリテ聖武天皇ヲ生ミ其三女安宿媛(光明子)ハ聖武天皇ノ皇后トナリテ孝謙天皇ヲ生メリ藤原氏はニ於テカ益々榮エ其子孫分レテ南家(武智)北家(房)式家(宇)京家(麻呂)ノ四家トナリシガ獨リ北家ノミ限ナク榮エ世々朝廷ノ重職ヲ占メ外戚ノ權ヲ恃ンデ他家ヲ抑制シ權ヲ專ニセントセリ然レモ當時ノ諸帝皆御年長シテ即位シ給ヒ政ヲ親セラレタルヲ以テ未ダ能ク專權ヲ擅ニスルニ至ラザリシガ清和天皇僅ニ九歲シテ即位シ給フニ及ビ其權勢俄ニ増加セリ之レ其源因ノ大畧ナリ

(一一七) 藤原冬嗣ノ事蹟ヲ問フ

曩キニ藤原氏ニハ押勝仲成ノ叛アリ其勢稍衰ヘシガ冬嗣北家ヨリ出デ其勢ヲ挽回セリ冬嗣器局温雅ニシテ頗ル見識ニ富ミ四朝ニ歷任ス嵯峨天皇ノ朝ニハ始メテ藏人頭トナリ淳和天皇ノ朝ニハ左大臣トナル嘗テマタ藤

氏ノ衰ヘンコトヲ慮リ勸學院ヲ創立シテ子弟ヲ教育シ興福寺ニ南圓堂ヲ建テ、福運ヲ禱リ又施藥院ヲ設ケテ親戚ノ貧窶ナルモノヲ養フマタ其子順子ヲ仁德天皇ニ納レ道康親王ヲ生ム文德天皇是ナリ

(一一八) 承和ノ變トハ如何

●橘逸勢ノ流サレシ所以ヲ問フ

仁明天皇ノ皇太子ヲ恒貞親王ト申ス承和七年(一〇五)淳和上皇崩ジ九年(一〇五)嵯峨上皇崩ジ給フ會々東宮帶刀伴健岑等太子ヲ奉ジテ亂ヲ東國ニ起サント讒スル者アリ天皇之ヲ信ジ太子ヲ廢シ健岑以下ヲ貶ス但馬權守橘逸勢モ亦黨與ト稱セラレテ遂ニ流サル是ニ於テ道康親王(文德天皇)立ツ之ヲ承和ノ變トイフ

(一一九) 惟仁親王ノ冊立及ビ藤氏攝政ノ起源ヲ向フ

●始メテ太政大臣ニナリシ

何人如
文德天皇天安二年(一一八)崩ジ皇太子惟仁親王立ツ清和天皇ト申ス初メ天皇長子惟喬親王ノ賢ナルヲ愛シ之ヲ儲貳トセントシ給フ然レモ良房ヲ憚リテ遂ニ果サズ枉ゲテ惟仁親王ヲ立ツ其御母ハ明子ニシテ實ニ良房ノ女ナリキ次デ良房太政大臣トナル人臣ニシテ此官ニ任セラレタルハ是ヲ初

トス天皇御年未タ幼ナルヲ以テ良房外祖ヲ以テ政ヲ攝ス三宮ニ準シ隨身兵仗ヲ賜フ人臣ノ攝政マタ此ニ始マレリ

(一一三〇) 藤原基經ノ廢立ヲ行ヒシコト及ビ關白ノ起源ヲ問フ

清和天皇御位ヲ陽成天皇(藤氏)ニ讓リ給フ時ニ御年十歳良房ノ養子基經(良房ノ兄ノ子)太政大臣トナリ攝政故ノ如シ天皇ヤ、長ジテ昏狂ナリシカバ基經之ヲ廢シテ光孝天皇ヲ迎ヘ立ツ人臣ニシテ天子ヲ廢立スルハ實ニ之ヲ始トス天皇即位ノ時御年已ニ五十六基經乃チ政ヲ還ス天皇特ニ勅シテ必ズ先ツ基經ニ諮稟シテ後ニ奏セシム天皇崩ジテ宇多天皇立ツ遺詔ヲ宣シ萬機悉ク基經ニ關白セシメ給フ關白ノ職實ニ此ニ始マル爾後攝政ヲ還サバ關白トナルヲ例トセリ

(一一三一) 攝政關白ヲ説明シ且其由來ヲ述ベヨ

攝政トハ天皇御幼冲ノ間ニ大政ヲ行フモノニシテ關白トハ天皇御成人ノ後萬機ヲ主ルモノナリ唯攝政關白ハ名ヲ異ニシ實務ニ於テハ毫モ異モナルコトナシ今ソノ由來ヲ釋ヌルニ仲哀天皇ノ崩後神功皇后ノ攝政ヲ始トシ推古天皇ノ朝ニ皇太子厩戸皇子攝政シ齊明天皇ノ朝皇太子中兄皇子攝

政シ給フ蓋シ人臣ノ攝政ハ良房ニ始マリ關白ノ稱基經ニ始マレリ(前問参照)

(一一三二) 阿衡ノ爭トハ如何 ●藤原基經ノ無禮ノ一斑ヲ記セヨ

宇多天皇ノ仁和末年藤原基經上表シテ關白ヲ辭ス許サレズ詔シテ宣ハク『社稷ノ臣ハ朕ノ臣ニアラズ宜シク阿衡ノ任ヲ以テ卿ノ任トスベシ』ト左大辨橋廣相之ヲ稿ス時ニ左少辨藤原佐世基經ニ告ゲテ曰ク『阿衡ハ位ナレバ職掌ナシ公ハ攝政ヲ遜レシナリ』ト基經因テ勅語ノ齟齬ヲ憤ル天皇大ニ憂ヒ諸博士等ヲシテ阿衡ノ職掌ヲ議セシム皆藤氏ニ阿付シテ議決セザルコト數月萬機悉ク澁滯セリ天皇屢々基經ニ諭サレシモ詔ヲ奉ゼズ諸公卿亦多クハ參朝セズ左大臣源融帝ニ勸メテ詔ヲ改メシム天皇慷慨枉ゲテ遂ニ從フ基經是ニ於テ又廣相ヲ罪ヒントス帝詔シテ之ヲ宥ム會々讃岐守菅原道真又書ヲ基經ニ上リテ利害ヲ陳ブ大臣ノ意漸ク解ケテ遂ニ詔ヲ奉ズ

(一一三三) 遣唐使廢止ノ次第ヲ問フ

遣唐使ハ舒明天皇以後孝德天皇ノ朝ニハ吉士長丹高向玄理文明天皇ノ朝ニハ粟田真人仁明天皇ノ朝ニハ藤原常嗣小野篁等歷朝常ニ派遣セラレ彼

我國際上ノ交通絶エザリシガ唐國亂ル、ニ及ビ此事亦漸ク衰フ宇多天皇ノ朝ニ菅原道真ヲ大使トシ紀長谷雄ヲ副使トシ唐ニ遣サントス道真其經費ノ巨額ニシテ危難亦多キヲ奏セシカバ此事遂ニ止ム

(一三四)菅原道真ノ謫流セラレシ次第ヲ叙セヨ

宇多天皇天資聰邁夙ニ藤原氏ノ專權ヲ惡ミ之ヲ抑制セント欲シ給ヒ乃チ菅原道真ヲ擢デ、藏人頭ニ補ス道真ハ野見宿禰ノ後裔ニシテ其祖父清公ヨリ文學ヲ以テ朝廷ニ仕フ道真賢明博識深ク治體ニ通ズ當時既ニ藤原基經薨シ其子時平マタ藏人頭トナリ道真ト相並シテ機務ニ參與ス醍醐天皇立チ給フニ及ビ時平左大臣トナリ道真右大臣トナル道真益々帝ノ寵眷ヲ辱フシ德望愈々盛ナリ法皇モ亦天皇ニ勸メテ道真ヲ重用シ議シテ關白タラシメントス道真固辭シテ動カズ然ルニ時平年少ク氣鋭ニシテ常ニ道真ト相合ハザリシガ此事ヲ漏レ聞キ意平カナラズ遂ニ大納言源光藏人頭藤原菅根等ト相謀リ道真ヲ天皇ニ讒ス帝之ヲ信シ大ニ怒リテ延喜元年(五一六)道真ヲ太宰權帥ニ貶シ其子二十三人ヲ流罪ニ處ス法皇驚キ救ハントシテ能ハズ道真配所ニ在リテ文墨ヲ友トシ延喜二年(六一五)遂ニ此ニ薨ズ

年五十九後世其冤ヲ歎ゼザルモノナシ朝廷其官位ヲ復シ一條天皇ノ朝正一位太政大臣ヲ贈ラル民間又思慕シ祠ヲ北野ニ建テ、天滿天神トイフ

(一三五)延喜ノ治トハ如何

醍醐天皇過ツテ菅原道真ヲ貶セシカド天資英明ニシテ深ク御心ヲ政治ニ留メ給ヒ普ク直言ヲ求ム會々三善清行封事ヲ上リ時弊ヲ論ゼシカバ帝之ヲ嘉納シテ乃チ祭祀ヲ肅ミ奢侈ヲ禁シ風俗ヲ矯正ス嘗テ寒夜ニ御衣ヲ脱シテ百姓ノ疾苦ヲ省ミ給ヒヌト後世治ヲイフモノ必ズ延喜ヲ稱ス

(一三六)天慶ノ亂トハ如何

●藤原秀綱平貞盛及ビ小野好古源經基ノ軍功ヲ擧ゲヨ

朱雀天皇ノ天慶二年(九一九)平將門下總ノ猿島ニ據テ反ス將門ハ葛原親王(平氏)ノ後ニシテ鎮守府將軍良將ノ子ナリ嘗テ藤原時平ノ弟忠平ニ仕ヘ檢非違使タラント請フ忠平省セス將門憤怒シテ東國ニ奔リ乃チ兵ヲ擧ゲテ伯父常陸大椽國香ヲ殺シ叔父下總介良兼ヲ亡シ上野下野上總武藏ヲ侵略シテ偽宮ヲ下總猿島ニ造リ自ラ新皇ト稱シ百官ヲ置キテ勢威盛ナリ此時ニ當リ伊豫椽藤原純友マタ南海ニ叛シ遙ニ將門ニ應ズ天慶三年(一〇〇〇)ニ至リ朝廷參議藤原忠文ヲシテ將門ヲ討タシム未ダ至ラザルニ國香ノ子

貞盛下野押領使藤原秀郷ト共ニ將門ヲ誅シ關東平グ純友ハ翌年南海道追捕使小野好古源經基ノ爲メニ誅セラレタリ之ヲ天慶ノ亂トイフ

(一三七)天曆ノ治トハ如何

朱雀天皇ニ嗣デ村上天皇立チ給フ帝銳意政ヲ勵ミ曾テ一老吏ニ問フテ宣ハク「朕ガ代ト延喜ノ朝ト得失如何」ト答ヘテ曰ク「賤吏何ヲカ知ラン唯主殿寮多ク松明ヲ費シ奉分堂ニ草ノ茂レルヲ見ルノミ」ト蓋シコレ政務滋クシテ歳入少キヲ諷セシナリ天皇大ニ愧ヂテ益々政治ヲ勵ミシカバ天下大ニ治マル後世治ヲイフ者必ズ延喜ト並ビ之ヲ稱ス

(一三八)安和ノ變トハ如何

冷泉天皇ノ安和二年(二九六)中務少輔橘繁延等爲平親王(村上天皇ノ第二子冷泉天皇ノ弟)ヲ擁立セシコトヲ謀リ事露レテ罪セラル始メ村上天皇藤原實賴ノ女ヲ納レテ三皇子ヲ生ム長子嗣デ立ツ之ヲ冷泉天皇トス此時村上天皇第二子爲平親王ヲ立テントス然レモ源高明ノ女ト婚スルヲ以テ藤原氏ヲ憚リテ果サズ崩ズルニ臨ミ實賴ヲ召シ爲平親王ヲ立テ、冷泉天皇ノ太子トセンコトヲ諭ス實賴勅ヲ奉ゼズ遂ニ三子守平親王(圓融)ヲ皇太弟ニ立ツ是ニ於テ橘

繁延ノ舉アリ左大臣源高明モ坐シテ太宰權帥ニ貶セラル之ヲ安和ノ變トイフ

(一三九)藤原兼通兼家トノ争ヲ記セヨ

圓融天皇即位シ給フニ及ビ藤原師輔子伊尹實賴ニ續テ攝政トナル其二弟兼通兼家相好カラズ伊尹疾ヲ以テ退クニ及ビ二弟職ヲ争フ兼通ノ妹ハ天皇ノ母后ナリ兼通之ニヨツテ天皇ニ迫リ關白トナル又其女ヲ納レテ皇后トシ專恣ヲ極ム會々兼通病篤シ兼家聞テ已ニ薨ゼリトシ入テ其職ニ代ラントス兼通大ニ怒リ病ヲカメテ朝シ兼家ノ官爵ヲ奪ヒ實賴ノ子賴忠ヲ以テ己レニ代ラシメ歸リテ後薨ズ

(一四〇)華山天皇御遜位ノ次第如何

藤原兼通ノ薨ズルヤ兼家亦其女ヲ圓融天皇ニ納レテ皇子懷仁ヲ生ム時ニ華山天皇位ニ在リ懷仁親王ヲ立テ、太子トス兼家乃チ太子ヲシテ早ク即位セシメ己レ朝權ヲ執ラント欲ス寛和二年(四六六)會々天皇寵姬恒子ヲ失ヒヤ、厭世ノ心アリシカバ兼家之ニ乘シ其子道兼ヲシテ深夜天皇ヲ誘ヒ華山ノ元慶寺ニ至リ遜位落飾セシメ奉リヌ是ニ於テ兼家懷仁親王(一條天皇)

ヲ立テ自ラ攝政トナリ大ニ奢侈ヲ極メタリキ

(一四一) 藤原道長ノ驕横ヲ記セヨ

一條天皇ノ朝ニ藤原兼家關白タリシガ長子道隆ニ子道兼五子道長次第ニ關白トナレリ殊ニ道長ハ三條後一條兩帝ヲ通ジテ關白トナリ三女亦三朝ノ后トナリ廢立一ニ其意ニ任シ威權赫灼富豐皇室ニ過グ嘗テ諸國ニ課シテ上東門ノ第ヲ營ミ令シテ曰ク「公事ヲ緩クスルモ此工事ヲ怠ルコト勿レ」ト晚年法成寺ヲ建ツ世ニ御堂關白トイフ又嘗テ述懐ノ歌ニ曰ク「此世をばわが世とぞ思ふ望月のかけたることもなしと思へば」ト以テ其驕奢專横ノ一斑ヲ知ル可シ

(一四二) 平安朝時代ノ文學ノ有様ヲ略叙セヨ

桓武天皇奠都以來天下泰平ナリシガバ文學ハ佛法ト共ニ進歩シ京都ノ大學地方ノ國學盛大ヲ致セリ其他私學私塾ノ設立モ亦多ク乃チ恒貞親王ノ淳和院僧空海ノ綜藝種智院和氣廣世ノ弘文院藤原冬嗣ノ勸學院橘氏公ノ學館院在原氏ノ獎學院菅原大江兩氏ノ文章院等顯ハレ何レモ漢學ヲ講習セシカバ其發達著カリキ上ハ嵯峨仁明兩帝殊ニ漢學ニ通ゼラレ兼明具平

二親王有智子内親王ノ如キハ最モ詩文ニ巧ナリキ其他碩學ニハ淡海三船清原夏野小野篁都良香菅原道真三善清行紀長谷雄等アリ著述ノ見ルベキモノモ亦少ナカラズ一方ニハマタ華奢ノ風盛ナルト假字ノ發明トニ伴フテ和歌和文特殊ノ進歩ヲナシ歌人ノ輩出奈良朝ヲ歴スル勢アリ其最モ有名ナルヲ紀貫之トナス延喜ノ朝貫之凡河内躬恒ト勅命ヲ奉ジテ古今和歌集ヲ撰ム之レ勅撰歌集ノ始ナリ其他僧正遍昭在原業平文屋康秀喜撰法師小野小町ハ貫之ト共ニ六歌仙ト稱セラル又閨秀ニハ紫式部清少納言赤染衛門和泉式部伊勢大輔等アリ歌文ニ長ゼリ就中紫式部才學最モ秀デ其源氏物語ハ清少納言ノ枕草紙ト共ニ國文ノ双璧ト稱セラル

(一四三) 平安京風俗腐敗ノ有様如何

奈良朝華美ノ風俗ハ遷都ト共ニ平安ニ移リ新京ノ風景ニ感化セラレ泰平無事ニ馴致セラレテ益々艶麗軟弱ニ流レ殊ニ宮人ノ間ニ甚ダシクナレリ蓋シコレ大寶ノ制規模膨大ニ過ギ官省事少クシテ官人多シ故ニ其勢自ラ百官ヲシテ無聊ニ苦シメ只管文藻容儀風俗ヲ講ズルニ至ラシメシナリ堂々タル政廳ニ於テハ眉ヲ畫キ齒ヲ涅スル宮人才媛ト相混ジテ觀花興月徒

ラニ歌舞遊樂ヲ事トシ聲色ヲ恣ニス彼ノ曲水ノ宴紅葉ノ賀其他五節句ノ如キハ多情ノ男女相通ズルノ好機ナリシガ如シ實ニ當時ハ文弱淫靡其極點ニ達シタル腐敗時代ニシテ倫常既ニ地ヲ拂ヘリ

（一四四）平安朝時代ノ工藝美術ノ有様如何

工藝美術ハ奢侈ノ風ニ伴ハレテ發達シ繪畫ニハ淳和天皇ノ朝百濟河成アリ宇多天皇ノ頃巨勢金岡アリ其後藤原爲氏基光出デ、大和畫ヲ起セリ書モ亦大ニ發達シテ嵯峨天皇僧空海橘逸勢ハ三筆ト稱セラレ小野道風藤原佐理藤原行成ハ三蹟ト稱セラレ共ニ古今ノ名手タリ其他彫刻術モ進歩シ曆術モ亦開ケ安倍晴明有名ナリキ

（一四五）武門武士勃興ノ起源ヲ述ベヨ

●藤原氏轉覆ノ原動力如何

平安朝時代京師ノ風ハ優柔安逸ニシテ太平日久シケレバ兵士ハ羸弱ニ流レ朝廷ノ宮人ハ日ニ爛雅風流ヲ事トシ最モ軍事ヲ賤ミ瀧口ノ武者東宮帶刀北面ノ武士等ヲ見ル一犬豕ノ如シ而シテ會々征討ノ事アレバ毎ニ將帥ノ任ヲ夫等一二ノ宗族ニ委ヌ彼等ハ又平常藤原氏ニ抑制セラレテ朝ニ立ツコト能ハズ慷慨恨ヲ吞シテ専ラ心ヲ武事ニ盡シ他日ノ有事ヲ待テリ其

征討ノ功ヲ次第ニ積ムニ及ビテマタ漸ク權勢ヲ地方ニ得ルニ至レリ是レ所謂武門ノ勃興ニシテ源平二氏ノ如キハ其錚々タルモノナリ又此時ニ當リ地方豪族土着ノモノハ土地人民ヲ私有シ最モ系統ヲ重シジ居地ノ名ニヨリテ苗字ヲ稱ヘ子弟隸僕ヲ養フテ私兵トシ家子郎黨ト稱ス以テ兵馬ヲ練リ威權ヲ逞ウス是レ所謂武士ナリ而シテ武門ハ是等ノ武士ヲ用キテ征討ノ功ヲ奏シ遂ニ天下兵馬ノ大權ヲ掌握スルニ至レリ此ノ如キ有様ナレバ老衰轉覆ニ傾キツ、アル藤氏何ゾ能ク少壯活潑ナル源平二氏ヲ抑制スルニ堪ヘンヤ其權ヲ失フニ至ルモ素ヨリ宜ナリト謂フベシ換言スレバ武門武士ノ爆發スルハ正ニ是レ藤門一族衰頹ノ原動力ナリキ

（一四六）刀伊ノ入寇ヲ記セヨ

●藤原隆家大藏種材ノ功ヲ記セヨ

後一條天皇ノ寬仁三年（七九六）刀伊（高麗ノ一部）ノ賊先ツ壹岐對馬ヲ侵シ尋テ筑前ニ寇シ被害頗ル多シ時ニ藤原隆家太宰權帥タリシガ大藏種材藤原明範等ヲ遣ハシテ之ヲ擊タシム賊遂ニ破レ走ル

（一四七）平忠常ノ反ヲ記セヨ

●源賴信ノ功ヲ記セヨ

後一條天皇ノ長元元年（八八六）上總介平忠常下總ニ反シ東國大ニ亂ル朝廷

檢非違使平直方ヲシテ之ヲ征セシム功ナシ因テ甲斐守源賴信ヲシテ討タシム賴信其子賴義ト共ニ討テ之ヲ平グ

(一四八)前九年ノ役ノ顛末如何

後冷泉天皇ノ天喜四年(一六七)陸奥ノ俘囚安倍賴時反ス坂上田村麿蝦夷ヲ征シテヨリ東陞漸ク治マリシガ賴時ニ至リ勢益々強ク俘囚ノ長トナリ白河關以北ノ地ヲ領シ貢賦ヲ輸サズ國守之ヲ攻メテ克ツト能ハズ頗ル驕豪ナリ因テ朝廷源賴信ノ子賴義ヲ鎮守府將軍トシ之ヲ討タシム兵結ビテ解ケザルト數年賴時流矢ニ中リテ死セシガ其子貞任宗任強悍ニシテ降ラズ賴義ノ子義家驍勇絶倫騎射ヲ能クシ向フ所敵ナシサレド攻戰尙未ダ止マズ康平五年(二三七)ニ至リ賴義出羽ノ會長清原武則トカヲ合セ貞任ノ死守セシ厨川ノ柵ヲ陷レテ之ヲ斬リ宗任ヲ降シテ邊境漸ク靜マリヌ此戰九年ニ互リシカバ前九年ノ役トイフ

(一四九)後三年ノ役ノ顛末如何

●源義家ノ事蹟ヲ叙セヨ

前九年ノ役ヨリ凡ソ三十餘年ヲ經テ堀河天皇ノ寛治元年(四一七)鎮守府將軍源義家清原家衡武衡ヲ討テ之ヲ平グリ初メ清原武則源賴義ニ從ヒテ

功アリ鎮守府將軍ニ任ゼラル其二子ヲ武貞武衡トイフ武貞ノ孫眞衡ニ至リ安倍氏ノ遺地ヲ領シ勢威盛ニシテ其族皆臣從ス然ルニ異母弟家衡兄ニ背キテ兵ヲ構フ叔父武衡マタ家衡ヲ援ケテ金澤柵ニ據リ奥羽復々大ニ亂ル此時義家陸奥守ヲ兼テタリシガ眞衡ヲ援ケテ家衡武衡ヲ討ツモ利アラズ會々義家ノ弟義光京師ヨリ至ル是ニ於テ兄弟力ヲ協セ遂ニ金澤柵ヲ陷レ家衡武衡ヲ殺シテ東陞悉ク平ギヌ此役三年ニ互リシカバ之ヲ後三年ノ役トイフ義家凱旋スルニ及ビ朝議之ヲ私闘トナシ敢テ願ミズ義家乃チ私地ヲ割キテ將士ヲ賞ス是ヨリ東國ノ武士益々源氏ノ恩威ニ服シ遂ニ幕府ノ設立ヲ見ルニ至レリ

(一五〇)後三條天皇ノ御治蹟如何

●宣旨升トハ如何

後三條天皇ハ後朱雀天皇ノ皇子ニシテ御母ハ三條天皇ノ皇女ナリ後一條天皇ノ皇女ヲ納レテ中宮トナス天資英明外戚ノ援ナクシテ御位ニ即クヲ得タリ夙ニ藤原氏ノ權ヲ恣ニシ綱紀日ニ弛ムヲ憤リ親ヲ萬機ヲ決シ勵精治ヲ圖リ給フ是ニ於テ政初メテ藤氏ノ手ヲ離レ一時朝憲ノ振興ヲ見ルニ至レリ天皇多年ノ積弊ヲ一掃セント欲シ源師房大江匡房ヲ登用シ延久元

年(二九)記錄所ヲ太政官ノ中ニ設ケ莊園ニ關スル訴訟ヲ親裁シ寛德二年(後朱雀天皇)以後ノ新莊園ヲ拘禁シ其券契ヲ調査シ又賣官(例ハ國司ノ任限ハ四年ナルモ權門勢家ニ財物ヲ入レテ其年限ヲ延バズ等ノ弊習ナリ)ノ弊習ヲ嚴禁ス天皇マタ親ヲ節儉ヲ行ヒ奢侈ノ弊風ヲ矯メ二年(一七)絹布ノ制ヲ定メ四年(一七)估價ノ法ヲ設ケ斗升ノ法ヲ立テ親ヲ量器ヲモ作り給フ所謂宣旨升是ナリ

(一五)莊園ヲ説明シ且其弊害ヲ述ベヨ

大寶ノ制百姓ヲシテ口分田ノ外ニ更ニ空閑ノ地ヲ開墾シテ私有スルコトヲ許ス是ヲ以テ京師ノ權門勢家ヨリ地方有力ノモノニ至ルマデ皆爭フテ山野ヲ拓キ私田トナスモノ多カリキ綱紀解體シ開墾亂雜ニ流ル、ニ從ヒ遂ニ公田ヲ掠メテ私田トナスニ至ルカクシテ私有ノ地ハ國郡ニ散在シテ公田ト區劃ヲ異ニシ別名ヲ與ヘ某ノ莊トイフ是レ則チ莊園ナリ莊園ハ全ク所有者ノ私地ナレバ賦租ヲ輸セズ國司モ之ヲ奈何スルコト能ハズ是ヲ以テ百姓ノ課役ヲ免レントスル者ハ皆莊園ニ集マリ甚ダシキハ私有ノ地ヲ權家又ハ寺院ニ獻ジテ已レ其地頭トナリテ其所獲ヲ私ス斯クノ如クニシテ班田ノ制破レ朝廷次第ニ土地人民ヲ失ヒ租庸ノ欠乏ヲ生ズルニ至レ

(一五二)白河法皇ノ院政ヲ記セヨ

白河法皇應德三年(四六)御位ヲ堀河天皇ニ讓リ落飾シテ法皇トナリ仙洞ニ在マセリザレド法皇始メテ院廳ヲ置キ別當ヲ其長官トシ又北面武士ヲ置キテ院ノ警衛ニ備ヘ政ヲ院中ニ聽キ給フコト堀河鳥羽崇德ノ三代四十年ノ久シキニ及ビ又其詔令ヲ院宣トイフ以テ天下ニ號令ス院宣ノ勢詔勅ヨリ重シ故ニ天皇ハ垂拱シテ成ヲ仰ギ攝政關白其權ヲ失フニ至レリ

(一五三)僧兵ノ起源及ビ其兇暴ノ一斑ヲ記セヨ

華山天皇ノ頃延曆寺ノ座主ニ良源トイフモノアリ頗ル機辨ニ長ズ嘗テ謂ヘラク『燒季ノ世人々佛法ヲ輕ンズ兵力ヲ以テ威伏スルニアラズンバ安ゾ能ク之ヲ保護スルヲ得ンヤ』トテ僧兵ヲ養ヘリ之ヲ其起源トス諸大寺亦之ニ倣ヒ數多ノ僧兵ヲ養ヒシカバ其勢力次第ニ增長シテ遂ニハ朝廷ヲ憚ラズ武人ヲ畏レズシテ暴行ヲ逞ウスルニ至リヌ奈良ノ東大寺興福寺ノ如キハ延曆寺園城寺ト相並ビテ南都北嶺ト稱セラルカクテ僧徒不滿ノ事アレバ叡山ハ日吉ノ神輿ヲ奉ジ興福寺ハ春日ノ神木ヲ動カシテ京師ニ噉

訴ス白河法皇嘗テ歎シテ宣ハク「天下ニ朕ガ意ノ如クナラザルモノハ鴨川ノ水双六ノ采及ビ山法師ナリ」ト以テ其兇暴ノ一斑ヲ知ル可シ後ニ源平二氏相争フニ及ビテカヲ僧兵ニ借ルニ至ル蓋シ其強勢ナリシヤ疑ナシ

(一五四)保元ノ亂トハ如何

鳥羽天皇在位十五年ニシテ御位ヲ崇徳天皇ニ譲リ法皇トナリテ院政ヲ聽クコト廿八年此時ニ至リ平安朝ノ腐敗其極點ニ達シ皇室内部ノ紛紜ヨリシテ遂ニ大亂ヲ天下ニ醸スニ至レリ法皇寵姫アリ美福門院トイフ其生ム所ノ體仁親王ヲシテ早ク即位セシメント欲シ天皇ニ迫リテ御位ヲ譲ラシム近衛天皇ト申ス御年僅ニ三歳崇徳上皇意平ナラズ既ニシテ天皇崩ズ上皇乃チ其子重仁親王ヲ立テントス攝政藤原忠道ノ弟賴長性險惡兄ト善カラズ頻リニ上皇ヲ輔ケテ事ヲナサントス然ルニ美福門院ハ近衛天皇ノ早世ヲ以テ上皇ノ呪詛ニ由ルトナシ法皇ニ勸メテ後白河天皇(法皇ノ四子雅仁親王)ヲ立テ又其皇子守仁ヲ太子トス是ニ於テ上皇ノ不平益々甚ダシク保元元年(一五六)鳥羽法皇崩ゼシカバ上皇遂ニ素志ヲ達セントテ賴長ト謀リ兵ヲ白河殿ニ集ム源爲義其子爲朝平忠正等共ニ召ニ應ズ爲朝夜討ノ策ヲ献ゼ

シカド賴長ノ爲メニ用キラレズ天皇モ亦美福門院及ビ忠通ト謀リ爲義ノ子義朝忠正ノ姪清盛等ヲ召シ義朝ノ策ヲ用キテ其夜白河殿ヲ襲ヒ燒カシム爲義等力戰支フルコト能ハズ軍終ニ破ル賴長流矢ニ中リテ薨ジ上皇薙髮シテ仁和寺ニ入り後讚岐ニ遷サル清盛自ラ忠正ヲ斬ル朝議マタ義朝ヲシテ爲義ヲ斬ラシメ爲朝ヲ伊豆ノ大島ニ流ス之ヲ保元ノ亂トイフ

(一五五)平治ノ亂トハ如何

保元ノ亂既ニ平ギテ未タ幾クナラス二條天皇ノ平治元年(一一八)ニ至リ藤原信賴源義朝ノ亂アリ初メ信賴後白河上皇ノ寵ヲ恃ミ近衛大將タラント請フ藤原信西(憲通)之ヲ諫止セシカバ信賴大ニ信西ヲ怨ム時ニ平清盛ハ信西ニ縁ヲ結ビテ其勢義朝ノ上ニ在ルヲ以テ義朝モ亦不平ナリキ是ニ於テ信賴義朝ト謀リ清盛ノ熊野ニ詣ル後兵ヲ舉ゲ上皇ヲ三條殿ニ幽シ天皇ヲ黒戸御所ニ遷ス信賴自ラ大臣大將トナリ義朝ヲ播磨守ニ任ズ又人ヲシテ信西ヲ殺サシム清盛變ヲ聞キ途ヨリ還リ天皇ヲ六波羅ノ第二迎ヒ奉ル上皇出デ、仁和寺ニ遁ル清盛其子重盛ト信賴義朝ヲ討ツ義朝軍敗レテ尾張ニ奔リ長田忠致ニ殺サレ信賴降リテ斬ラレ事平ギヌ之ヲ平治ノ亂トイフ

源氏ノ子弟前後ノ亂ニ相亡ビタリシガ獨リ義朝ノ三子頼朝清盛ノ繼母池ノ尼ノ請ニ因リ死ヲ免レ伊豆ニ流サル源氏はヨリ衰へ平氏榮ユ

(一五六)平氏ノ系統ヲ述ベ且其權ヲ得タル次第ヲ略叙セヨ

平清盛ハ忠盛ノ子ナリ其先ハ桓武天皇ヨリ出ツ天皇ノ皇子葛原親王ニ初メテ平姓ヲ賜フ親王ノ子ヲ高見王トイヒ高見王高望王ヲ生ム高望王以下國香貞盛維衡正度正盛等子孫相傳ヘテ忠盛ニ至ル其累代ノ中ニモ貞盛才武アリ天慶ノ亂ニ將門ヲ亡ボシ鎮守府將軍ニ拜セラレテヨリ世々將臣ニ任ゼラレ平氏ノ名武人間ニ重ゼラル其後忠盛白河鳥羽二上皇ニ仕ヘテ功アリ特ニ昇殿ヲ聽サル清盛又保元平治ノ戰功ニヨリ累進シテ權大納言ニ至ル此時ニ當リ藤原氏既ニ衰へ源氏モ亦其勢ヲ失ヒ獨リ平氏威權赫々政權其手ニ歸シ遂ニ兵馬ノ權ヲモ併有スルニ至リヌ之ヲ大政武門ニ歸スルノ始トス

(一五七)平氏ノ繁榮ヲ記セヨ

永萬元年(一五八)六條天皇即位シ後白河上皇ナホ院政ヲ聽キ給フ初メ平清盛其妻ノ妹ヲ上皇ニ納レ皇子憲仁ヲ生ム是ニ至リ立テ、太子トス既ニシ

テ清盛内大臣ヨリ從一位太政大臣ニ進ミ隨身兵仗ヲ賜ハル尋デ職ヲ辭シ薙髮シテ淨海ト號ス然レモ尙六波羅ニ居リテ政務ヲ聽ク世ニ太政入道トイフ天皇聽テ御位ヲ太子ニ讓ル高倉天皇ト申ス時ニ御年僅ニ八歳ニシテ上皇ハ五歳ナリキ清盛マタ藤原氏ノ如ク外戚トナリテ權ヲ擅ニセントシ其女德子(建禮門院)ヲ宮ニ入レテ中宮トナス此時ニ當リ其子重盛宗盛ハ左右ノ大將トナリ其他一門ノ朝官タルモノ六十餘人領地三十餘國ニ跨リ其繁榮古來比ナシ

(一五八)鹿ヶ谷評定ノ始末如何

後白河法皇平氏ノ專横日ニ盛ナルヲ見御心頗ル平ナラズ世人モ亦漸ク之ヲ怨ム治承元年(一三三)上皇ノ寵臣藤原成親藤原成經平康頼僧俊寛西光等ト鹿ヶ谷ノ山莊ニ會シ平氏ヲ滅サンコトヲ謀ル會々事泄レテ成ラズ清盛大ニ怒リ成親及ビ其黨ヲ流シ西光ヲ殺ス又法皇ヲ幽セントス其子重盛性忠亮父ノ專横ヲ憂ヒ切諫シテ之ヲ止ムザレド重盛薨ズルノ後清盛法皇ヲ鳥羽殿ニ幽シ關白藤原基房ヲ罷メ太政大臣藤原師長ヲ流シ法皇ノ近臣ノ官爵ヲ削ル天皇(高倉)モ亦快々トシテ樂マズ御位ヲ安徳天皇ニ讓リ給ヒヌ

(一五九)源賴政舉兵ノ始末如何
 源氏ハ平治ノ亂以後大ニ衰フルト雖モ源賴政獨リ宿將ヲ以テ京師ニ在リ
 平氏ノ兇暴ヲ坐視スル能ハス遂ニ治承四年(四一八)後白河法皇ノ皇子以仁
 王ヲ奉シテ兵ヲ舉ゲ園城興福二寺ノ僧徒ト相結ビマタ源義朝ノ弟行家ヲ
 シテ王ノ令旨ヲ諸國ニ傳ヘシム清盛其子知盛等ヲシテ賴政ヲ討タシム賴
 政宇治ニ走リ平等院ニ入りテ防戦セシカド利アラズ其子仲綱ト共ニ自殺
 シ以仁王ハ流矢ニ中リテ薨ジヌサレド王ノ令旨ニヨリテ諸源相繼デ蜂起
 セリ

(一六〇)源賴朝ノ舉兵ヨリ富士川ノ戰ニ至ルマデヲ略記セヨ

源賴朝平治ノ亂ニ死ヲ免レテ伊豆ニ在リシガ以仁王ノ令旨ヲ奉シ治承四
 年(四一八)兵ヲ伊豆ニ舉ゲ日代平兼隆ヲ殺シ石橋山ニ陣ス會々相摸住人大
 庭景親來リ攻ム源賴朝敗レテ安房ニ走ル既ニシテ三浦千葉等ノ豪族多年
 源氏ノ威信ニ服スルモノ來リ屬シ軍大ニ振フ是ニ於テ相摸ノ鎌倉ニ入り
 テ根據ヲコトニ定メ進ンデ駿河ニ至ル清盛嫡孫維盛忠度知盛等ヲシテ東
 海東山ノ兵ヲ率キテ之ヲ討タシム兩軍富士川ヲ挾ミテ相持ス一夜平軍水

禽ノ起ツヲ聞キ敵軍大ニ至ルトナシ惶惶戰ハズシテ潰走シヌ

(一六一)源義仲ノ舉兵ヨリ入京マデヲ略記セヨ

源義仲ハ義賢ノ遺子ニシテ賴朝ノ從弟タリ幼ニシテ乳母ノ夫中原兼遠ニ
 養ハレ木曾ニ長ズ夙ニ平氏ヲ滅サンコトヲ謀ル會々以仁王ノ令旨至ルヤ
 乃チ兵ヲ信濃ニ舉ゲ北陸ヲ殉ヒ兵勢甚ダ盛ナリ宗盛乃チ維盛ヲシテ義仲
 ヲ討タシム義仲之ヲ越中礪波山ニ邀ヘ撃チ全軍ヲ虜ニシ勝ニ乘ジテ西上
 ス而シテ以仁王ノ子北陸宮ヲ奉シテ延曆寺ニ據ル後白河法皇夜潛ニコト
 ニ幸シ給ヒシカバ平氏ノ一門震悚シ宗盛京師ニ止マルコト能ハズ遂ニ安
 德天皇及ビ三種ノ神器ヲ奉シテ西海ニ走ルコレ實ニ壽永二年(四二二)ノ事
 ナリキ法皇宮ニ還リ義仲行家ト共ニ京師ニ入ル義仲等各賞ヲ受ケ平氏ノ
 一門百八十餘人皆官爵ヲ奪ハレ又其莊園ヲ沒收セラレタリキ

(一六二)源義仲ノ兇暴及ビ其敗死ノ次第ヲ述ベヨ (宇治川ノ先 登下ハ如何)

源義仲一タビ兵ヲ信濃ニ舉ゲ北陸ヲ殉ヒ平氏ヲ西海ニ逐フテ入京セシ以
 來剛腹驕恣至ラザルナク且其兵士モ糧食ニ窮乏シ猥リニ市中ノ財物ヲ掠
 奪シ婦女ヲ凌辱セシカバ京人大ニ之ニ苦ム義仲マタ北陸宮ヲ立ツル能ハ

ザリシヲ憤リ法皇ヲ幽ス法皇因テ密ニ賴朝ヲ召ス義仲マダ法皇ニ迫リテ
賴朝ヲ討ツノ院宣ヲ請フ賴朝乃チ弟範賴義經ヲシテ兵ヲ率キテ西上セシ
ム義經始メ九郎ト稱ス鞍馬山ニ生長シ後陸奥ニ下ル劍技ニ熟シ兵法ニ通
ズ精悍敏捷タルコト神ノ如シ義仲之ヲ宇治川ニ防グ佐々木高綱等流ヲ亂
テ進ム義仲遂ニ敗走シ越前ニ至ラントシ粟津原ニ於テ死ス義經等勝ニ乘
ジ京師ニ入リヌ

(一六三) 平氏滅亡ノ次第ヲ略記セヨ

平氏源義仲ニ追ハル、ヤ安徳天皇及ビ三種ノ神器ヲ奉ジテ讚岐ニ走リ
(前問)行宮ヲ屋島ニ營ム既ニシテ南海山陽ノ將士來屬スルモノ多カリシ
カバ進ンデ攝津ノ福原ヲ復シ一ノ谷ヲ西門トシ生田ヲ東門トシテ城ヲ築
キ兵勢大ニ振フ法皇範賴義經ニ命ジテ之ヲ討タシム範賴東門ニ向ヒ義經
西門ニ向フ義經乃チ策ヲ立テ部將ヲシテ西門ニ當ラシメ自ラ間道ヨリ鷗
越ヲ下リテ城後ニ出デ火ヲ放チテ急ニ攻メシカバ宗盛等大ニ駭キ惶惶天
皇ヲ奉ジテ屋島ニ退ク重衡虜ニ就キ通盛忠度敦盛等戰没スルモノ多シコ
レ實ニ壽永三年(四八)ノ事ナリキ範賴更ニ進ンデ山陽ヲ討ツ義經颯ニ乘

ジテ屋島ヲ襲ヒ短兵急ニ接ス平軍マダ敗レ竟ニ天皇ヲ奉ジテ西海ニ從ヒ
長門壇ノ浦ニ漂泊セリ義經舟師ヲ以テ再ビ之ニ迫マリシカバ清盛ノ妻ニ
位ノ尼帝ヲ懷キ奉リ劔璽ヲ挾ンデ海ニ投ズ宗盛父子捕ヘラレ後鎌倉ニ斬
ラレ教經經盛知盛等皆戰歿ス義經乃チ神鏡神璽ヲ收メテ凱旋セリ神劍ハ
此時ニ沈ミヌ清盛政權ヲ執リシヨリコ、ニ二十七年ニシテ平氏滅ビヌ實
ニコレ壽永四年(一八)ナリキ

第五編 近古史

後鳥羽天皇ノ文治二年ヨリ後陽成
天皇ノ慶長七年マテ四百十七年間

(一六四) 鎌倉幕府ノ創立ヲ述ベヨ

安徳天皇ノ治承四年(四〇)源賴朝平軍ヲ富士川ニ奔ラス後居ヲ鎌倉ニ定
ムルヤ先ツ侍所ヲ置キ和田義盛ヲ別當トシ軍事及ビ警察ノ事ヲ掌ラ
シメ又政務熟達ノ士大江廣元中原親能ニ善康信ヲ京師ヨリ招キ公文所ヲ
設ケ廣元ヲ別當トシ親能ヲ寄人トシテ政事ヲ掌ラシメ後ニ政所ト改稱セ
リ又問注所ヲ設ケテ康信ヲ執事トシテ訟獄ヲ聞カシム是ニ於テ東國ノ士
民皆歸服ス平氏亡ビテヨリ此地政治ノ中心トナレリ後賴朝將軍トナルニ

及ビ其府ヲ稱シテ幕府トイフ

(一六五) 賴朝義經不和ノ始末如何

源義經精悍善ク戰ヒ義仲及ビ平氏ヲ亡ボシテ大功アリ頗ル朝廷ノ信任ヲ得官位頻リニ進ム賴朝ヤ、之ヲ嫉ミ又梶原景時ノ讒ヲ信ジ遂ニ土佐昌俊ヲシテ之ヲ殺サシメントス義經却テ昌俊ヲ殺シ行家ト共ニ法皇ニ迫リテ賴朝ヲ討ツ院宣ヲ受ク賴朝聞テ冤ヲ訴ヘシカバ法皇更ニ義經追討ノ院宣ヲ下ス既ニシテ行家和泉ニ殺サレ義經陸奥ニ奔リ藤原秀衡ニヨル秀衡卒スルニ及ビ其子泰衡賴朝ノ命ヲ受ケ義經ヲ殺ス後泰衡マタ賴朝ニ殺サレタリ

(一六六) 賴朝諸國ニ守護地頭ヲ置キタル始末如何

●武門執政時代ノ起源ヲ問フ

幕府創立ノ初メニハ平氏ノ殘黨猶處々ニ出沒シ又義經ノ如キ一ダヒ逃竄セバ容易ニ捕フル能ハズ賴朝之ヲ憂ヘ大江廣元ノ議ヲ用ヒ法皇ニ奏シテ諸國ニ守護ヲ置キ賊徒ヲ捕ヘシメ莊園ニ地頭ヲ置イテ租稅ヲ收メント請フ朝議之ヲ許ス賴朝乃チ其家人功臣ヲ以テ守護地頭ニ任ジ自ラ總地頭トナリテ之ヲ統轄セシカバ天下坐シテ制スルコトヲ得タリ是ヨリ大權全ク

鎌倉ニ歸シ武門執政時代茲ニ始マレリ

(一六七) 北條時政源賴家ヲ殺シタル次第ヲ畧述セヨ

賴朝薨シテ長子賴家嗣ゲ征夷大將軍トナル母政子賴家ノ狂躁事ニ堪ヘザルヲ以テ政ヲ聽カシメズ外祖北條時政大江廣元等ニ命ジテ庶政ヲ參與セシム建仁三年(一〇三三) 賴家病アリ政子時政ト謀リ賴家ヲ罷メ關東二十八國ノ地頭職并ニ總追捕使ヲ其子一幡ニ讓リ關西三十八國ノ地頭職ヲ其弟千幡ニ傳ヘントス賴家聞テ大ニ怒リ一幡ノ外祖比企能員ト謀リ北條氏ヲ滅サントス時政早ク之ヲ知り一幡能員ヲ殺シ賴家ヲ伊豆ニ幽シマタ人ヲシテ殺サシム是ニ於テ千幡ヲ立テ、將軍トス名ヲ實朝ト改ム時二十歳ナリキ

(一六八) 時政北條ニ幽セラレタル次第如何

實朝將軍トナルヤ時政其後牧氏ノ言ニ迷ヒ女婿平賀朝雅ヲ京師ヨリ迎ヘ實朝ニ代ヘントス政子之ヲ聞キ大ニ驚キ時政夫妻ヲ伊豆ノ北條ニ幽シ時政ノ子義時ヲシテ執權タラシム

(一六九) 大權北條氏ノ手ニ墜チシ次第ヲ略述セヨ

和田義盛舉兵ノ所以ヲ問フ

北條義時執權トナリ姦謀險惡最モ至リシカバ建保元年(七八)信濃ノ人泉親衡其專横ヲ憤リ千壽丸(賴家ノ三子)ヲ奉ジテ之ヲ滅サントス事露レテ逃亡ス侍所別當和田義盛ノ二子及ビ其姪此事ニ連ル義盛己レノ戰功ヲ以テ二子ノ罪ヲ容サレンコトヲ請フ幕府之ヲ許ス又其姪ヲ赦サント請フ幕府キカズ陸奥ニ流ス義盛大ニ北條氏ヲ憤リ兵ヲ擧ゲテ幕府ヲ圍ム戰敗シテ一族皆死ス是ヨリ先畠山重忠モ亦時政ニ殺サレ創立ノ功臣前後ニ滅シ獨リ北條氏威力ヲ逞ウス其後實朝公曉死シ源氏正統絶ヘ政子義時等相謀リ藤原賴經(賴朝姪ノ孫年二歳)ヲ京師ヨリ迎ヘテ將軍トナスニ及ビ大權全ク北條氏ノ手ニ歸セリ

(一七〇)鶴ヶ岡ノ變トハ如何

●源氏正統ハ何時斷絶セシヤ

建保六年(七八)實朝累進シテ正二位右大臣ニ拜ス翌承久元年(七八)正月拜賀ノ式ヲ鶴ヶ岡八幡社ニ行フ賴家ノ子僧公曉時ニ鶴ヶ岡ノ別當タリ常ニ父ノ故ヲ以テ實朝ヲ怨ム義時亦教唆スル所アリ是ニ至テ遂ニ實朝ヲ社前ニ弑ス實朝時ニ年二十八源氏ノ正統是ニ至テ絶エ賴朝大權ヲ執リシヨリ僅ニ三代三十五年ナリキ尋テ義時マタ人ヲシテ公曉ヲ殺サシメタリ

(一七一)源氏ノ系統ヲ畧記セヨ

源氏ハ其先清和天皇ヨリ出ツ天皇ノ皇子貞純親王始メテ源姓ヲ賜ハル親王ノ御子經基經基ノ子滿仲滿仲ノ子賴光賴信賴信ノ子賴義賴義ノ子義家義光義家ノ子義親義親ノ子爲義爲義ノ子義朝相傳ヘテ賴朝ニ至ル賴朝ハ乃チ義朝ノ第三子ナリ賴朝ノ子賴家實朝ニシテ其統絶ユ

(一七二)承久ノ亂トハ如何

承久三年(八八)順德天皇御位ヲ仲恭天皇ニ讓ル時ニ三上皇アリ後鳥羽上皇ヲ本院ト稱シ土御門上皇ヲ中院ト稱シ順德上皇ヲ新院ト稱ス本院夙ニ幕府ノ專横ヲ憤リ之ヲ滅サントスル御志アリ院ニ西面ノ武士ヲ増置シ親ヲ武技ヲ講ジ或ハ刀劍ヲ鍛ヒテ大ニ士氣ヲ鼓舞セリ實朝薨ズルニ及ビ政權當ニ王室ニ復歸セントス然ルニ義時異姓ノ幼穉ヲ擁シテ實權ヲ握リ幕府依然タリ是ニ於テ本院益々憤怨ニ堪ヘ給ハズ遂ニ院宣ヲ下シ鎌倉征討ノ師ヲ擧ゲ政子將士ト議シテ廣元ノ策ヲ用ヒ義時ノ子泰時時房ヲシテ大兵ヲ率キテ西上セシメ官軍ヲ宇治勢多ニ破リ遂ニ京師ニ入リテ天皇ニ迫リテ御位ヲ後堀河天皇ニ傳ヘシメ本院ヲ隱岐ニ中院ヲ土佐ニ(後ニ阿波ニ遷サル)

新院ヲ佐渡ニ遷シ奉リ又本院ノ二皇子ヲ流シ與謀ノ公卿六人ヲ斬リ且公家武家ノ所領三千餘個所ヲ沒シテ戰功ノ士ニ頒ツ之ヲ承久ノ亂トイフ

(一七三) 兩六波羅創立ノ真相如何

承久ノ亂鎮マルヤ北條義時ハ泰時時房ヲ京師ニ留メ府ヲ南北兩六波羅ニ開キ鎮撫ニ從事セシム蓋シ其意鎌倉ト氣脈ヲ通シ近畿西國ノ事ヲ掌リ要ハ朝廷ヲ牽制スルニ在リシナリ

(一七四) 北條泰時ノ治蹟如何 (一七五) 北條時賴ノ治蹟如何

後堀河天皇ノ元仁元年(八八)泰時父義時ニ嗣テ執權トナル人トナリ恭謙寛厚最モ治體ニ通シ評定衆ヲ置テ事ヲ衆議ニ決シ大ニ民心ヲ收ム又三善康連等ト議シ式目五十條ヲ制定ノ施政ノ方針ヲ示シ訴訟裁判ノ標準ヲ規定セリ世ニ之ヲ貞永式目トイフ之レ乃チ武家法度ノ初メトス泰時在職十八年海内ノ士民皆悅服セリ仁治三年(〇三)卒ス年六十泰時ノ子時氏早世シ孫經時職ヲ嗣グ將軍賴經ヲ廢シ其子賴嗣ヲ將軍トス經時病ヲ以テ弟時賴ニ職ヲ讓リ尋テ卒ス時ニ鎌倉ノ豪族三村光村泰村ノ叛アリ時賴之ヲ平ゲ後賴經ヲ廢シ宗尊親王(後嵯峨天皇ノ皇子御年十三)ヲ迎ヘテ將軍トス時賴治ニ勵ミ自

ラ節儉ヲ行ヒ百姓ヲ賑恤シ引付衆ヲ置テ庶務ヲ決セシム又使テ諸國ニ遣ハシテ民ノ疾苦ヲ問ハシメ後職ヲ子時宗ニ讓ルヤ自ラ行脚僧トナリ諸國ヲ巡察セシカバ風化大ニ行ハル世ニ最明寺殿ト稱ス弘長三年(二三)卒ス年三十七

(一七六) 文永ノ役トハ如何

龜山天皇ノ文永五年(二八)蒙古ノ主忽必烈高麗ヲシテ通好ヲ我ニ求メシム蒙古ハ支那ノ北方ナリシガ忽必烈其祖成吉思干ノ偉業ヲ繼ギ四方ヲ征服シテ遂ニ宋朝ヲ亡ボシ國號ヲ元ト改メ勢甚ダ猖獗ナリ蓋シマタ其餘勢ヲ以テ我ヲ威服セント欲セシナリ時ニ執權北條時宗彼ノ書辭甚タ不遜ナリトシ大ニ怒リテ答書ヲ罷メ使者ヲ放還ス元マタ使ヲ遣ハシテ答書ヲ求ムレモ更ニ應セズ西陲ノ守備ヲ警メ大ニ警戒スル所アリ元主其使者ノ屢々卻ケラルハ怒リ十一年(三四)遂ニ大兵ヲ發シ劉復亨等ヲ將トシ戰艦九百艘ヲ帥キテ來リ攻メ先ツ壹岐對馬ヲ襲ヒ進ンテ博多ニ迫ル鎮西ノ豪族少貳大友竹崎菊池松浦原田等力戰シテ之ヲ防ギ賊將劉復亨ヲ射殺ス元兵火器ヲ用ヒ我兵ノ死傷モ亦多シ會々大風起リ賊艦多ク漂没ス餘兵夜ニ

乘ジテ逃レ去ル之ヲ文永ノ役ト云フ

(一七七)弘安ノ役トハ如何 ●北條時宗ノ偉功ヲ記セヨ

文永ノ役ノ後元主マタ使ヲ遣ハシテ答書ヲ求ムルコト再度ニ及ビシガ時宗英斷ヲ以テ之ヲ斬リ西海諸國ニ令シテ沿海ノ警備ヲ嚴ニセシム元主其使者ノ悉ク殺サレタルヲ聞キ大ニ怒リ後宇多天皇ノ弘安四年(一九)大舉シテ來リ侵サシム其兵凡ソ十萬范文虎等之ニ將タリ又壹岐對馬ヲ侵シ進ンデ博多ニ寇ス龜山上皇大ニ之ヲ憂ヘ親ラ大廟ニ祈リ身ヲ以テ國難ニ代ラント請ヒ給ヘリ西國ノ兵皆太宰府ニ集マリ苦戰六十餘日河野通有等能ク防ギ戰フ賊利ヲ失ヒ上陸スル能ハズ會々閏七月大颶風俄ニ起リ數萬ノ賊艦悉ク覆没セリ少貳景資等又此機ニ乘ジテ殘兵ヲ掩撃シ遂ニ之ヲ慶殺ス元兵生キテ還ルモノ僅ニ三人ナリシトイフ之ヲ弘安ノ役トス

(一七八)大覺寺持明院兩統ノ起源ヲ問フ

後嵯峨天皇讓位ノ後院政ヲ聽キ給フコト二十六年二皇相繼テ即位ス後深草龜山兩帝是ナリ上皇常ニ北條氏ノ專横ヲ憤ルト雖モ志ヲ得給ハズ龜山天皇ノ英資ヲ愛シ深ク望ヲ屬スル所アリ崩ズルニ臨ミ遺詔シテ龜山帝ノ子孫ニハ永ク大統ヲ嗣ガシメ後深草帝ノ後ニハ多クノ莊園ヲ與フ後ニ至リ前者ヲ大覺寺統トイヒ後者ヲ持明院統トイフ是ニ於テ兩統分立ノ端緒ヲ開ケリ

(一七九)兩統更立ノ議トハ如何 ●五攝家トハ如何且ツ其起源ヲ問フ

龜山天皇ハ父帝ノ遺詔ヲ奉シ御位ヲ其子後宇多天皇ニ傳フ後深草上皇悅ハズ執權北條時宗ニ議リ其皇子伏見天皇ヲシテ後宇多天皇ノ後ヲ嗣ガシム時ニ時宗卒シ子貞時職ヲ嗣グ伏見天皇又御位ヲ其統ニ傳ヘント欲シ貞時ニ謀ル貞時乃チ伏見天皇ノ皇子後伏見天皇ヲ立ツ然ルニ後宇多上皇亦遺詔ニ違フヲ讓ム貞時遂ニ大覺寺持明院兩統十年毎ニ迭立セシムルヲ定ム是ニ於テ貞時俄ニ後伏見天皇ヲシテ上皇ノ皇子後二條天皇ニ傳ヘシメ後伏見天皇ノ皇弟(花園)ヲシテ儲貳トナス是ヨリ先キ時賴攝關ノ權ヲ分タン爲藤原氏ヲ近衛鷹司九條一條二條ノ五攝家ニ分チシガ如ク今又此政略ヲ皇室ニ應用シ其威嚴ヲ衰ヘシメタリ

(一八〇)北條高時ノ失政ヲ記セヨ

北條貞時ノ子高時父ニ嗣テ執權タリシガ性昏愚ニシテ意ヲ政事ニ留メズ

日夜飲宴ヲ事トシ田樂鬪犬等ノ遊戲ニ耽リ更ニ政事ヲ省ミズ内管領長崎高資之ニ乘ジテ權ヲ恣ニシ幕政大ニ紊ル既ニシテ高時病ニ罹ル高資勸メテ職ヲ辭シ入道セシム高資乃チ北條氏ノ族赤橋守時ヲ執權トセシカバ將士服セズ鎌倉ノ勢力是ヨリ大ニ衰ヘヌ

(一八一) 無禮講及ビ其結果如何

元應元年(七八)後醍醐天皇大覺寺統ヨリ入テ御位ニ即ク天資英邁深ク皇室ノ衰ヘルヲ憤リ快復ノ志アリ會々北條高時政ヲ失シ將士ノ心離レシカバ天皇日野資朝俊基等ト密ニ近畿ノ武人ヲ糾合シ討幕ノ謀ヲ回ラス會スルモノ皆鬻ヲ露ハシ髮ヲ散ラシ酒ヲ縱マニシ以テ歡心ヲ結ビ名ケテ無禮講トイフ美濃ノ人士岐賴貞多治見國長等之ニ與カル既ニシテ事顯ハレシカバ高時大ニ怒リ賴貞國長ヲ殺シ資朝ハ佐渡ニ流サレ俊基ハ鎌倉ニ下サレヌ高時マタ天皇ヲ廢セントス天皇大ニ驚キ誓書ヲコレニ賜ヒ事漸ク鎮マル

(一八二) 元弘ノ亂トハ如何

後醍醐天皇討幕ノ志益々切ナリシカド當時ノ武人ハ皆幕府ニ黨シ皇室ニ

盡スモノナカリシカバ天皇叡山南都ノ僧徒ニ依ラント欲シニ皇子尊雲(大塔)尊澄ノ兩親王ヲ天臺座主トシマタ屢々諸寺ニ幸シテ僧兵ト結ブ幕府之ヲ知リ元弘元年(一八)八月高時ニ階堂貞藤ヲシテ大兵ヲ率キテ西上セシム天皇藤原藤房等ヲ從ヘ神器ヲ擁ノ陰ニ笠置山ニ幸スコノ時河内ノ楠木正成叡旨ヲ奉ジテ赤坂城ニ據リ天皇ヲ迎ヘントス既ニシテ賊兵遂ニ笠置ヲ陷レ天皇ヲ捕ヘテ京師ニ還リ六波羅ニ幽シ後伏見天皇ノ皇子光嚴天皇(持明院統ニシテ史家正統ニ加ヘズ)ヲ擁立ス尋テ高時後醍醐天皇ヲ隱岐ニ遷シ諸皇子ヲ流シ俊基等ヲ斬ル之ヲ元弘ノ亂トイフ

(一八三) 北條氏滅亡ノ次第ヲ略述セヨ

元弘ノ亂ニ笠置ノ行在脆クモ六波羅探題北條仲時時益等ノ爲メニ陷サレ後ニハ又赤坂城モ落チシカド楠木正成奇計ヲ以テ直ニ之ヲ回復シ攝河泉ヲ徇ヘ更ニ千早城ヲ金剛山ニ築ク尊雲法親王モ亦還俗シテ名ヲ護良ト改メ吉野ニ據ル令旨ヲ四方ニ下シ勤王ノ師ヲ徵セシカバ赤松則村等多ク起レリ元弘三年(一九)高時又阿曾時治大佛高直ニ階堂貞藤等ヲ將トシ大軍ヲ發シテ西上セシム賊軍直ニ又赤坂吉野ヲ陷レ千早城ヲ圍ム總軍八十萬

正成能ク守リ城固クシテ拔ケス是ニ於テ勤王ノ士風ヲ望ンテ四方ニ起リ皆正成ニ應ズ此時後醍醐天皇ハ隱岐ニ在リテ勤王ノ師四方ニ起レリト聞キ源忠顯ヲ從ヘテ潛ニ伯耆ニ幸ス名和長年乃チ天皇ヲ奉ジテ船上山ニ據ル近國ノ兵多ク來附ス天皇忠顯ヲシテ京師ヲ討タシム高時之ヲ聞キ足利高氏ヲシテ六波羅ヲ援ケシム然レモ高氏急ニ反シテ官軍ニ降リ忠顯ト共ニ却テ六波羅ヲ陷ル兩探題北條仲時時益近江ニ走リテ自殺ス是ヨリ先新田義貞護良親王ノ令旨ヲ奉ジテ義兵ヲ上野ニ舉ゲ五月一族ヲ率キテ鎌倉ヲ攻ム高時諸將ヲシテ之ヲ防ガシメシモ皆悉ク敗レヌ義貞破竹ノ勢ヲ以テ鎌倉ニ進撃シ火ヲ幕府ニ放ツ死傷算ナシ高時一族二百八十餘人ト東勝寺ニ入り皆共ニ自殺ス時ニ元弘三年(一九三)五月二十二日ナリキ頼朝府ヲ開キシヨリ茲ニ百四十九年北條氏鎌倉幕府ト共ニ亡ビヌ

(一八四) 鎌倉時代ニ於ケル新佛教派ノ勃興ヲ記述セヨ

此時代ニハ天臺眞言ノ二宗モ漸ク衰ヘテ新派ノ佛教相續イテ生ゼリ(第一)淨土宗ハ高倉天皇ノ朝僧源定(法然上人)ノ創スル所ニシテ京都智恩院ヲ本山トス(第二)眞宗(一向宗又淨土眞宗)ハ源定ノ弟子範宴(親鸞上人)淨土宗旨ヲ簡易ニ

シテ一派ヲ開キ肉食妻帯シテ佛教ヲ説ク其女覺信尼ハ本願寺ノ開祖ナリ(第三)禪宗ハ後鳥羽天皇ノ朝備中ノ僧榮西(千光國師)宋ヨリ歸リテ禪宗臨濟派ヲ傳ヘ建仁寺ヲ京師ニ建テ其開祖トナレリ其弟子道元亦宋ヨリ歸リ禪宗曹洞派ヲ傳ヘ永平寺ヲ越前ニ建テ其派ノ本山トス(第四)法華宗(日蓮宗)ハ後深草天皇ノ朝安房ノ僧日蓮眞言宗ヨリ出テ專ラ法華題目ヲ唱ヘテ他宗ヲ排斥シマタ安國論ヲ作り元寇ヲ豫言ス後ニ甲斐ノ身延山ヲ開キ久遠寺ヲ建テ其本山トス(第五)時宗ハ後宇多天皇時代ノ人僧智眞(一蓮上人)ヨリ始マリ諸國ヲ行脚シテ念佛ヲ勸進ス所謂山伏ノ派是ナリ(第六)普化宗モ智眞ト同時代ノ人僧覺心ノ創ムル所ニシテ臨濟宗ノ一派ナリコレ虛無僧ノ始メナリ

(一八五) 鎌倉時代ニ於ケル學問ノ有様如何

武門執政ノ結果トシテ學問ハ武藝ノ爲メニ壓セラレ僧侶獨リ書ヲ講ジ筆ヲ執レリ故ニ武人ハ僧侶ヲ顧問トシ子弟ハ皆寺院ニ入りテ文字ヲ習ヒ實語教童子教ノ類ヲ學ブ後世寺子屋コヽニ權輿セリ又此時代ニハ小野篁ノ創建ニカヽル下野ノ足利學校北條實時ノ金澤文庫アリテ和漢ノ書ヲ集メ

講學者ノ便ニ供セリ是ヨリ先遣唐使廢止セシ以來(前問)漢學漸ク衰ヘ當代ニ於テ益々頽レタリサレド和歌和文ハ盛大ニ赴キ歌人ニハ藤原俊成其子定家隆僧西行鴨長明等傑出セリ從テ著書ノ見ルベキモノモ多ク顯ハレタリキ

(一八六)鎌倉時代ニ於ケル工藝美術ノ有様如何

此時代ニ於テハ奈良平安朝ノ如キ優柔軟弱ノ風藤原氏ノ傾覆ト共ニ一掃セラレ質素勤儉ヲ尊ビシ結果工藝美術ノ進歩ハ著シカラズサレド武人勃興シ武技盛ナルニ伴ヒ刀劍鍛冶ノ術最モ進歩セリ後鳥羽天皇ノ如キハ親ラ刀劍ヲ作ラセラル後ニ名工各地ニ顯ハレ粟田口吉光岡崎正宗郷義弘ノ如キハ最モ有名ニシテ三作ノ名アリ其他彫刻ニハ運慶子湛慶アリ繪畫ニハ土佐光長藤原信實ノ如キ倭畫盛ナリシガ後ニハ宗光ノ風傳ヘラル又尾張ノ人加藤景正ハ僧道元ニ隨フテ宋ニ往キ製陶ノ術ヲ學ビ歸朝ノ後瀬戸燒ヲ尾張ニ創ム又茶ハ僧榮西ガ支那ヨリ傳ヘテ筑前ニ植エシトイフ

(一八七)建武中興ノ大畧如何

元弘三年(一九)六月後醍醐天皇船上山ヲ發シ巡狩還幸ノ儀ニ從ヒ入京シ

テ光嚴帝ヲ廢シ正慶ノ年號ヲ元弘ニ復シ翌年建武ト改ム天皇既ニ海内統一スルヲ以テ中興ノ政ヲ布ク乃チ關白ヲ廢シテ記錄所ヲ置キ親ヲ萬機ヲ決ス又雜訴決斷所武者所ヲ開設シ尋テ論功行賞ノ沙汰アリ護良親王ヲ征夷大將軍トシ成良親王ヲ上野大守トシテ鎌倉ヲ鎮セシメ足利直義ヲ以テ相模守トシ之レヲ輔ケシメ北畠顯家ヲ陸奥守トシ結城宗廣ト共ニ義良親王ヲ奉ジテ陸奥出羽ヲ鎮セシメ又諸將ノ功ヲ賞シテ各地ノ守護トナス足利尊氏第一タリ新田義貞楠木正成名和長年等之ニ次グ是ニ於テ天下再ビ朝命ヲ奉ズルニ至ル時ニ建武元年(一九)ナリシカバ之ヲ建武中興トイフ

(一八八)建武中興ノ業衰ヘシ原因如何

●我國紙幣ヲ用ヒシ始如何
海内既ニ統一セシカド積弊俄ニ革ムベカラズ然ルニ後醍醐天皇素志遂ゲ給ヒテヨリ漸ク政ニ倦ミ大ニ土木ヲ起シ財政窮乏セシカバ新錢ヲ鑄又始メテ紙幣ヲ發行ス民之ヲ厭フ剩ヘ嬖臣ノ内奏盛ニ行ハレ賞與濫出屢々勳功ニ伴ハズ是ニ於テ將士頗ル王政ヲ忌ミ幕府ノ再興ヲ望ムニ至レリ

(一八九)足利氏ノ奸惡ヲ記述セヨ

●護良親王ノ遭難ヲ記セ
足利尊氏性奸黠機敏建武ノ政衰フルニ乘シ陰ニ異志ヲ挾ム護良親王英明

達識早クモ之レヲ知リ除カントスルニ尊氏却テ天皇ノ寵姫廉子ト結托シテ親王ヲ讒シテ鎌倉ニ流ス建武二年(九五)北條時行(高時ノ子)叛シ鎌倉ヲ攻ム直義敗レテ成良親王ヲ奉ジテ西ニ走ル其時人ヲシテ護良親王ヲ弑セシム時ニ尊氏京師ニ在リ奏シテ時行追討ヲ請フ朝廷之ヲ許シ、カバ尊氏直義ト共ニ往テ時行ヲ破リ鎌倉ニ入ル朝廷詔シテ尊氏ニ軍ヲ旋サシム尊氏詔ヲ奉セズ遂ニ反シ自ラ征夷大將軍關東管領ト稱シ義貞ヲ誅スルヲ以テ辭トス天皇震怒尊氏直義ノ官爵ヲ削リ義貞ヲシテ尊良親王ヲ奉ジ之ヲ討タシム

(一九〇) 足利尊氏直義ノ九州ニ奔リシ次第如何

新田義貞尊良親王ヲ奉ジテ關東ニ向ヒ迎戰敵ヲ破リテ箱根ニ至リシガ義貞ノ弟義助竹ノ下ニ敗レシヨリ官軍大ニ亂レテ退ク尊氏子義詮ヲ鎌倉ニ留メ直義ト共ニ長驅シテ京師ヲ犯ス天皇延曆寺ニ幸ス會々源顯家結城宗廣等義良親王ヲ奉ジテ西上シ義貞楠木正成名和長年等ト力ヲ合セ大ニ尊氏ノ軍ヲ破リシカバ尊氏兄弟九州ニ奔リ再舉ヲ計ラントス

(一九一) 湊川ノ戰ニ關シテ如何

足利尊氏九州ニ奔リ少貳大友等ノ力ニヨリ菊池武敏ヲ破リ勢甚ダ熾ンナリシカバ延元元年(九六)五月尊氏ハ舟師七千艘直義ハ步騎二十萬ヲ率キ水陸並ビ東上ス新田義貞義助退イテ兵庫ヲ守ル天皇之ヲ聞キ楠木正成ニ命ジテ應援セシム正成策ヲ獻ジテ曰ク「暫ク車駕ヲ叡山ニ移シテ賊ヲ一タビ入京セシメ後義貞ト之ヲ夾擊セン」ト朝議之ヲ用ヒズ正成是ニ於テ決心スル所アリテ發ス櫻井驛ニ至リ其子正成ヲ誡ムルニ賊ヲ滅シ天下ヲ匡濟センコトヲ以テ進ンデ湊川ニ陣ス直義ト戰フテ利アラズ弟正季等ト自殺ス年四十二

(一九二) 南北朝分立ノ次第ヲ問フ

●源顯名和長年ノ戰死ヲ記セヨ

延元元年(九六)正成湊川ニ死シ義貞マタ軍敗レテ京師ニ還ル車駕再ビ叡山ニ幸ス已ニ尊氏入京シ行宮ヲ攻ム源忠顯名和長年等之ニ死ス是ニ於テ尊氏持明院派ノ光明天皇(後伏見天皇ノ子)ヲ擁立シ後奸計ヲ以テ後醍醐天皇ヲ迎ヘテ花山院ニ幽シ神器ヲ新主ニ傳ヘント請フ天皇乃チ偽器ヲ授ケ親ラ神器ヲ擁シテ潜ニ吉野ニ幸ス楠木正行和田正朝等其行宮ヲ衛ル之レ實ニ十二月ノコトナリキ是ヨリ大覺寺統ハ吉野ニ在リ之ヲ南朝トイヒ持

明院統ハ京都ニ在リ之ヲ北朝トイフ是ニ於テ皇室遂ニ兩分ス

(一九三)南北兩朝分立ノ年間ヲ記シ且各皇位繼承ヲ圖示セヨ
南朝ハ後醍醐天皇ノ延元元年(九五)ヨリ後龜山天皇ノ元中九年(二〇)ニ
至ル迄五十七年間ニシテ北朝ハ光明天皇ノ曆應元年(九七)ヨリ後小松天
皇ノ明德三年(二〇)ニ至ル迄五十六年間ナリトス

南朝 後醍醐^{九六}—後村上^{九八}—長慶^{九九}
後龜山^{九九}

北朝 後伏見^{九三}—光嚴—崇光^{一〇〇}
光明—後光嚴—後圓融—後小松

(一九四)金ヶ崎城ノ苦戰ヲ略記セヨ

初メ後醍醐天皇ノ京師ニアルヤ新田義貞ヲシテ皇太子恒良親王及ビ尊良
親王ヲ奉ジテ越前ニ赴キ北陸ヲ經營セシム義貞往テ金ヶ崎城ニ據ル延元
二年(九七)三月足利高經之ヲ圍ム城遂ニ陷リ皇太子捕ヘラレ尊良親王及

ビ義貞ノ子義顯等自殺ス後ニ皇太子成良親王ト共ニ尊氏ノ爲メニ毒殺セ
ラル

延元三年(九八)閏七月義貞高經ヲ足羽城(越前)ニ攻メ尋テ藤島ヲ攻ム流矢
ニ中リテ戰没セリ義貞舉兵ヨリ茲ニ六年遂ニ王事ニ斃ル年三十八

(一九六)北畠顯家ノ事蹟如何
延元三年(九八)北畠顯家ハ義良親王(後村上)ヲ奉ジテ陸奥ニアリ兵勢大ニ
振フ乃チ西上シテ鎌倉ヲ攻メ足利義詮ヲ破リシガ後高師直ト和泉ノ境浦
ニ戰フテ死ス

(一九七)四條畷ノ戰ヲ記セヨ
後村上天皇即位シ給フヤ楠木正行能ク櫻井ノ遺訓ヲ體シテ行在ヲ衛リ屢
々賊軍ヲ擊破シ兵勢大ニ振フ正平三年(二〇)正月高師直師泰大兵ヲ率キ
テ南方ヲ犯サントス正行之ヲ四條畷ニ拒ギ激戰シテ死ス年廿三

(一九八)北畠親房ノ事蹟如何
北畠親房ハ貞平親王ノ後ナリ親房文武ノ才アリテ後醍醐後村上ノ兩朝ニ
事ヘ將相ノ任ヲ負ヒ經營奔走知ンド二十年流離艱難未ダ嘗テ王室ヲ忘レ

ズ攻戰ノ餘暇ニ職原抄古今集註東家秘傳等ヲ著シ又神皇正統記ヲ著シテ南朝ノ正統ナル所以ヲ明ニス正平九年(二四〇)薨ズ

(一九九)足利幕府(室町幕府)ノ成立及ビ其内訌ヲ記述セヨ

足利尊氏光明天皇ヲ擁立シテ既ニ兵馬ノ權ヲ握リ建永式目ヲ制シテ施政ノ方針ヲ定メ延元三年(北朝曆應元年一九九八)八月征夷大將軍トナリ弟直義ハ副將軍トナル乃チ幕府ヲ京都室町ニ開ケリサレド尊氏元來權謀詐術ニ富ミ一タビ機ニ投ジテ意ヲ達シ頗ル驕慢ナリシカバ部下叛服常ナク直義ハ執事高師直ト隙アリ之ヲ除カントス師直却テ尊氏ヲ脅シ直義ヲ斥ク直義是ニ於テ南朝ニ歸順ス尊氏乃チ義詮ヲ鎌倉ヨリ召シ政ヲ執ラシム直義兵ヲ率キテ京師ヲ攻ム次テ尊氏ト和シ師直師泰ヲ殺シテ關東ニ走ル尊氏義詮ヲ京師ニ留メ自ラ鎌倉ニ往キ遂ニ直義ヲ毒殺セリ其他桃井直常本堂頼房山名時氏足利高經等ノ諸將モ反服常ナカリキ

(二〇〇)細川頼之ノ事蹟如何

正平二十二年(二七〇)足利義經卒シ子經滿嗣テ將軍トナル尙幼ナリ細川頼之事ヲ執ル頼之賢明ニシテ文武ノ才アリ大ニ人才ヲ登用シ幕府ノ綱紀ヲ

張リ輔導ノ任ヲ盡ス後ニ其主ヲ勸メテ南北兩朝ヲ合一セシメ奉リ皇基ヲ長ヘニ安ンズ蓋シ頼之與テ力アリシナリ

(二〇一)南北兩朝合一ノ次第ヲ述ベヨ

足利義滿時代ニ於テ南朝ノ將士年ヲ追フテ相没シ勢益々衰フ之ニ反シテ北朝ハ愈々盛ニシテ天下殆シト之ニ歸セリ後龜山天皇ノ元中九年(五二〇)義滿細川頼之ノ言ニ從ヒ大内義弘ヲ南朝ニ遣ハシテ兩朝和睦ノ事ヲ奏シ兩統迭立舊ノ如クセント請ハシム天皇之ヲ嘉納シ車駕遂ニ京師ニ還ル乃チ父子ノ禮ヲ以テ神器ヲ北朝ノ後小松天皇ニ傳ヘテ大上天皇ノ尊號ヲ受ケ大覺寺ニ退キ給フ是ニ於テ後小松天皇正統ノ位ヲ踐ム延元元年(九六)兩朝分立ヨリ茲ニ五十七年ニシテ再ビ合一シ爾後兩統迭立ノ議モ行ハレズ持明院統相嗣ギテ皇位ニ昇レリ

(二〇二)室町幕府ノ組織如何

初メ尊氏ノ幕府ヲ開キシ時ハ其組織未タ整ハザリシカ義滿ニ至リ漸ク完備シタリ其大要ハ鎌倉幕府ノ制ト同シク政所問註所侍所等アリテ評定衆以下ノ職亦變化ナシ只執權ヲ改メテ管領トシ政務ヲ議定セシメ斯波細川

畠山ノ三家更ル之ニ任ズ山名赤松一色京極ノ四氏ヲ四職ト稱シテ評定衆又ハ侍所ノ所司トナル奉行三十六アリ又地方ニハ關東管領アリテ東方ヲ制ス其他奥羽鎮西ニ探題アリ諸國ニ守護地頭アルコト鎌倉幕府ト異ナラザリキ

(二〇三) 足利氏ノ國體ヲ辱メシ一ノ例ヲ舉ゲヨ

後小松天皇ノ應永八年(二〇)三代將軍義滿商人肥富某ヲ明ニ遣ハシテ好ヲ通ズ明主玉璽辨服ヲ義滿ニ贈リテ曰ク『汝ヲ封ジテ日本國王トス』ト義滿甘ジテ之ヲ受ク尙晩年ニ至リ奢侈ヲ極メ花御所鹿苑院金閣寺等ヲ建テ、財用足ラザリシカバ明ニ通ジテ錢幣ヲ得其費ヲ支ヘリ其後八代將軍義政モ亦銀閣寺ヲ建テ、國用給セザルニ及ビ錢ヲ明ニ乞フコト三回ニ及ベリト是レ實ニ國體ヲ辱シムル大ナルモノニシテ憂國ノ志士其面ニ唾セント欲スル所以ナリ

(二〇四) 鎌倉管領ノ滅亡ヲ記セヨ

●上杉憲實鎌倉管領トナリタル次第ヲ問フ

四代將軍義持職ヲ子義量ニ讓ル義量早世セシカバ義持又政ヲ執ル尋デ薨ズ管領諸將等相議シ義持ノ弟僧義圓ヲ迎ヘテ將軍トシ名ヲ義教ト改ム時

ニ鎌倉管領持氏性剛復ニシテ兵力ヲ持ミ將軍義教ヲ亡ボサンコトヲ謀ル執事上杉憲實切諫スレバ聽カズ憲實遂ニ上野ニ奔ル義教兵ヲ遣ハシテ持氏ヲ討タシム師未タ至ラザルニ憲實鎌倉ヲ攻メ持氏自殺ス義教乃チ憲實ヲ管領トス鎌倉ノ足利氏是ニ至テ亡ビ兵權上杉氏ニ歸ス時ニ後花園天皇ノ永享十一年(九九)ナリキ

(二〇五) 嘉吉ノ變トハ如何

足利義教既ニ鎌倉ヲ滅シ漸ク傲慢ニシテ人ヲ輕侮ス嘗テ故ナクシテ赤松滿祐ノ邑ヲ奪ハントス滿祐大ニ憤リ嘉吉元年(二〇)饗應ニ托シテ將軍ヲ其邸ニ招キ之ヲ弑ス管領細川持之義教ノ子義勝ヲ立テ山名持豊等ヲシテ滿祐ヲ白旗城ニ誅セシメタリ之ヲ嘉吉ノ變トイフ

(二〇六) 古河公方堀越公方トハ如何且其關係ヲ問フ

鎌倉管領足利持氏亡ビテヨリ東國常ニ平ナラズ上杉氏ノ臣長尾景信等將軍ニ請ヒ持氏ノ遺子成氏ヲ迎ヘテ鎌倉ノ主トシ憲實ノ子憲忠ヲ管領トス然ルニ成氏上杉氏ヲ仇視シ憲忠ヲ殺シ下野ノ古河ニ奔ル是ヨリ成氏ヲ古河公方ト呼ブ是ニ於テ景信等義政ノ弟政知ヲ迎ヘテ主トシ伊豆ノ堀越ニ

居ル因テ堀越公方ト稱シ山内扇谷ノ兩上杉氏管領タリ是ヨリ兩公方ノ兵結ビテ解ケズ後政知其子茶々丸ノ爲メニ殺サル成氏獨リ威望ヲ得タリ

(二〇七)室町幕府顛覆ノ起因ヲ問フ

七代將軍義勝薨シ其弟義政職ヲ嗣グ年僅ニ八歳ナリ既ニ長ジテ暗愚只管驕奢ヲ極メテ政ヲ顧ミズ是ヨリ幕府ノ政權全ク管領ニ歸シ細川畠山山名ノ諸氏互ニ權ヲ爭ヒ政ヲ擅ニシ遂ニ應仁ノ亂ヲ誘致スルニ至レリ(後問參照)

(二〇八)足利時代ノ德政トハ如何

八代將軍義政驍奮敢テ義滿ニ讓ラズ東山ニ銀閣ヲ建テ、金閣ニ比シ或ハ書畫骨董ヲ玩ビ或ハ茶會ヲ催シ日夜宴樂ニ耽リシカバ財用足ラズ故ニ苛稅重斂至ラザルナク遂ニ又德政ト稱スル暴令ヲ見ルニ至レリ德政トハ元ト未納ノ租調ヲ免ズル善政ナリシガ義政屢々名ヲ之ニ假リテ公私ノ負債辨償ヲ免除セルコトヲ令セリ之ヲ足利氏ノ德政トイフ

(二〇九)應仁ノ亂ノ原因如何

應仁ノ亂ノ原因ハ第一足利將軍家繼承ノ爭ト第二畠山斯波兩家ノ各相續ノ爭トヨリ結成シ終ニ細川勝元山名宗全(持)ノ一大戰爭トナリ又始メ義

政在職既ニ久シク漸ク政ニ倦ムサレド子ナキヲ以テ弟義視ヲ嗣トシ約シテ曰ク「後子生ルレバ僧トナサン」ト勝元之ヲ輔ク既ニシテ義政ノ夫人富子義尙ヲ生ム夫人之ヲ僧トスルニ忍ビス山名宗全ニ托シテ事ヲ圖ラシム時ニ宗全勝元ト和セズ因テ義尙ヲ擁立シ自ラ管領トナリ勝元ヲ排セント欲シ悦ンテ夫人ノ囑ヲ受ク之レ實ニ爭亂ノ近因ナリ次テ畠山持國(德本)初メ子ナキヲ以テ弟持富ノ子政長ヲ養子トセリ其後義就生レシカバ持國政長ヲ廢セントス然ルニ勝元政長ヲ輔ケテ義就ヲ逐ヘリ故ニ義就ハ宗全ニ與ミシ政長ハ勝元ニ黨セリ次ニ又斯波氏ニモ義廉義敏互ニ相續ヲ爭ヒ義廉ハ宗全ニ與ミシ義敏ハ勝元ニ黨セリ是ニ於テ勝元ノ與黨ハ東山ニ軍シ宗全ノ與黨ハ西山ニ陣ス故ニ前者ヲ東軍後者ヲ西軍トイヘリ

(一一〇)應仁ノ亂東西兩軍ノ與黨兵力ヲ列記セヨ

- 東軍 斯波義敏畠山政長京極持清武田信賢赤松政則及ビ勝元兵力 ノ一族十八國ノ兵凡ソ十六萬
- 西軍 斯波義廉畠山義就畠山義統六角高賴一色義直土岐成賴兵力 大内政弘及ビ宗全ノ一族二十一國ノ兵凡ソ十一萬

(一一一) 應仁ノ亂ノ結果如何

八代將軍義政ノ威望既ニ地ニ落チ此爭亂ヲ未發ニ制スル能ハズ後土御門天皇ノ應仁元年(一一七)兩軍遂ニ戰端ヲ開ク初メハ東軍屢々勝ヲ得シガ後ニ至リ兩軍大ニ振フ勝元將軍ノ牙旗ヲ得テ之ヲ軍門ニ立テ又天皇及ビ上皇ヲ陣中ニ迎フ宗全モ亦義視ヲ迎ヘテ人心ヲ服ス義政因テ義視ト絶テ義尙ヲ嗣トス爾後戰爭尙續キ勝敗未ダ決セザリシガ文明五年(一一三)宗全勝元相踵テ歿ス然レモ兩軍尙對峙シテ退カズ九年(一一七)ニ至リテ諸將漸ク兵ヲ解イテ歸ル京師戰場タリシコト茲ニ十一年宮殿寺院ハ論ナク歷代ノ典籍室器灰燼ニ歸セシモノ頗ル多カリキ

(一一二) 足利末代ニ於ケル皇室式微ノ狀ヲ記述セヨ

應仁ノ亂以後皇家ノ陵夷實ニ甚ダシク後土御門天皇ハ經費ナキヲ以テ讓位ノ式ヲ行ヒ給ハズ崩御ノ時モ靈柩葬ラザルコト四十日ニ及ベリ後柏原天皇ノ即位ノ式モ踐祚後二十二年ヲ經テ内大臣藤原實隆ノ盡力ニ由テ初メテ行ハセ給ヘリ其ノチ後奈良天皇ノ時ハ大内義隆正親町天皇ノ時ハ毛利元就獻金シテ即位ノ大禮ヲ行ハセ給ヘリ以テ其一端ヲ知ル可シ

(一一三) 足利氏滅亡ノ次第ヲ略叙セヨ

十三代將軍義輝三好氏ノ專權ヲ惡ミ管領細川晴元ト長慶ヲ攻メンモ利アラズ細川氏却テ亡ボサレ長慶代テ管領トナル長慶病歿スルヤ子義長尙幼ナリシカバ家臣松平久秀事ヲ恣ニス義輝又之ヲ厭フ久秀遂ニ義輝ヲ殺シ義晴ノ姪義榮ヲ立ツ時ニ永祿八年(一一五)既ニシテ織田信長尾張ニ起リテ久秀ヲ亡ボシ義輝ノ弟義昭ヲ奉ジテ將軍トス後義榮阿波ニ奔リ歸リ尋テ薨ズ後義昭信長ト隙アリ信長之レヲ河内ニ逐フ時ニ天正元年(一一三)ナリ其後義晴暫ク毛利元就ニ依リ薙髮シテ昌山ト號シ後京師ニ還リ慶長二年(一一七)大坂ニ薨ズ尊氏以來十五代茲ニ二百三十六年ニ足利氏滅ビヌ

(一一四) 後北條氏(北條)ノ興亡ヲ略記セヨ

北條早雲ハ初メ伊勢長氏ト稱ス伊勢ノ人豪邁ニシテ謀畧アリ應仁ノ末駿河ノ今川氏ニ依リ足利政知(堀越公方)ノ長子茶々丸ニ弑セラレトヤ兵ヲ起シテ茶々丸ヲ弑シ伊豆ヲ取り次テ小田原ニ城キ氏ヲ北條ト改ム後薙髮シテ早雲ト號ス子氏綱孫氏康皆智謀アリ父祖ノ業ヲ繼ギ遂ニ關東ヲ畧取スレテ四代氏政ニ至リ羽柴秀吉ノ攻ムル所トナリテ亡ブ

(二一五)川中島ノ戰ノ原因如何 (二一六)川中島ノ戰ノ結果如何
 川中島ノ戰トハ天文年間武田信玄上杉謙信ノ兩雄甲越ノ兵ヲ以テ信濃ノ
 川中島ニ會シ雌雄ヲ爭ヒシ大合戰ナリ信玄モト晴信トイフ其先ハ源義光
 ニ出ヅ世々甲斐ニ居ス晴信勇悍ニシテ智畧アリ後薙髮ノ信玄ト號ス天文
 七年(三一)信玄其父信虎ヲ逐フテ自立セシカド智勇ノ名將ナリケレバ士
 民歸服シ威勢熾ンナリキ當時越後ノ上杉謙信北陸ヲ畧シ兵威マダ強シ謙
 信初メ長尾輝虎ト稱ス勇猛ニシテ戰ヲ善クス山内憲政ノ養子トナリ上杉
 ト改ム後薙髮シテ謙信トイフ會々信玄信濃ヲ略セントシ村上義清ヲ攻メ
 シニ義清逃レテ謙信ニ依リ援ヲ乞フ是ニ於テ謙信之ヲ諾シ信玄ヲ伐タン
 トス是レ此戰爭ノ原因ナリ
 後奈良天皇ノ天文二十二年(三二)十月信玄謙信共ニ信濃ニ入り川中島ニ
 至リ水ヲ挾ンテ陣ス兩軍戰フコト卯ヨリ未ニ至リ勝敗未タ決セズ謙信兵
 ヲ分チ上流ヲ渡リテ甲軍ノ後ヲ襲ヒ大ニ之ヲ敗ルサレド越軍ノ死傷亦少
 ナカラズ竟ニ引キ歸ル之ヲ川中島第一ノ戰トス翌天文二十三年(三三)兩
 軍マダ兵ヲ率キテ信濃ニ入り相對ス信玄潛ニ兵ヲ出シ犀川ヲ渡リ謙信ノ

麾下ヲ襲ヒ勝ニ乘ジテ進ム越將宇佐美定行横マニ信玄ノ麾下ヲ衝キ將ニ
 之ヲ河中ニ擠セントス信玄數十騎ト走ル謙信黃袍白馬ニ跨リ刀ヲ閃カシ
 テ之ヲ追撃ス信玄事急ニシテ刀ヲ拔クニ違アラズ麾扇ヲ以テ之ヲ扞ク扇
 折レ其肩ヲ斫ラル從士救ハントスレ流急ニシ意ノ如クナラズ隊將原大
 隅槍ヲ以テ其騎ヲ打ツ馬驚キ湍中ニ入ル信玄僅ニ免ル、ヲ得此役モ勝敗
 ナク兩軍ノ死傷相當ル之ヲ第二ノ戰トス弘治二年(二六)三月兩軍マダ川
 中島ニ會戰ス信玄夜兵ヲ派シテ越軍ノ後ヲ襲ハントセシニ謙信大霧ニ乘
 シテ直ニ甲軍ノ營ニ逼リシカバ軍驚潰シ勇將名卒多ク之ニ死ス時ニ甲軍
 ノ別將保科彈正等反リテ越軍ノ後ニ出ヅ甲軍之ヲ見テ反戰シ前後ヨリ越
 軍ヲ夾撃シテ之ヲ破ル之ヲ第三ノ戰トス同年八月謙信マダ川中島ニ出ヅ
 信玄敢テ戰ハズ薄暮越軍火ヲ縱チ營ヲ掃フテ去ラントスルモ信玄其謀ア
 ルヲ知リ敢テ進マズ天明ニ及ンテ果ノ越軍ノ陣嚴ニシテ待ツ諸將其明ニ
 服ス信玄又伏兵ヲ山間ニ設ケ戰ヲ挑ミシニ謙信之ヲ追撃セシカド亦兵ヲ
 收メテ歸リヌ之ヲ第四ノ戰トス永祿四年(二二)謙信信濃ニ出デ西條山ニ
 陣シ大ニ信玄ヲ破ル是ヲ最後ノ決戰トス斯クテ兵ヲ交フルコト前後五回

十二年ノ久シキニ亘リ勝敗未ダ決セズ兩將相尋テ病歿シ事漸ク止ミテ

(二二七) 嚴島ノ戰トハ如何

大内氏ハ義弘ノ時ヨリ世々周防ノ山口ニ居ス義興ノ時ニ至リ富強天下ニ冠タリシガ其子義隆文弱ニ流レテ國政ヲ顧ミザリシカバ天文二十年(二二一)家臣陶晴賢義隆ヲ攻メ殺シ大友義鎮ノ弟義長ヲ迎ヘテ主トシ自ラ權ヲ恣ニス義隆死ニ臨ミ書ヲ部將毛利元就ニ遺コシ托スルニ仇ヲ復ヘスヲ以テス義就乃チ其子隆景ノ議ニ從ヒ朝ニ乞フテ逆臣征討ノ詔書ヲ得嚴島ニ城ク晴賢來リ攻ム元就風雨ニ乘ジテ賊軍ヲ襲ヒ遂ニ晴賢ヲ誅ス時ニ弘治元年(二二五)十一月ナリキ之ヲ嚴島ノ戰トイフ

(二二八) 一向宗一揆ノ始末如何

八代將軍義政ノ時代ニハ一向宗益々盛ニシテ親鸞八世ノ孫兼壽(蓮如上人)辯才アリ諸國ヲ遊歴シ大ニ信徒ヲ得他宗之ヲ惡ミ京都ヨリ放逐ス兼壽越前ニ逃レ盛ニ教法ヲ布ク北陸爲メニ風靡ス下野高田派(一向宗ノ一派)ノ信徒ノ北陸ニ在ルモノ兼壽ノ勢日ニ盛ニシテ他ヲ凌駕スルヲ見守護富樫政親ニ訴ヘ之ヲ斥ケンコトヲ謀ル兼壽ノ徒大ニ怒リ政親ヲ以テ法敵トス長享二年

(二二九) 加越能三州ノ宗徒蜂起シ富樫氏(加賀)ヲ圍ム政親防戦利アラズシテ自殺ス高田派ノ徒マタ逃散セリ是ニ於テ本願寺ノ徒三州ニ蔓延ス

(二二九) 始メテ歐人ノ渡來セシ年代如何

足利氏ノ中頃ニ於テ歐洲諸國ノ殖民貿易ノ事業大ニ勃興シ文明十八年(二二四)東洋ニ通ズル新路開ケシヨリ歐人漸次東方ニ向フ就中葡萄牙人西班牙人最モ多シトス天文十年(二二五)葡萄牙人薩摩ニ來ル之ヲ我國渡來ノ始メトス

(二二〇) 鐵砲傳來ノ年代及ビ其影響如何

天文十二年(二二二)葡萄牙人ルネらるるなむ等大隅ノ種子島ニ來リ始メテ鐵砲ヲ傳フ島主種子島時堯人ヲシテ其技ヲ習ヒ又其製作及ビ火藥ノ製法ヲ傳習セシム大友義鑑モ亦傳習スル所アリ後和泉堺ノ商人橋屋某等モ此島ニ赴キ其術ヲ修ム是ヨリ鐵砲海内ニ遍ク天龜天正時代ヨリ已ニ戰具ニ用ヒラレシカバ戰術全ク一變セリ

(二二二) 耶蘇教渡來ノ年代及ビ其傳播ノ有様如何

天文十七年(二二八)せしむいと教會(舊教ノ一)ノ宣教師ふらんしす、あすひる

こと(又さしふび)宗徒ヲ率キテ薩摩ニ來ル島津氏其布教ヲ許シ、カバ其教次第ニ九州ニ傳ハル時人之ヲ切支丹キリシタントイフ是ヨリ西班牙葡萄牙等ノ宣教師相踵デ多ク天正ノ中頃ニ至ルマデ凡ソ三十餘年ニシテ其教法殆ンド全國ニ普及シ信徒三十萬ニ達セリト天正九年(四二)肥前ノ有馬大村兩家ノ如キハ信仰ノ極使ヲ羅馬ニ遣ハシ書ヲぐれどりい第十三世ニ贈ルニ至ル實ニ其勢靡然トシテ將ニ天下ヲ風動セントセシヤ疑ナカリキ

(二二二) 耶蘇教禁止ノ率先者ヲ問フ

織田信長權ヲ得ルニ及ビ耶蘇教ノ布宣ヲ勸許シ會堂ヲ京師ニ立ツ時ニ永祿十一年(二八)ナリシカバ永祿寺トイフ後南蠻寺ト改ム豊臣秀吉ノ時ニ至リ佛敎ト軋轢大ニ起ラントス秀吉國家ノ分離セントコトヲ憂ヒ斷然決意シテ耶蘇教ヲ嚴禁ス時ニ天正十四年(四六)ナリキ

(二二三) 室町幕府時代ニ於ケル文學ノ概況ヲ述ベヨ

室町幕府暴逆ヲ以テ立チシカバ天下常ニ平ナラス殊ニ應仁ノ亂後ハ群雄交々起リテ割據シ骨肉相食ミ強弱相爭ヒ道德已ニ地ニ墜チ所謂我國ノ暗黒時代トナリテ文學頓ニ衰ヘ其業僅ニ僧侶ニヨリテ命脈ヲ保ツヲ得タリ

●足利時代ノ有名ナル學者ヲ問フ

當時學者トシテ有名ナルハ唯一條兼良子冬良ノ二人アルノミ僧侶ニハ玄慧疎石等アリ永享年間上杉憲實下野ノ足利學校ヲ再興シ金澤文庫ヲ擴張シ又大内義隆ガ遠ク書籍ヲ支那朝鮮ニ求メシハ文學上ノ偉功トシテ賞スベキモノナリ

(二二四) 室町幕府時代ニ於ケル美術工藝ノ著シキモノヲ舉ゲヨ

風俗奢侈ノ結果トシテ美術ハ最モ進歩シ就中最モ注意スベキハ建築ニシテ一班ニ明國ノ風ヲ採リ大ニ變化セリ繪畫ニハ僧明兆雪舟アリ又土佐光信出デ、土佐家ヲ中興シ狩野元信和漢ノ粹ヲ合シテ一派ヲ起セリ磁器ハ祥瑞入明シテ之ヲ創ム甲冑ニハ明珍宗安刀劍附屬品ノ彫鐫ニハ後藤程乘アリテ何レモ有名ナリキ

(二二五) 桶狭間ノ戰ヲ記セヨ

織田氏ハ平重盛ノ後裔ニシテ初メ越前ノ守護斯波氏ノ臣トナリ其領尾張ヲ治ム信秀ニ至リ斯波氏衰ヘ其地信秀ニ歸ス信長ハ乃チ信秀ノ子ナリ僮ニシテ大志アリ治ヲ勵ミ農ヲ勸メ國漸ク富ム父信秀ノ時ヨリ今川氏ト三河ヲ爭ヒシガ永祿三年(三〇)今川義元既ニ駿遠參ヲ定メ優勢ヲ以テ大

舉尾張ニ入り連リニ諸城ヲ陥ル信長風雨ニ乘シ義元ヲ桶狹間ニ襲フテ之ヲ獲タリ駿河ノ軍大敗シテ走ル之ヲ桶狹間ノ戰トイフ

(二二二六) 織田信長入京ノ始末ヲ述ベヨ

永祿元年(二二) 正親町天皇即位シ給フ當時京都ハ應仁以降政大ニ亂レ三好松永ノ徒兇暴ヲ逞ウシ良民塗炭ニ苦ム天皇之ヲ憂ヒ密旨ヲ信長ニ下シテ撥亂ノ事ヲ託セラル信長謹テ之ヲ奉ジ乃チ武田晴信徳川家康ト交ヲ結ヒ直ニ美濃近江ヲ畧ス時ニ將軍義輝松永久秀ノ爲メニ弑セラレテ弟義昭來リ投ゼシカバ信長之ヲ擁シテ入京ス三好松永ノ徒皆降リシカバ京畿略ボ定マレリ是ニ於テ義昭ヲ將軍トシ二條城ヲ修覆シテ居ラシム其後義昭信長ノ威名ヲ忌ミ之ヲ除カントス信長大ニ怒リ之ヲ河内ニ逐フテ足利氏ヲ滅シ次デ近畿ノ諸侯淺井朝倉六角ヲ平ゲ兵勢益々振フ信長乃チ近江ノ安土ニ城キテ之ニ居ル又叡山ヲ燒キテ僧徒ヲ平ゲ又一向宗ノ反命スル者ヲモ悉ク平グ是ニ於テ近畿全ク平定シ叡慮ヲ安ズルヲ得タリキ

(二二二七) 武田氏滅亡ノ次第如何

●長篠ノ戰トハ如何
●天目山ノ戰トハ如何

武田勝頼ハ信玄ノ第三子ナリ資性剛邁ニシテ稍傲慢ナリ是ヲ以テ專ラ進

取ノ主義ヲ取リ兵ヲ起シテ近隣ヲ侵サントス老臣馬場山縣高坂等之ヲ諫止スルモ聽カズ遂ニ佞臣長坂釣閑跡部勝資ノ言ニ從ヒ遂ニ天正二年(三二)ニ至リ自ラ兵ヲ帥キテ美濃尾張ヲ侵シテ凱旋シ益々誇色アリカクテ翌三年(三三)四月再ビ兵ヲ起シテ三河ニ入ル徳川氏ト對抗シ決セズシテ師ヲ收ム五月又步騎二萬ヲ帥キテ長篠城ヲ圍ミ未タ拔ク能ハス徳川織田ノ兩師精銳ヲ以テ來ル勝頼大ニ敗レ僅ニ身ヲ以テ免ル武田氏はヨリ振ハズサレド勝頼進取ノ主義猶止マズ屢々近國ヲ侵シテ衆怨ヲ受ク天正十年(四二)二月信長家康トカヲ合セ之ヲ甲斐ニ討ツ勝頼既ニ士民ノ心ヲ失ヒ從軍スルモノ僅ニ千餘人戰利アラズ遂ニ天目山ニ逃レ一族ト共ニ自殺ス茲ニ於テ武田氏滅ビヌ

(二二二八) 本能寺ノ變トハ如何 (二二二九) 山崎ノ戰トハ如何

天目山ノ戰ヨリ先天正五年(三七) 織田信長羽柴秀吉ヲシテ毛利輝元ヲ討タシム秀吉既ニ諸城ヲ陥レ進ンデ備中ノ高松城ヲ圍ム輝元親ラ兵ニ將トシテ來援セシカバ秀吉モ亦後援ヲ信長ニ乞フ天正十年(四二) 六月信長西下シテ之ニ會セントシ部將明智光秀ヲシテ先ツ發セシメ自ラ其子信忠ト

京師ニ入テ本能寺ニ館ス光秀初メ信長ニ積怨アリ是ニ至テ反シ夜密カニ館ヲ襲フ時ニ信長從臣森蘭丸以下百餘人ニ過ギズ信長乃チ火ヲ放テ自殺ス信忠マタ二條城ニ弑セラレヌ之ヲ本能寺ト變ノ云フ

秀吉本能寺ノ變報ヲ聞キ急ニ毛利氏ト和シテ東上シ信孝(信長ノ子)丹波長秀池田信輝等ト合シテ京師ニ向フ光秀狼狽山崎ニ迎ヘ戰フテ大ニ敗レ近江ニ奔ラントシ途ニ殺サル之ヲ山崎ノ戰トイフ光秀事ヲ舉ゲシヨリ僅ニ十三日

(二三〇) 織田氏ノ勤王ヲ述ベヨ

織田氏信秀ノ時ヨリ尊王ノ志アリ後奈良天皇ノ時信秀禁垣ヲ修繕シ又伊勢外宮ノ假殿ヲ作レリ信長マタ父ノ志ヲ繼ギ深ク皇室ノ式微ヲ嘆シ資ヲ獻リテ大内ヲ修メ舊典ヲ復興シ廢職ヲ繼起シ且ツ御供料ヲモ奉リ公卿ノ領地ヲ復シ尙伊勢ノ大神宮ヲ改造シタリキ

(二三二) 豐臣秀吉ノ幼時ヨリ海内統一マデヲ畧述セヨ

● 坂ヶ岳ノ戰トハ如何
● 小牧長久手ノ戰トハ如何

秀吉ハ尾張國中村ノ人父ヲ木下彌左衛門ト云フ早ク父ヲ失ヒ同村ノ筑阿

彌ニ養ハル十六歳ノ時家ヲ出デ遠州久能城主松下之綱ノ奴トナリ名ヲ木下藤吉ト稱ス後織田信長ノ威名ヲ慕ヒ往テ之ニ仕フ信長其才ヲ愛シ重ク擢デ、部將トス屢々戰功アリ眷遇日ニ厚シ是ニ於テ藤吉信長ノ驍將柴田勝家丹波長秀ノ勇名ヲ羨ミ姓名ヲ變ジテ羽柴秀吉ト稱ス信長ノ淺井氏ヲ滅スニ及ンデ長濱城ニ居ル天正五年(三二)信長秀吉ヲノ毛利氏ヲ討タシム十年(四二)六月本能寺ノ變アルヤ直ニ毛利氏ト和シテ軍ヲ班ヘン旬日ノ内ニシテ逆臣明智光秀ヲ山崎ニ誅ス後信長ノ孫秀信(信忠ノ子)ヲ立テ、嗣トナセリ秀吉功ヲ以テ左少將ニ任セラレ威名日ニ熾ナリシカバ勝家瀧川一益織田信孝等之ヲ忌ミ秀吉ヲ除カントス天正十一年(三三)秀吉大ニ勝家ノ軍ヲ賤ヶ岳ニ破リ長驅シテ北莊城(越前)ヲ圍ミ之ヲ殺ス次デ信孝殺サレ一益降リヌ之ヲ賤ヶ岳ノ戰トイフ是ニ於テ秀吉大坂ニ城キ之ニ居ル壯麗完固天下ニ冠タリカクテ秀吉威望益々盛ナリシガ信雄(信長ノ子)秀信(信長ノ子)ヲ輔ケテ安土ニ在リ天正十二年(四二)又之ヲ除カンコトヲ謀リ援ヲ徳川家康ニ求ム家康之ニ應ジ秀吉ト小牧ニ戰ヒ其先鋒ヲ長久手ニ破ル秀吉因テ信雄ト和シ兵ヲ班ヘス次デ秀吉紀伊ヲ略シ又長曾我部氏ヲ滅シテ四國ヲ平

定ス秀吉既ニ織田氏ニ代ハリ大權ヲ執リシガ是ニ於テ累進シテ從一位關白太政大臣トナリ豊臣姓ヲ賜ハル此年(天正十三年)秀吉又佐々成政ヲ越中ニ降シ上杉景勝ト越後ニ盟ヒ北陸ヲ定ム當時九州ニハ島津義久アリ勢強カリシカバ天正十五年(四七)秀吉大舉シテ義久ヲ降シ九州マダ平グ次デ小田原ヲ攻メテ後北條氏ヲ亡ボシ又伊達政宗ヲ奥州ニ降ス是ニ於テ天下始メテ統一セリ秀吉兵ヲ起シテヨリ茲ニ漸ク十數年

(二二二) 秀吉聚樂第ノ誓詞トハ如何

秀吉海内ヲ統一シ第宅ヲ山城ノ内野ニ營ミ壯麗ヲ極メ聚樂第ト號ス天正十五年(四七)正親町天皇御位ヲ後陽成天皇ニ傳フ十六年(四八)秀吉上皇及ビ天皇ニ奏シテ臨幸ヲ請フ文武百官扈從シ諸侯亦之ニ陪ス秀吉諸侯ヲシテ皇室ヲ尊ビ且ツ關白ノ命ニ背カザルコトヲ誓ハシム

(二二三) 秀吉ノ五大老五奉行トハ如何

秀吉海内ヲ統一シ專ラ意ヲ内治ニ盡シ淺野長政石田三成増田長盛長束正家前田玄以ヲ五奉行トシ政務ヲ掌ラシメ又徳川家康前田利家宇喜多秀家毛利輝元上杉景勝ヲ五大老トシ大事ニ參政セシム

(二二四) 文祿ノ檢地トハ如何

田制ハ鎌倉幕府以來所領ノ田數ヲ計ルニ町段トイハズシテ收納錢ノ貫高ヲ稱シ幾貫ノ地トイフ豊臣氏ニ至リ天正十七年(四九)ヨリ文祿四年(五二)マデノ間ニ諸國ノ田畝ヲ檢地シ貫高ヲ改メテ石高トシ從來三百六十歩一段ナリシヲ削リ是ヨリ三百歩一段トシ十段ヲ一町トス之ヲ文祿ノ檢地或ハ天正石直コナホシトモイフ蓋シコレ大寶令以後始メテノ田制改革ナリキ

(二二五) 秀吉第一回朝鮮征代ノ顛末如何

秀吉始メヨリ朝鮮支那ヲ征服セントノ志アリシガ内治未ダ整ハズシテ之ヲ遂グルノ時機ナカリキ然レモ僅ニ十數年ニシテ能ク海内ヲ統一シ今ヤ内憂ヲ顧思スルノ要ナク兵氣愈々熾ナリシカバ遂ニ明ヲ征センコトヲ決シ先ヅ對馬ノ主宗義智ヲシテ朝鮮王李昭ニ諭シ証明ノ嚮導タラシメントス李昭應セズ秀吉大ニ怒リ先ヅ朝鮮ヲ征セントシ關白ヲ養子秀次ニ讓リ文祿元年(二二五) 明ノ神宗萬曆三十年四月秀吉陣營ヲ肥前名護屋ニ設ケ兵食ヲ貯ヘ船艦ヲ造ル兵集マルモノ十三萬分テ八隊トナシ宇喜多秀家ヲ元帥トシ増田長盛石田三成大谷吉隆ヲ參謀トシ加藤清正小西行長ヲ先鋒トス別ニ水

師九千二百人アリ九鬼嘉隆脇坂安治加藤嘉明等之ニ將タリ秀吉次デ名護屋ニ到リ諸軍ニ號令ス諸軍乃チ進ンデ釜山ヲ陷レ水陸並ビ進ム向フ所風靡セザルナシ王城陷ルニ及ビテ李昭義州ニ走リ援ヲ明ニ乞フ清正威鏡道ニ入リテ二王子ヲ擒ニシ八道悉ク我軍ノ席卷スル所トナレリ時ニ明主李昭ノ請ヲ納レ乃チ祖承訓ヲ將トシ大兵ヲ率キテ赴キ援ハシム我軍之ヲ順安ニ逆擊セシカバ承訓身ヲ以テ免ル後又明將李如將自ラ勇ヲ恃ンテ來リ攻ム小早川隆景等之ヲ碧蹄館ニ破ル是ニ於テ明主大ニ恐レテ沈惟敬ヲ遣ハシテ和ヲ講セシム惟敬口辯アリ行長ニ依リテ和ヲ説ク行長乃チ其言ヲ納レ七事ヲ約シテ秀吉ニ報ズ和議遂ニ成リ外征ノ諸軍ヲ召還シ秀吉モ亦大阪ニ還ル之ヲ第一回朝鮮征伐ノ顛末トス

(二二二六) 秀吉第二回朝鮮征伐ノ顛末如何

慶長元年(二二二五) 明使湯方亨等伏見ニ至リ秀吉ヲ日本國王ニ封ズトイフ封冊ヲ呈セシカバ秀吉大ニ怒リ其書ヲ抛チ使者ヲ逐ヒ又行長ヲ譴責ス始メ明主ノ書ニハ朝鮮四道ヲ割キテ我ニ與ヘンコトヲ約シ今ヤ惟敬中間ニアリテ之ヲ變ゼシナリ二年(二二二六) 秀吉再ビ大軍ヲ起シ小早川秀秋ヲ元帥ト

シ清正行長ヲ先鋒トスルコト故ノ如シ兵凡ソ十三萬朝鮮ニ入リテ大ニ明韓ノ兵ヲ破ル既ニシテ翌三年(二二二七) 至リ秀吉病ニ罹リ伏見城ニ薨ズ年六十三遺命シテ家康利家ニ其子秀賴ヲ托シ外征ノ師ヲ班サシム是ニ於テ征韓ノ偉業中途ニシテ成ラズ之レ第二回朝鮮征伐ノ顛末概略ナリトス天皇詔シテ秀吉ニ正一位ヲ贈リ給フ京都ノ豊國神社ハ乃チ其祀ル所ナリ

(二二二七) 關ヶ原ノ戰ノ顛末如何

文祿四年(二二二三) 秀吉石田三成ノ讒ヲ信シ嗣子秀次ヲ廢シテ高野ニ放チ次デ死ヲ賜ヒ遂ニ秀賴(母ハ秀吉ノ妾淀君淺井長政ノ女)ヲ立テ、嗣トス慶長三年(二二二八) 秀吉薨ズル時秀賴僅ニ六歲遺命シテ徳川家康以下五大老五奉行ト共ニ心ヲ協セテ之ヲ輔佐セシム前田利家乃チ大阪ニ在リテ秀賴ヲ養育シ家康ハ伏見ニ在リテ庶政ヲ決ス既ニノ利家薨ゼシカバ家康ノ威望屹然トシテ諸侯ノ上ニ出デ紛紜漸ク繁シ時ニ三成佞姦ニノ頗ル狡智ニ富ミ家康ノ權日ニ盛ナルヲ見テ之ヲ嫉怨シ増田長盛等ト謀リ陰ニ之ヲ除カントス小西長東大谷等ノ諸侯皆之ニ黨ス然ルニ加藤清正福島正則等ハ家康ニ屬シ遂ニ諸侯ノ間ニ二大黨派ヲ生ズ三成上杉景勝ト謀ヲ通シ先ツ事ヲ舉ゲシム慶長五年

(三二六) 家康諸將ヲ率キテ東下シ景勝ヲ其邑會津ニ討タントス三成等其虛ニ乘ジテ兵ヲ擧ゲ檄ヲ四方ニ傳ヘテ家康ノ罪狀ヲ數フ毛利輝元宇喜多秀家島津義弘小早川秀秋小西行長東正家大谷吉隆等四十餘ノ諸侯大阪ニ會シ應援スルモノ三十六國輝元之ガ盟主タリ其兵凡ソ十二萬八千乃チ進ンデ伏見城ヲ陷レテ美濃ノ大垣城ニ至ル時ニ家康下野ノ小山ニ在リ變ヲ聞キ庶長子秀康ヲ留メテ景勝ニ當ラシメ直ニ軍ヲ還シテ西上ス井伊直政福島正則本多忠勝池田輝政加藤嘉明黑田長政淺野幸長細川忠興藤堂高虎等ノ諸將之ニ從フ其兵凡ソ七萬五千家康其子秀忠ト分テ之ニ將タリ家康ハ乃チ東海道ヨリシ秀忠ハ東山道ヨリシ共ニ京師ニ向フ秀忠ノ軍信濃ニ至リ眞田昌幸ノ爲メニ扼セラレ進ム能ハズ家康進ンデ美濃ニ入り九月十五日東西ノ大軍關ヶ原ニ會戰ス勝敗未ダ決セズ會々西軍ノ將小早川秀秋約ニ背キ大谷吉隆ヲ攻ム東軍鼓躁シテ進ム西軍是ヨリ大敗シ秀家三成行長等或ハ自殺シ或ハ捕ヘラレ或ハ斬ラル義弘輝元景勝等ハ出デ、降リヌ此役ヤ實ニ全國兩分ノ大戰ナリシガ家康僅ニ六時間ニシテ全勝ヲ博シ海内悉ク徳川氏ニ歸ス是ニ於テ家康大阪ニ入り大ニ賞罰ヲ行ヒ秀家ヲ流シ

輝元ノ封六國ヲ削リ周防長門ヲ與ヘ景勝ノ封百萬石ヲ收メテ米澤三十萬石ニ徙ス等各差アリ

第六編 近世史

後陽成天皇ノ慶長八年ヨリ孝明天皇ノ慶應三年マテ凡二百六十五年間

(三三八) 徳川家康ノ幼時ヨリ覇府ヲ開キシ迄ヲ畧述セヨ

徳川氏ハ源義家ノ孫新田義重ノ後裔ニシテ世々上野國徳川村ニ居リシガ八世ノ孫親氏難ヲ避ケテ三河ニ移ル其立孫清康ニ至リ三河ヲ畧シ岡崎城ニ居ル其子ヲ廣忠トイフ家康ハ乃チ其子ナリ廣忠ノ時尾張ノ織田氏ニ侵サレ援ヲ今川氏ニ求メテ漸ク家ヲ保ツコトヲ得タリ故ヲ以テ家康ハ六歳ノ時ヨリ今川氏ニ質タリ義元ノ桶狹間ニ敗死セシ後岡崎ニ還リ遂ニ織田氏ト結ビ武田氏ヲ滅ス信長ノ本能寺ニ弒セラレ政權豊臣氏ニ歸スルニ及ビ家康又從テ客將トナレリ然レモ小牧長久手ノ一戰ヨリ威名大ニ振ヒ隱然豊臣氏ヲ壓ス後北條氏亡ブルニ及ビ其領地悉ク家康ノ有ニ歸シ江戸ニ城キテ霸業ヲ行フノ根據地トナス秀吉薨シテ後家康威望屹然トシテ他ヲ凌駕セシカバ石田三成等之ヲ嫉ミ兵ヲ擧ゲテ家康ヲ圖ル家康又軍ヲ起シ

テ之ニ應ジ慶長五年(三三)九月關ヶ原ノ戰ニ於テ能ク全勝ヲ制スコレヨ
リ天下靡然トシテ家康ニ歸セリ慶長八年(三三)家康征夷大將軍ニ任ゼラ
レ右大臣ニ進ミ淳和獎學院ノ別當トナル是ニ於テ幕府ヲ江戸ニ開ク大權
マタ武門ノ掌握スル所トナリ強固ナル封建制ヲ見ルニ至レリ

(二三九)方廣寺鐘銘事件ノ始末ヲ略述セヨ

●家康豊臣氏ヲ計リシ次第如何

徳川家康既ニ大權ヲ掌握セシカト豊臣秀頼尙大阪ニ在リ片桐且元加藤清
正以下太閤ノ舊恩ヲ思フテ心ヲ寄スルモノ少ナカラザリシカバ家康未ダ
全ク安ンズル能ハズ窃ニ時機ヲ窺ヒ孫女ヲ秀頼ニ嫁シ以テ陽ニ懇親ヲ結
ベリ既ニシテ清正相尋デ卒シ秀頼ノ母淀君ハ佞臣大野治長等ヲ近ケ政ニ
與カラシメ大阪漸ク衰フ秀頼ノ傅片桐且元等之ヲ嘆ズ時ニ江戸ニハ家康
如何ニモシテ豊臣氏ヲ滅サント欲シ其舉兵ニ至ル口實ナキニ苦ム會々方
廣寺ノ大佛殿燒失ス此寺モト秀吉ノ建ツル所ナリ家康因テ切リニ秀頼ニ
勸メテ之ヲ再建セシム蓋シ家康又豊臣氏ノ金穀ヲ浪費セシメ其勢ヲ消殺
スル一手段トナセシナリ秀頼乃チ之ニ從ヒ巨額ヲ投ジテ梵鐘ヲ鑄ル慶長
十九年(七二)ニ至リテ成ル將ニ供養ヲ行ハントス鐘銘ニ國家安康ノ句ア

リ家康之ヲ見テ我ヲ呪詛スルモノトナシ大ニ怒リ禮ヲ停メテ詰責ス蓋シ
是亦家康ノ奸謀ニ出デタル者ニシテ鐘銘ノ作者ハ東福寺ノ僧清韓ナレ
之ヲ命ジタルモノハ實ニ家康ノ謀主天海僧正ナレバナリ家康之ヲ以テ機
至ルトナシ心陰ニ喜ブ且元百方和解センゴトヲ力メシガ家康斷乎トシ聽
カズ剩ヘ巧ニ且元ト淀君トヲ離間シ終ニ且元ヲシテ其邑茨木ニ走ラシメ
タリ是ニ至テ平和破裂シ豊臣氏滅亡ノ基ヲ開ケリ

(二四〇)大阪冬陣トハ如何

徳川家康ノ大阪ヲ滅サント欲スルヤ實ニ切ニシテ片桐且元ノ辯解モ其効
ナカリシカバ大野治長等秀頼淀君ニ勸メテ檄ヲ四方ニ傳ヘ兵ヲ大阪ニ集
ム諸侯應ズルモノナシ唯眞田幸村後藤基次等ヲ初メトシ浪士多ク集マル
兵凡ソ六萬ト稱ス慶長十九年(七二)十月家康秀忠自ラ進ンテ大阪城ヲ攻
ム其兵凡ソ十五萬攻守數旬ニ互ル然レモ西軍遂ニ利アラズ家康和ヲ勸ム
秀頼再舉ヲ圖ラント欲シ伴リテ和ヲ容ル家康乃チ外郭ヲ毀チ周隍ヲ填ム
ルコトヲ約シテ退ク此役十二月ニ鎮マリシカバ之ヲ大阪冬ノ陣トイフ

(二四一)大阪夏陣トハ如何

●豊臣氏ノ滅亡ヲ記セヨ

大阪冬陣ノ和議既ニ成リシカド江戸大阪ハ到底兩立スベカラズ豊臣氏ノ將士ハ憤怨措ク所ヲ知ラズ翌元和元年(二二二)更ニ秀頼母子ニ勸メテ再舉ヲ謀ル集マルモノ十五萬家康父子更ニ大舉シテ來リ攻ム激戰數日眞田幸村後藤基次以下ノ勇將皆戰歿シ城遂ニ陥リ秀頼母子自盡シ治長以下之ニ殉ス此役四五月ニ涉リシカバ之ヲ大阪夏ノ陣トイフ秀吉政權ヲ執リシヨリ三代凡ソ三十年ニシテ豊臣氏滅ビヌ

(二四二) 德川幕府ノ皇室及ビ公家ニ對スル政畧如何

皇室ニ對シテハ陽ニ之ヲ尊ビ之ヲ推戴シテ天下ニ號令シ陰ニハ之ヲ抑ヘ禁中條目十七條ヲ作リテ皇權ヲ制限シ又公家法度ヲ定メテ親王攝政門跡ヲ將軍ノ支配ニ附シ政務ハ奏問セスシテ悉ク之ヲ決行シ幕府ノ事ハ武家傳奏及ヒ儀奏ヲ通ジテ之ヲ奏スルノミ是ニ於テ大權全ク幕府ニ歸シ朝廷ハ單ニ恒例ノ儀式ト任官叙位ヲ行フノ所トナレリ

(二四三) 德川幕府ノ諸侯ニ對スル政畧如何

德川氏ノ諸侯ニ對スル政畧ハ用意頗ル周到ナリキ當時諸侯ニハ二種アリ織田豊臣時代ヨリ家ヲ成シ關ヶ原役後服從セシモノヲ外様トイフ父祖以

來德川氏ニ仕ヘテ身ヲ立テシ者ヲ譜第トイフ家康關ヶ原後大ニ諸侯領邑ノ配置ニ心ヲ用ヒ先ツ關東八州ヲ根據トシテ東海東山ヨリ畿内ニ至ルマデ親藩若クハ譜代大名ヲ其間ニ置キ外様大名ハ皆之ヲ僻遠ノ他ニ移シ譜代ヲ其間ニ介シ親疎相制シテ以テ權衡ヲ保タシム又京都ニハ所司代ヲ置キ其人選ヲ重クシ大阪ニハ城代ヲ置ク其他長崎港佐渡島ノ如キ幕府直轄ノ地ニハ奉行ヲ置キ全國ノ要所ハ悉ク幕府之ヲ占メ相互ニ連聯スルヲ得タリ次ニ又家康ハ武家制度ヲ作リテ非常ニ其權ヲ制シ又相繼法ヲ嚴ニシ繼嗣ノ男子ナケレバ家名ヲ斷ツ又參勤交代ノ制ヲ設ケ諸侯ヲシテ割據ノ患ナカラシメタリ

(二四四) 三家三卿トハ如何

●德川氏繼承權ノ所在如何

德川氏ハ諸侯ノ繼承ニ嚴ナリシカド自家ノ繼承ハ寬ニシテ尾張(家康ノ六子義直ヲ祖トス)紀伊(家康ノ八子頼宣ヲ祖トス)水戸(家康ノ子頼房ヲ祖トス)ノ三藩ヲシテ本家繼承ノ權ヲ有セシムコレヲ三家トイフ又家重ニ至リ田安(家重ノ弟宗武ヲ祖トス)一橋(家重ノ弟宗尹ヲ祖トス)清水(家治ノ弟重好ヲ祖トス)ノ三家ヲ立ツ之ヲ三卿トイヒ三家ト其待遇ヲ等ウセリ

(二四五) 參勤交代ノ真相及ビ其起源如何

德川氏ハ諸侯ヲ抑制スル良策トシテ參觀交代ノ制ヲ設ケ諸侯ヲシテ幕府ト接近セシメ以テ割據ノ患ヲ防ゲリコレ慶長七年(二二二)前田利長江戸ニ至リテ將軍ニ謁シタルニ始マレリ諸侯相次デ之ニ倣ヒ兩三年ニ一度江戸ニ參觀スルヲ例トスルニ至レリ

(二四六)家光諸侯ノ待遇ヲ改メシ事ヲ記セヨ

家光將軍トナルヤ外様大名ヲ集メ告ゲテ曰ク「予ガ祖考ハ卿等ト同僚タリ故ニ卿等ヲ待スルニ禮ヲ加フ予ハ襦袢ヨリ將軍タリ是ヲ以テ爾來卿等ヲ遇スルニ譜代ト同フスベシト卿等若シ平ナラズンバ三年ヲ假サン宜シク國ニ就キ熟思シテ去就ヲ決セヨ」ト諸侯逡巡シテ命ヲ奉ゼリ德川氏ノ霸業是ニ至テ完固セリ

(二四七)德川幕府(江戸)ノ組織如何

德川幕府ノ組織ハ家光ニ至リテ漸ク整フ其内閣ヲ用部屋トイヒ將軍自ラ政ヲ執リ大老中老若年寄コトニ會ス大老ハ將軍ヲ輔佐シテ政務ヲ總括ス次ニ老中四人又ハ五人アリ重大ナル政務ニ管シ朝廷及ビ大名ノ事ヲ掌ル若年寄ハ三人乃至五人アリ幕府麾下ノ士ヲ統ブ次ニ町奉行寺社奉行勘定

奉行アリ之ヲ三奉行ト稱シ最モ要職タリ次ニ大小目付アリ大名以下監察糺彈ノ事ヲ掌ル又京都ニハ所司代ヲ置キ大阪ニハ城代ヲ置キ長崎佐渡ノ如キ幕府直轄ノ地ニハ奉行ヲ置キテ之ヲ治メシメタリ

(二四八)寛永ノ三輔トハ如何

寛永ノ三輔トハ三代將軍家光ヲ輔佐セシ酒井忠世土井利勝青山忠俊ニシテ何レモ志慮忠純德川氏ニ於テハ無比ノ名臣ナリキ

(二四九)島津家久ノ琉球征伐ノ顛末ヲ問フ

琉球ハ足利義政ノ時島津氏ノ附庸トナリシガ秀吉征明ノ議起ルニ及ンデ其王尙寧ヲシテ其旨ヲ明ニ通ゼシメ又兵ヲ朝鮮ニ出サシメントセシニ尙寧秀吉ノ旨ヲ失ヒ懼レテ來ラズ是ヨリ朝貢ヲ缺ケリ家康家久ヲシテ招カシメシモ至ラズ是ニ於テ慶長十四年(二二二)家久請フテ之ヲ征シ尙寧ヲ捕ヘ後之ヲ宥ス幕府乃チ琉球ヲ家久ノ附庸トス爾後將軍ノ襲職毎ニ必ズ慶賀謝恩使ヲ奉レリ

(二五〇)德川幕府時代ニ於ケル海外貿易勃興ノ有様如何

我國ノ西洋諸國中最モ古ク往來セシハ葡萄牙ナリ然ルニ慶長十七年(二二二)

●御朱印船トハ如何

(二七) 和蘭ノ商船始メテ我國ニ來リ其翌年英吉利モ亦使ヲ遣ハシ通商ヲ請フ幕府之ヲ許シ平戸ヲ開イテ互市場トナス是ヨリ彼我通商貿易大ニ發達シ御朱印船アルニ至レリ御朱印船トハ當時貿易ノ特許ヲ得テ大陸ノ沿岸又ハ南洋諸島ニ往來シタル商船ナリ其貿易セル區域ハ支那安南暹羅ヨリ呂宋印度ニ及ベリ我國ノ互市場ハ平戸ノ外ニ長崎、博多、兵庫、堺、浦賀等ナリ末次平藏天竺德兵衛ノ如キハ當時有名ナル貿易家ナリ

(二五二) 世界一周ノ權輿如何

慶長十八年(七三)伊達政宗其臣支倉常長ヲ羅馬ニ遣ハセシガ常長先ツ呂宋ニ至リ太平洋ヲ渡リテ墨西其ニ至リ更ニ大西洋ヲ渡リテ西班牙ニ達シ遂ニ羅馬ニ至リ法王ニ謁ス往復淹留凡ソ八年ヲ經テ浦賀ニ歸ル之ヲ邦人世界一周ノ始メトス

(二五三) 山田長政木谷久左衛門濱田彌兵衛ノ名ヲナセシ所以ヲ問フ山田長政ハ伊勢ノ人元和五年(七九)商船ニ乘リテ臺灣ニ渡リ次デ暹羅ニ赴キ在留ノ邦人ヲ糾合シテ國王ヲ助ケ國亂ヲ鎮定ス功ヲ以テ封土ヲ受ケ王ノ女婿トナル後又呂宋ノ西班牙人ト戰フテ之ヲ破ル長政又嘗テ駿河ノ

商歸國スルニ托シ戰艦ヲ畫キタル額ヲ駿府淺間社ニ獻ゼシ事アリ次ニ和泉ノ人木谷久左衛門モ亦暹羅ニ在リ大ニ國寇ヲ破リ功ヲ以テ封爵ヲ受ク次ニ又長崎ノ人濱田彌兵衛頗ル膽勇アリ其徒數十人ト臺灣ニ航シ我商買ヲ苦メシ和蘭人ヲ責メテ損害ヲ償ハシメ質子ヲ收メテ歸ル時ニ寶永五年(八二)ナリキ皆共ニ我武名ヲ海外ニ轟カシ海國男子ノ真相ヲ表ハセリ

(二五四) 德川幕府ノ鎖國主義ヲ執リシ所以ヲ問フ

始メ豊臣ハ切支丹ヲ嚴禁セシガ徳川氏ニ至リ禁令稍々弛ミ其教次第ニ傳播セリ此時ニ當リ和蘭人ハ葡萄牙人ノ我國ニ於ケル勢ノ益々盛ナルヲ忌ミ其布教ノ目的ハ國土侵畧ニアルヲ家康ニ告グ家康之ヲ信ジ乃チ禁令ヲ嚴ニシ宣教師ヲ逐ヒ信者ヲ阿瑪港ニ追放セリサレド一方ニ於テハ通商ヲ許シ、カバ信徒跡ヲ絶タズ寛永十一年(九二)家光更ニ禁令ヲ嚴ニシ終ニ國人ノ縦ニ海外ニ渡航スルヲ禁ズ寛永十二年(九三)ニ至リ長崎一港ヲ以テ互市場ニ充テ其他ヲ鎖シテ布教ヲ嚴ニシ交通ヲ禁ジケレバ宛然鎖國主義ヲ執リシ姿勢トナリ世界ノ大勢ヲ知ル能ハザルニ至レリ

(二五四) 島原天草ノ亂ノ顛末如何

鎮國主義ノ不利ハ云フモ更ナリ又一方ニ於テハ耶蘇信徒ノ憤怨ヲ醸シ島原天草ノ亂アルニ至レリ寛永十四年(二二二)肥前天草ニ益田四郎時貞トイフ者アリ年僅ニ十六天姿秀美頗ル耶蘇教ニ通シ幻術ニ長シ自ラ天使ト稱ス小西行長ノ遺臣森宗意等マタ此信徒ナリシガ徳川氏ニ對シテ政治上宗教上ノ舊恨ヲ散ゼント欲シ時貞ヲ奉ジテ主將トシ不平ノ信徒ヲ會シテ兵ヲ天草ニ擧ゲ急ニ襲フテ島原城ヲ取り是ニ據レリ家光乃チ板倉重昌ヲシテ征セシメシガ城堅クシテ拔ケズ翌十五年(二二二)更ニ松平信綱ヲシテ赴キ援ハシム重昌功ナキヲ耻ヂ奮戰シテ死ス信綱城ヲ圍ミ糧道ヲ斷チ數月ニシテ賊遂ニ平グヲ得タリ

(二二五)宗門改及ビ踏繪トハ如何

島原ノ亂以來全ク耶蘇教ヲ嚴禁シ國民ハ必ズ佛教ノ宗門ニ歸セシメ生死婚嫁皆寺僧ノ檢印ヲ取り毎年戸口ヲ檢セシメ其宗徒タルコトヲ證セシム之ヲ宗門改トイフ是ニ由テ戸籍モ亦一變セリ又耶蘇教ノ疑アルモノハ耶蘇ノ畫像ヲ踏マシメテ眞否ヲ決ス之ヲ踏繪トイフ

(二二六)慶安ノ叛亂トハ如何

慶安四年(二二三)三代將軍家光薨ズ世子家綱職ヲ襲グ年甫メテ十一叔父保科正之ヲ初メ井伊直孝酒井忠勝松平信綱阿部忠秋等ノ諸老心ヲ盡シテ大政ヲ輔弼スサレド當時戰國ノ習トシテ所謂浪人ナル者多ク黨ヲ結ビ屢々不穩ノ擧アリキ家綱襲職ノ年浪人由井正雪丸橋忠彌亂ヲ起サントシテ謀泄ル幕府先ツ忠彌ヲ江戸ニ捕フ正雪駿河ニ在リ事ノ破レシヲ知り其黨ト共ニ自殺シ事治マル之ヲ慶安ノ亂トイフ

(二二七)綱吉ノ弊政ヲ略述セヨ

五代將軍綱吉(家綱ノ弟 館林公)就職ノ初メニハ政治見ルベキモノアリシモ晩年政ヲ見ズ只管遊宴ニ耽リ驕奢ヲ極ム貞享元年(二二三)大老堀田正俊若年寄稻葉正休ニ害サレシヨリ後綱吉嬖臣柳澤吉保ヲ寵シ政務ヲ委テ遂ニ擢デ、老中トナシ甲府十五萬石ニ封ズ吉保奸佞威ヲ弄ス元祿ノ弊政乃チ是ヨリ起リ府庫次第ニ缺乏シ國用足ラザルヲ以テ勘定奉行萩原重秀ノ議ヲ用ヒテ金銀貨ヲ改錢シ銅錫ヲ多ク雜ヘテ所謂元祿金銀ヲ作レリ以テ一時ノ急ヲ濟ヘリサレド物價爲メニ騰貴シ又賈造ノ弊モ生ジ大ニ財政ノ紛亂ヲ極ムルニ至レリ

(二五八) 赤穂義士復讐ノ顛末如何

輕浮淫靡風ヲナス元祿時代ニ於テ赤穂四十七士其主ノ爲メニ仇ヲ復シ士人ノ醉夢ヲ覺破セリ初メ元祿十四年(二三)年賀ノ勅使江戸ニ來ル幕府赤穂ノ城主淺野長矩ヲシテ之ヲ饗セシム吉良義英職ヲ以テ禮典ニ預リ大ニ長矩ヲ辱シム長矩怒テ義英ヲ殿中ニ傷ク幕府其不敬ヲ罰シ死ヲ賜ヒ封ヲ沒ス其遺臣大石良雄等義英ヲ讎トシ四十七人相盟ヒ翌年(二四)十二月義英ノ邸ヲ襲ヒ之ヲ殺ス幕府議シテ其徒ニ死ヲ賜フ悉ク長矩ノ墓側ニ葬ル時人其忠ヲ稱シ義士トイフ泉岳寺之ヲ以テ名アリ香花今尙墓前ニ絶エス

(二五九) 新井白石ノ事蹟如何

將軍綱吉薨シテ嗣ナシ其兄綱重子ノ家宣入りテ嗣グ前代ノ嬖臣柳澤吉保ヲ黜ケ間部詮房ヲ登用シ又新井君美將軍ノ世子タリシ時ヨリ師タルヲ以テ殊ニ重用セラル君美白石ト號シ博學多識頗ル經綸ノ才アリ詮房ト共ニ將軍ヲ輔弼シ前代ノ積弊ヲ改革セリ王政衰ヘテヨリ皇族皆佛門ニ歸スルヲ例トシ親王ニ拜セラル、ハ有栖川伏見京極ニ過キザリキ白石之ヲ慨キ寶永中家宣ニ建議シテ皇子ハ悉ク親王トナシ皇女ハ降嫁アラシメント請

フ家宣之ヲ嘉ミシ奏シテ皇弟(中御門天皇ノ御弟)直仁ヲ親王トス閑院宮是ナリ後ニ光格天皇是ヨリ出デ、大統ヲ繼ギ給フ王政復古ノ機或ハ茲ニ發セリト云フヲ見レバ白石ノ功モ亦偉ナリ又建議シテ朝鮮使節ノ待遇ヲ卑ウセリ其議家齊ニ至リテ行ハル又綱吉以來財政益々困難ニ陥リ萩原重秀久シク財政ノ衝ニ當リ私利ヲ營ム閣老ト雖凡其姦ヲ知ラズ白石獨リ之ヲ知リ強請シテ重秀ヲ斥ケ貨幣ヲ改鑄シ慶長ノ古制ニ復ス故ニ是ヨリ物價大ニ平準ナルヲ得タリ之レ白石ノ重ナル事蹟ナリトス

(二六〇) 德川吉宗ノ中興ヲ略叙セヨ

七代將軍宗繼薨シテ嗣ナシ享保元年(二六)紀伊頼宣ノ孫吉宗入りテ嗣グ吉宗英明ニノ膽略アリ大ニ幕政ノ衰頹ヲ慨シ自ラ政ヲ執リ勵精治ヲ圖ル是ニ於テ綱紀振張シ上下皆風靡ス世以テ德川氏中興ノ賢主トス其襲職ノ始メ先ツ後房ノ婦女五十餘人ヲ放チ又目安箱ヲ評定所ニ設ケ言路ヲ開クマタ法令七十條ヲ定メテ之ヲ諸國ニ頒チ庄屋名主ヲシテ村民ヲ會シテ讀示セシム會テ大岡忠相ノ公明ナルヲ聞キ擢テ、江戸町奉行トス後寺社奉行ニ進ミ遂ニ大名ニ列ス忠相吏務ニ長ジ最モ善ク刑獄ヲ斷シ裁決流ル、

●(享保ノ治トハ如何) 上ゲ米足シ高ノ制トハ如何

如ク民皆神明歎ク可カラストイフニ至ル其他室鳩巢荻生徂徠等ノ儒者ヲ顧問トシ意ヲ政治ニ用キルコト篤カリシカバ天下大ニ治マル世稱シテ享保ノ治トイフ吉宗又意ヲ刑法ニ留メ老臣奉行ト討議シ御定書百ヶ條ヲ定ムコレ寛保年間ニナリシカバ之ヲ寛保律トイヘリ又諸侯ニ令シテ其石高百分ノ一ヲ上ラシメ以テ前代以來府庫ノ窮乏ヲ補フ之ヲ上米トイフ後ニ此制止ム次デ足高ノ制ヲ定ム足高トハ職毎ニ俸ヲ一定シ之ニ任ズルモノ、家祿其俸額ニ充タザレバ之ヲ増給ス乃チ其増額ヲイフナリ職罷メバ原祿ニ復ス吉宗又大ニ西洋ノ學術ヲ獎勵セシカバ天文地理醫術著シク發達セリ其他殖産ノ事業ニ深ク意ヲ用ヒシガ國産大ニ上リ豊歲相次ギ府庫忽チ充實ス實ニ中興ノ明主トナス過言ニアラザルナリ

(二六二) 寛政ノ治トハ如何

天明六年(二四)十代將軍家治薨ス嗣ナシ吉宗ノ曾孫家齊一ツ橋家ヨリ入リテ嗣ク家齊明敏就職ノ始メ前代ノ姦佞田沼意次ヲ黜ケ白川城主松平定信(越中守吉)ノ賢名ヲ聞キ舉ゲテ老中トシ大政ヲ補ケシム當時ハ前代ヨリノ弊政益々加ハリ剩ヘ凶歎相續キテ幕政頗ル困難ナリシガ定信絶群ノ英

才ヲ以テ治ヲ圖リ專ラ節儉ヲ行ヒ武備ヲ嚴ニシ賢良ヲ舉ゲ奸邪ヲ斥ケシカバ幕政大ニ振張セリ世稱シテ寛政ノ治トイフ

(二六三) 松平定信ノ事蹟如何

●徒刑ノ嚆矢ヲ問フ

天明八年(二四)京師大火アリ皇城延燒ス定信夙ニ宮城ノ規模狹小ナルヲ慨キ是ニ至リ將軍家齊ニ勸メテ之ヲ經營シ以テ古制ニ復ス光格天皇深ク之ヲ嘉ミシ御製ノ詩ヲ家齊ニ賜フ後人定信ノ舉ヲ稱ス定信又本多忠壽松平信明等ヲ舉用シ銳意治ヲ勵ム乃チ學制ヲ改良シ園穀ノ制ヲ定メ或ハ旗本家臣ノ負債償却ノ法ヲ設ケ或ハ人足寄場ヲ石川島ニ設ケ囚人無宿者ヲ使役ス之レ徒刑ノ始メナリマタ御定書ヲ修正シテ所謂寛政律ヲ定ム又寛政年間露人蝦夷ニ來リ屢々不穩ノ舉アリシカバ定信自ラ房總ノ沿海ヲ巡視シ海防ヲ嚴ニス其他施政ノ重ナルモノ甚ダ多シ在職六年文化九年(二七)致仕シテ樂翁トシ文墨風月ヲ友トシ以テ餘生ヲ送レリ

(二六四) 尊王主義ノ起源ヲ叙セヨ

●竹内式部山縣大貳藤井右門ノ名ヲナセシ所以如何

徳川幕府政權ヲ專ラニシ皇室ノ陵夷既ニ久シク人皆將軍アルヲ知テ天子アルヲ知ラズ歷世ノ天皇之ヲ憤リ憂國ノ士之ヲ歎ズルモ如何スル能ハザ

リキ然レ此時代ノ中頃以降幕勢漸ク傾キシト共ニ文學ノ士次第ニ顯ハ
 レ大ニ大義名分ヲ説キシカバ尊王主義是ヨリ起リ遂ニ幕府轉覆ノ基ヲ開
 ケリ寛文ノ頃(二三三)山崎闇齋垂加流ノ神道ヲ唱ヘ其門人淺見綱齋猷遺
 言ヲ著ハシテ勤王ノ志ヲ述ブ桃園天皇ノ時ニ至リ京師ノ浪士竹内式部亦
 垂加流ノ神道ヲ唱導シ子弟ニ教授シ朝紳ノ間ニ出入シ常ニ曰ク「當今將
 軍アリテ天子ノ尊ヲ知ラズ是レ君臣ノ不學ニ由ル君臣共ニ學徳アラバ自
 ラ公家一統ノ世トナラン」ト公卿多ク之ニ就キテ講學練武ニ餘念ナカリ
 シガ關白近衛内前之ヲ幕府ニ告グ幕府公卿十七人ヲ譴責シ式部ヲ逐フ後
 櫻町天皇ノ時ニ至リ甲斐ノ與力山縣大貳尊王ノ大義ヲ江戸ニ唱ヘ藤井右
 門マタ式部ト其説ヲ同フシ相善シ幕府之ヲ忌ミ獄ニ下シテ大貳右門ヲ斬
 リ式部ヲ流ス時ニ明和四年(二二四)ナリキ尊王ノ士茲ニ始メテ起リ不日幕
 府ノ轉覆ヲ見ルニ至レリ

(二二六四) 寛政ノ三偉人ノ事蹟如何

竹内式部等勤王ヲ唱ヘシ後仙臺ノ人林友直(平)海外ノ事情ニ通ジ海國兵
 談ヲ著ハシ大ニ邊防ノ必要ヲ説ク之レ實ニ鎖國ノ夢ヲ破ル警鐘ナリキ又

上野ノ人高山正之(彦九)王室ノ衰替ヲ慨キ窃ニ興復ノ志ヲ懷ケリ嘗テ三
 條橋上ニ跪キ遙ニ宮城ヲ拜シ草莽ノ臣彦九郎ト稱ス常ニ諸國ヲ遊歴シテ
 朝野ノ志士ニ結ビ大ニ成スアラントスルモ遂ニ志ヲ得ズシテ自殺セリ次
 ニ下野ノ人蒲生秀實(君平)モ亦慷慨氣節ノ士夙ニ國史ヲ修メテ歷朝山陵ノ
 荒廢ヲ歎キ自ラ荆棘ヲ拓キ之ヲ探討シ山陵志ヲ著ハス世此三人ヲ稱シテ
 寛政ノ三偉人トイフ

(二二六五) 家齊時代ニ於ケル邊要ノ警備如何

●近藤守重、伊能忠敬
 近宮倫宗ノ事蹟ヲ問フ

是ヨリ先明和年間(二四二)ヨリ露人屢蝦夷地方ヲ犯シ、カバ幕府頗ル之ガ
 警戒ニ怠ナカリキ寛政年間(二四三)松平定信房總地方ヲ巡視シ海防ヲ嚴ニ
 セシム次デ近藤守重(重藏)ヲシテ蝦夷ヲ巡視セシメ伊能忠敬ヲシテ蝦夷及
 ビ諸道諸島沿海ヲ測量セシム十八年ニシテ日本輿地實測圖始メテ成ル又
 間宮倫宗(林藏)ヲシテ蝦夷樺太ノ二島ヲ測量セシメ更ニ松前氏ノ封ヲ割キ
 函館以東ヲ直隸トシ南部津輕ノ二藩ヲシテ警衛セシム享和二年(二四三)箱
 館奉行ヲ置キ警備ヲ嚴ニセリ其後英船亦長崎ニ來リ掠奪ヲ逞フス文政八
 年(二四八)幕府遂ニ諸藩ニ令シテ外船ノ來ル毎ニ之ヲ砲撃セシム

(二六六)大鹽平八郎ノ亂ヲ記セヨ
 天保七年(二四九)國內大ニ饑饉シ餓死スルモノ多シ大坂ノ與力大鹽平八郎頗ル氣節アリ王陽明學ニ通ズ飢民ノ窮苦ヲ歎キ藏書ヲ賣リテ之ヲ濟フ然ルニ幕吏等百姓ノ困苦ヲ顧ミザリシカバ八年(二四九)二月上書シテ官穀ヲ賑ハシテ之ヲ救ハン事ヲ請フ町奉行跡部良弼之ヲ省ミス是ニ於テ平八郎激憤シテ更ニ私財ヲ散ジテ窮民ヲ賑ハシ同志ト黨ヲ結ビ救民ヲ名トシ火ヲ放チテ府廳ニ迫ル大坂ノ兵之ヲ討ズ平八郎自殺シ事鎮マリヌ

(二六七)天保ノ改革トハ如何

天保八年(二四九)家齊職ヲ其子家慶ニ讓ル老中水野忠邦(越前守)之ヲ輔任ス此時ニ當リ幕政再ビ弛緩シ風俗ノ紊亂甚シ忠邦資性英明大ニ之ヲ憂ヒ積年ノ弊風ヲ一掃シ享保寛政ノ治ニ復セント欲シ治道ヲ松平定信ニ諮ヒ痛ク苛酷ニ流レシカバ人心服セズ且鳥居忠耀(甲斐守)ヲ町奉行ニ擧用ス忠耀奸才ニ長ケ頗ル貨利ヲ好ミ同僚矢部定謙(駿河守)廉直ニノ功績アルヲ忌ミ之ヲ讒ノ桑名ニ禁錮スルニ至ル忠邦是等ノ事ヲ以テ上下ノ怨ヲ招キ天保十

四年(二五〇)職ヲ罷メラレ阿部正弘(伊勢守)之ニ代リテ事ヲ執ル世之ヲ天保ノ改革トイフ

(二六八)米國使節ベるり渡來ノ顛末如何

嘉永六年(二五三)六月二日米國使節ベるり軍艦四艘ヲ率キテ突然浦賀ニ來リ國書方物ヲ奉リテ通好互市ヲ乞フ浦賀奉行戸田氏榮及ビ儒者林健等久里濱ニ詣リ之ニ接ス幕議以爲ラク宜シク大ニ兵備ヲ修メ衆議ヲ問フテ後答フ可シト乃チ氏榮等ヲシテベるりニ諭シ答書ヲ明年ニ約セシム翌安政元年(二五四)一月ベるり約ノ如ク再ビ軍艦七艘ヲ帥キテ浦賀ニ入り進シテ品川ニ至リ前年ノ答書ヲ求ム幕府止ムコトヲ得ズ遂ニ下田長崎箱館ノ三港ニ於テ薪水食料等ヲ給スルコトノミヲ許ス然レモ未ダ互市ヲ許サズ尋テ英佛露ノ使節モ亦至ル皆米國ノ例ニ倣ハシメタリ

(二六九)吉田松陰佐久間象山ノ事蹟ヲ舉ゲヨ

●米艦渡來ノ影響如何

ベるりノ來朝ハ實ニ我形勢ヲ一變セシメタル大事件ニシテ或ハ鎖國ヲ唱ヘ物議囂々タリ時ニ長州ノ志士吉田松陰幕府ノ姑息ヲ慨シ遂ニ下田ニ至リベるりノ船ニ就キ海外ニ航スル便乗ヲ求ムベるり許サズ幕府國禁ヲ犯

スヲ答メ獄ニ下ス其師佐久間象山之二坐シテ罪セラハ象山ハ松代藩ノ人博學多聞西洋書ニ通シ專ラ開國說ヲ執リシカバ後ニ京師ニ於テ鎖國浮浪ノ輩ノ刺ス所トナレリ

(二七〇) 米國使節はるりす渡來ノ始末如何●井伊直弼ノ事蹟ヲ問フ

安政三年(二五) 米國使節はるりす國書ヲ齎ラシテ下田ニ來リ將軍ニ謁シ通好貿易ヲ請フ老中堀田正篤外交ノ事ヲ掌リ頻リニ開港ヲ主張シ其情ヲ容レテ之ヲ許サント欲ス然レモ物議ヲ憚リテ遂ニ勅裁ヲ仰グ孝明天皇深ク利害ヲ慮リテ容易ニ許シ給ハズ輿論ニ亦鎖港ヲ主トセリ當時幕府ニハ内ハ將軍家繼承ノ論アリテ親藩ト和セズ外ハ米使ノ請求益々急ニシテ正篤等大ニ苦ム時ニ將軍家定彦根城主井伊直弼(攝部)ヲ舉ゲテ大老トス直弼剛邁果斷ニシテ絶對開港論者ノ領袖ナリケレバ敢テ勅裁ヲ俟タズ安政五年(二五)六月遂ニはるりすト議シ假條約ヲ締結シ長崎函館兵庫神奈川(橫濱)新潟ノ五港ヲ開キ貿易ヲ許セリ次テ露佛英蘭ノ四國モ皆此例ニヨリテ條約ヲ結ビ又其後葡萄牙普露士瑞士白耳義伊太利丁抹等モ通商ヲ乞フ皆之ヲ許セリ

(二七一) 安政ノ獄トハ如何●家茂襲職ノ次第ヲ問フ

十三代將軍家定子ナシ人皆齊昭(水月)ノ子一橋慶喜ニ望ヲ屬スサレド大老井伊直弼衆議ヲ排シテ慶喜ヲ斥ケ家茂ヲ紀伊ヨリ迎ヘ立ツ勤王ノ志士直弼ノ恣ニ條約ヲ結ビ且專横ナルコト斯クノ如キヲ憤リ交々起テ之ヲ駁撃セシカバ直弼遂ニ德川慶勝(尾張)同齊昭(水月)松平慶永(越前)等ノ親藩ヲ屏居セシメ朝臣近衛忠熙鷹司輔熙三條實美等ノ公卿ヲ幽シ志士橋本左内頼三樹三郎梅田源次郎吉田松陰安島帶刀以下數十人ヲ捕ヘテ斬流禁錮セリ世ニ之ヲ安政ノ獄トイフ

(二七二) 櫻田ノ變トハ如何

安政五年(二五) 井伊直弼大老トナリテ外交創始ノ局ニ當リ世論囂々ノ如何ヲ顧ミズ勅許ヲモ俟タズシテ通好貿易ヲ結ビ或ハ衆議ヲ排シテ家茂ヲ立テ或ハ親藩ヲ黜ケ志士ヲ錮シ其自ラ讓ラザルノ剛愎ハ甚ダ專斷ニ過グ是ニ於テ上下益々激昂セリ萬延元年(二五)三月三日水戸藩ノ浪士佐野竹之助等十七人直弼ノ登城ヲ要シテ之ヲ櫻田門外ニ刺セリ之ヲ櫻田ノ變トイフ

島津久光江戸ヨリ歸リ途ニ生麥ヲ過グ英人四名其行列ヲ犯ス前驅ノ士其無禮ヲ怒リ之ヲ斬ル英艦品川ニ來リ償金ヲ幕府ニ求ム幕府已ムヲ得ズ四十五萬弗ヲ出シテ事漸ク治マル時ニ文久三年(二二五)ナリキ

(二七四)天誅黨トハ如何

徳川幕府ノ末路ニ當リ尊王攘夷ノ説益々盛ニシテ遂ニ天皇ノ親征ヲ請フニ至リシカバ文久三年(二二五)八月孝明天皇大和ニ幸シ神武天皇ノ御陵ヲ拜シ給ヒ親征ノ議ヲ決セントス會々會津侯松平容保京都守護職トナリ中川宮尊融法親王及ビ薩藩ト結ビテ計ル所アリ朝議俄ニ一變シテ行幸ヲ停メ長藩ノ護衛ヲ解キ三條實美以下七卿ヲ屏息セシム是ニ於テ毛利慶親父子ハ國ニ就キ七卿亦長門ニ奔ル是ニ於テ志士激昂益々甚ダシク藤本鐵石松本奎堂等大ニ憤リ中山忠光ヲ奉ジテ黨ヲ結ビ自ラ天誅黨ト稱シ大和五條ノ代官廳ヲ襲ヒ軍資ヲ收メ天河ノ險ニ據ル幕兵之ヲ破リ事平ギヌ其他平野國臣ハ但馬ノ生野ニ據リシカド亦幕兵ニ敗ラレタリ

(二七五)長州征伐ノ顛末如何

親征ノ議止ミシ時ニ當リ長藩ノ士大ニ松平容保ノ所爲ヲ憤リ速ニ之ヲ除キ藩主ノ冤ヲ訴ヘント欲シ兵ヲ舉ゲテ京師ニ入ル藩老福原元圃(越後國司)朝相益田親施藩士來島正久久坂通武等其主魁タリ會津薩摩ノ諸藩防戰シテ之ヲ破リ卻ク通武等戰死シ元圃等遁レ還ル幕府大ニ怒リ奏請シテ長藩ノ罪ヲ責メ毛利一族ノ官爵ヲ削リ有栖川熾仁親王以下七十餘人ヲ幽シ徳川慶勝ヲ總督トシ二十一藩ノ兵ヲ發シテ之ヲ討タシム長藩一意恭順ヲ表シ元圃等三老ヲ斬リ以テ罪ヲ謝ス慶勝乃チ師ヲ班ヘシ實美等ヲ太宰府ニ幽ス時ニ元治元年(二二五)ナリキ然ルニ開戰黨ノ首領高杉晋作等恭順謝罪ヲ非トシ是ヲ以テ俗論黨ノ所爲ニ出デタリトシ翌慶應元年(二二五)兵ヲ舉ゲテ俗論黨ヲ破リ以テ國ニ徇フ長防二州ノ士氣是ニ至リ更ニ興奮ス幕府之ヲ聞キ再ビ征討ノ師ヲ起シ五月將軍家茂大坂ニ至リ軍ヲ督ス然ルニ幕府財用足ラズ征討ノ諸將マタ闘志ナシ是ヲ以テ長藩ノ兵勢日ニ振フ會々家茂大坂ニ薨ズ朝議乃チ征長メ師ヲ止メ一橋慶喜ヲシテ職ヲ嗣ガシム是ニ於テ幕勢全ク地ニ墜チタリ

(二七六)兵庫開港ノ次第ヲ述ベヨ

●今上天皇御即位ノ年代如何

慶應二年(二二六)孝明天皇崩ス翌二年(二二五)皇太子御位ニ即キ給フ。コレ實ニ敎聖文武一天萬乘ノ今上天皇ナリ天皇時ニ御年十六大喪ニヨリテ恩赦ヲ行ヒ熾仁親王以下三條實美等ノ諸卿ノ幽禁ヲ釋ク是時長門ノ事件未ダ全ク定ラズ英米佛蘭ノ公使等軍艦ヲ連テ兵庫ニ入り開港ヲ強請シ内外騷然タリ時ニ國民漸ク攘夷ノ難キヲ知リ松平慶永鍋島齋正山内豊信島津久光等モ亦建議スル所アリ四月遂ニ兵庫港ヲ開ケリ

(二二七)幕府大政奉還ノ次第ヲ叙セヨ

慶應二年(二二六)九月土佐侯山内豊信其臣後藤象次郎福岡孝悌等ヲ幕府ニ遣ハシ建議シク曰ク「中世以降武家政ヲ執リシヨリ政令一途ニ出デス内訌止ム時ナシ今ヤ時勢漸ク變ズ速ニ大政ヲ皇室ニ奉還シ人心ノ歸スル所ヲ定メ以テ萬國ト對峙スルノ基ヲ樹ツベシ」ト安藝侯淺野茂長モ亦之ヲ勸メシカバ將軍慶喜又大ニ時勢ヲ察シ乃チ諸侯ヲ二條城ニ會シ奏案ヲ議決シ謹デ大政ヲ奉還ス是レ實ニ慶應三年(二二五)十月十四日ナリキ家康府ヲ開キシヨリ十五代二百六十八年鎌倉幕府創立ヨリ六百八十三年ニシテ大權皇室ニ歸ル武家執政ノ時代ハ遂ニ終ハリヲ告ゲヌ

(二二八)徳川時代ニ於ケル儒學ノ有様如何

●徳川時代ニ於ケル有名ナル漢學者ヲ舉ゲヨ

此時代ノ儒學ハ實ニ藤原惺窩ヨリ起リヌ惺窩大ニ程朱ノ學ヲ唱フ門人林信勝(春道)松永尺五那波活所等アリ信勝幕府ニ仕ヘテ文筆ノ事ヲ掌リ大學頭ニ登ル信篤ニ至リ聖堂及ビ學問所ヲ湯島ニ建ツ之レ昌平校ノ基ナリ寛永ノ頃近江ノ人中江藤樹王陽明學ヲ唱ヘ頗ル德行アリ世ニ近江聖人トイフ其弟子熊澤蕃山マタ備前侯池田光政ヲ輔ケテ名アリ次デ京都ノ人伊藤仁齋子東涯復古學ヲ唱ヘ荻生徂徠太宰春台之ヲ江戸ニ唱フ又東都ノ人木下順庵ハ松永尺五ノ門ニ出デ其學ヲ唐宗ニ派別セズ博通不偏ヲ旨トシテ之ヲ唱フ其弟子新井白石室鳩巢才學一世ニ冠絶セリ儒學カクノ如ク盛ナルヨリ學者ノ間ニ漸ク門戸ノ争ヲ生ズルニ至リヌ

(二二九)徳川時代ニ於ケル國學復興ノ次第ヲ述ベヨ

●徳川時代ニ於ケル有名ナル國學者ヲ舉ゲヨ

足利氏ノ頃ヨリ天下大ニ亂レ文筆ノ事ハ獨リ僧侶ノ手ニ歸シ僅ニ其命脈ヲ繼續セリ徳川氏ニ至リ天下幸ニ亂レズ從テ漢學勃興シ又一方ニハ國學モ漸ク復起セリ元祿ノ頃下河邊長流トイフ者大坂ニ在リテ國學ノ煙滅

センコトヲ痛ク憂ヒ古代ノ國學ヲ研究ス其友僧契沖長流ニ次ギテ大ニ國學ヲ唱導ス其門人加茂真淵次デ本居宣長平田篤胤ノ出ヅルニ及ビ遂ニ之ヲ大成セリ

(二八〇) 洋學傳來ノ次第如何

● 始メテ洋學ヲ研究セシ人如何

我國ニテ洋書ヲ譯シ始メテ外國ノ事情及ビ言語ヲ研究セシモノヲ新井白石トス尋デ青木文藏モ亦蘭學ヲ長崎ニ學ブ其後前野良澤杉田玄白大槻玄澤等相承ケ之ヲ研究シ醫術理化學大ニ開發セリ今日學術ノ基礎ハ實ニ此時ニ在リシナリ

(二八一) 徳川時代ニ於ケル戯曲小説俳諧狂歌狂句ノ泰斗ヲ擧ゲヨ

戯曲ニハ近松門左衛門小説ニハ曲亭馬琴俳諧ニハ松尾芭蕉狂歌ニハ太田南畝狂句ニハ柄井川柳アリ皆共ニ其道ヲ以テ一世ヲ風靡セリ

(二八二) 徳川時代ニ於ケル大著述ヲ擧ゲヨ

著述ノ重大ナルモノハ大日本史ヲ以テ第一トシ之ニ次グヲ本朝通鑑正續群書類聚トス大日本史ハ水戸ノ主徳川光圀(義公)ノ編スル所ニシテ大義名分ヲ明ニス本朝通鑑ハ林氏幕命ヲ受ケテ編スル所ナリ群書類聚ハ盲人塙

保巳一ガ逸書珍寶ヲ搜索シテ編スル所ナリ

(二八三) 徳川幕府時代ノ風俗ノ一斑ヲ擧ゲヨ

小兒誕生ノ後七夜宮參等ノ祝アリ其間ニ字ヲ命ズ男子二十歳ニ至レバ廣ク前髪ヲ剃リ名ヲ改ム之ヲ元服トイフ天龜天正時代マデ男子ハ皆鬚髮ヲ存シ之ヲキヨツル風アリシモ此時代ニ至リテハ之ヲ剃ル事トナレリ又婦人ハ始メ垂髮ナリシガ室町時代ノ末ヨリ結髮ノ風トナリ此時代ニ至リ島田鬚丸鬚等起レリ又衣期ハ素襖狩衣長袴等ヲ士以上ノ禮服トシ上下ハ士民一班ノ禮服トセリ羽織マタ大ニ行ハル士人以上ハ双刀ヲ佩グ又男子外出スル時ハ編笠ヲ戴クモ庶人ハ烈日炎天ト雖モ露頭ニテ往來スルモアリタリ次ハ家屋ハ江戸ニ於テハ火災多キガ故ニ幕府其制ニ關涉シ務メテ瓦葺及ビ土藏造ヲ建テシム又諸侯ノ第宅ハ大概同一ニシテ立關書院ヲ設ケ門ノ左右ニ長屋ヲ設ケ或ハ伏舎ヲ建テ門番所トイフ庶民ノ家ハ又制限アリテ猥リニ宏壯ナルモノヲ許サハリキ又諸侯ノ其國ニ在リテハ城郭ヲ構ヘ其風凡テ江戸ニ類セリ

第七編 今代史

今上天皇ノ明治元年ヨリ今日マデ凡ソ三十四年間

(二八四) 德川幕府轉覆ノ大原因ヲ擧ゲヨ
德川幕府一朝ニシテ轉覆シ大政復古ノ偉業ヲ見ルニ至リシハ其原因遠近種々アレモ就中重ナルモノ四アリ曰ク外交上ノ難問曰ク尊王主義ノ勃興曰ク西洋文明ノ侵入曰ク幕政ノ腐敗是ナリ

(二八五) 王政維新トハ如何

慶應三年(二七五) 征夷大將軍德川慶喜大政ヲ奉還シ尋テ又其職ヲ解カント請フ朝廷乃チ諸侯ヲ會シテ新政ヲ議定ス岩倉具視西鄉隆盛等畫策スル所多シ十二月九日先ヅ三條實美以下七卿ヲ召還シ毛利慶親父子ノ罪ヲ赦ス攝政關白征夷大將軍等ノ官職ヲ廢シ新ニ總裁議定參與ノ三職ヲ置キ有栖川熾仁親王ヲ總裁トシ仁和寺宮嘉彰親王山階宮晃親王三條實美岩倉具視德川慶勝(尾)島津茂久(摩)松平慶永(越)山内豐信(土)ヲ議奏トシ大原重徳西鄉隆盛木戸孝允大久保利通井上馨後藤象次郎等ヲ參與トス乃チ勅シテ萬機ヲ親裁シ幕府ノ良法ハ舊ニ仍リ博ク公議ヲ採ル是ニ於テ大政全ク朝

廷ニ復ス世之ヲ稱シテ王政維新トイフ

(二八六) 鳥羽伏見ノ戰ノ始末ヲ問フ

明治ノ新政ナルヤ將軍慶喜猶二條城ニ在リシガ是ニ於テ朝廷其辭職ヲ許シ又内諭シ内大臣ヲ辭セシメ且ツ封土ヲ入レシメントス然ルニ會津桑名ノ諸藩士大ニ激昂シ此改革タルヤ強藩幼帝ヲ挾ンデ威福ヲ弄スルモノトナス慶喜モ亦稍々疑惑スル所アリ其舊臣ヲ率キテ大坂城ニ退ク會々飛報江戸ヨリ至ル曰ク「江戸ノ薩摩藩邸兵ヲ搆フ」ト幕臣益々怒リ意ヲ決シテ薩藩ヲ京師ニ討タント欲シ明治元年(二八五) 正月會津桑名ノ二藩君側ヲ清ムルヲ名トシ慶喜ヲ擁シテ入京セントス薩長ノ兵之ヲ鳥羽伏見ニ邀ヘ撃ツ交戦四日勝敗未ダ決セザリシニ佐幕ノ津藩(藤)俄ニ官軍ニ應ゼシヨリ幕兵大敗シテ大坂ニ走リ慶喜以下海路ヨリ江戸ニ遁ル是ニ於テ朝廷慶喜以下ノ官位ヲ褫キ熾仁親王ヲ征討大都督トシ西鄉隆盛等ヲ參謀トシ幕府ヲ討タシム幕府大ニ驚キ諸臣ヲ會シテ方略ヲ議ス慶喜衆議ヲ排シテ一意恭順ヲ表シ寛永寺ニ退キ勝安房ヲシテ官軍ニ至ラシメ順意ヲ陳ズ朝廷乃チ城池軍艦兵器ヲ收メテ其罪ヲ宥シ水戸ニ退カシム田安家達入ツテ宗家

ヲ繼ギ江戸鎮定セリ

(二八七) 戊辰ノ役ノ始末如何

明治元年(二八五)慶喜ノ江戸ニ幽閉セララル、ヤ幕臣之ヲ憤リ榎本武揚ハ軍艦ヲ率キテ北海ニ遁レ大島圭介ハ其黨ヲ集メテ下總ニ奔リ池田大隅等ハ東叡山ニ據リ輪王寺宮公現法親王(故能久親王)ヲ奉シテ官軍ニ抗ス諸藩ノ逋逃來リ集ル稱シテ彰義隊トイフ五月大村益次郎等討テ平グ之ヲ上野戰爭トイフ此時親王會津ニ走ル尋デ圭介亦官軍ト常野ノ間ニ戰ヒ敗レテ會津ニ奔ル是ヨリ先會津藩主松平容保ハ慶喜ト共ニ早ク大坂ヨリ遁レ歸リシガ直ニ其領地ニ入り若松城ニ據テ官軍ニ抗ス仙臺米澤ノ二藩等多ク之ニ應ジ兵勢盛ナリ官軍乃チ東海東山北陸ノ三道ヨリ進ミ先ヅ沿道ノ諸城ヲ陷レ共ニ若松城ヲ圍ム城固クシテ拔ケズ攻戰數旬城内糧盡キ容保遂ニ出デ降ル其他ノ諸侯亦皆降り奥羽平定セリ之ヲ戊辰ノ役トイフ

(二八八) 函館戰爭トハ如何

戊辰ノ役ノ當時幕臣榎本武揚ハ軍艦八艘ヲ帥キテ函館ニ逃レシガ大島圭介マタ會津ヨリ殘兵ヲ率キテ來會シ共ニ五稜郭ニ據リ兵勢盛ナリ官軍海

陸並ビ進ンデ之ヲ攻ム偶々武揚等風濤ノ爲メニ戰艦ヲ失ヒ官軍マタ切リニ歸順ヲ勸メシカバ武揚圭介遂ニ出デ降リ北陸悉ク鎮定ス時ニ明治二年(二九五)ナリキ

(二八九) 五事ノ御誓文トハ如何

明治元年(二八五)三月今上天皇素宸殿ニ御シ公卿諸侯ヲ率キテ天神地祇ヲ祀リテ五事ヲ誓約シ以テ新政ノ方針ヲ定ム(一)廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スベシ(二)上下心ヲ一ニシ盛ニ經綸ヲ行フベシ(三)官武一途庶民ニ至ルマデ各其志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシムベシ(四)舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ(五)智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシト之ヲ五事ノ御誓文ト云フ是ニ於テ公卿諸侯皆死ヲ以テ叡慮ヲ安ンジ奉ラシコトヲ誓ヘリ蓋シ立憲政體ノ基實ニ茲ニ在リシナリ

(二九〇) 東京奠都ノ次第如何

●天長節ノ起源ヲ問フ

紀元二五二八年(慶應四年ノ頃ニテ明治元年ナリ)八月今上天皇即位ノ大禮ヲ紫宸殿ニ舉ゲ給ヒ元ヲ改メテ明治トシ一世一元ノ制ヲ定ム又光仁天皇ノ制ニ復シ聖誕日ヲ天長節ト稱シテ令シテ毎年九月二十二日(後太陽曆ヲ用ルニ至リ十一月三日トス)ヲ祝セシム

十月東京ニ行幸アリ翌二年(二五)三月遂ニ都ヲ東京ニ奠ム遷都ノ事ハ大久保利通ノ議ニ出デシトイフ蓋シ桓武天皇以來始メテ帝都遷移セシナリ

(二九一) 藩籍奉還ノ次第如何

海内既ニ統一シテ維新ノ政治漸ク其緒ニ就カントス然レモ諸侯尙ホ舊ニ仍テ其土地人民ヲ私有シ朝廷直轄ノ地少クシテ歲入乏シク財政常ニ困難ナリ從テ統一ノ政行ヒ難カリシカバ參與木戸孝允大久保利通等深ク之ヲ憂ヒ各其藩ニ歸リ藩主ニ説クニ大義名分ヲ以テシ其藩籍ヲ奉還セシメントス薩摩(島)長門(利)三藩主之ヲ可トシ將ニ封土ヲ納メントス肥前(鍋)土佐(山)ノ藩主モ亦之ニ應ズ是ニ於テ明治二年(二五)四藩主連署シテ表ヲ上リ其土地人民ヲ奉還シ政令ヲ一途ニ歸セント請フ是ヨリ列藩相踵テ之ニ隨フ朝廷乃チ之ヲ許シ舊藩主ヲ以テ藩知事トシ藩内ヲ治メシメ其藩制ヲ改革シテ府縣ノ例ニ倣ハシム又其俸祿トシテ舊石高ノ十分一ヲ給シ公卿諸侯ヲ廢シテ華族トシ其臣ヲ一班ニ士トセリ

(二九二) 廢藩置縣ノ次第如何

諸侯既ニ藩籍ヲ奉還センカド士民尙ホ封建ノ迷夢ヲ脱スル能ハス其藩知

事ヲ重シ朝廷ヲ輕ンズル風アリシカバ木戸孝允大久保利通西郷隆盛後藤象次郎板垣退助等相議シ廢藩ノ事ヲ謀ル明治四年(三五)天皇正殿ニ御シ悉ク在京ノ藩知事ヲ召シ廢藩置縣ノ詔ヲ下シ給フ因テ新ニ縣知事ヲ任命シ舊藩知事ハ既定ノ俸祿ヲ給シ悉ク華族ニ列シ東京ニ移住セシメ其舊臣ハ皆其本縣ニ貫屬セシメタリ此時全國ヲ三府七十二縣ニ分チシガ此後屢々廢置分合アリテ現今ノ數トナレリ

(二九三) 太陽曆採用ノ年代ヲ問フ

紀元節ヲ定メシ年代ヲ問フ

明治五年(三五)太陰曆ヲ廢シテ太陽曆ヲ用ヒ又神武天皇建都ノ年ヲ紀元トシ以テ紀元節ヲ定ム

(二九四) 征韓論ノ起源如何

朝鮮ハ徳川氏ノ時ニハ屢々來聘セリ因リテ維新ノ始メ朝廷ヨリ使節ヲ遣ハシテ新政ヲ報シ舊好ヲ温メントセシニ彼レ其使節ヲ拒ミ言亦頗ル禮ナカリシカバ陸軍大將西郷隆盛少將桐野利秋等大ニ怒リ征韓ノ議ヲ唱ヘ共ニ自ラ討タント請フ天皇事ノ重大ナルヲ以テ是ヨリ先歐米ニ遣ハサレタル全權大使岩倉具視副使木戸孝允大久保利通等ノ歸朝ヲ待チテ熟議セシ

メントス既ニノ岩倉大使ノ一行歐洲ヨリ歸リ宇内ノ形勢ヲ鑑ミ内治ノ急ナルヲ説キ此議ヲ却ク時ニ參議江藤新平副島種臣後藤象次郎板垣退助モ亦隆盛ニ同意セリ是ニ於テ征韓可否ノ論朝野ニ紛々タリ隆盛利秋ハ岩倉卿ト遂ニ合ハズ皆大ニ不平ヲ懷キ官ヲ棄テ、郷里ニ歸ル江藤板垣副島後藤ノ四參議モ亦職ヲ辭セシカバ天下騷然タリ之レ實ニ明治六年(三三)ノ事ナリキ

(二九五)佐賀熊本及ビ萩ノ騷亂トハ如何

江藤新平ハ征韓論行ハレズ又民選議院設立ノ建白モ容レラザルヲ憤リ郷里佐賀ニ還リ島義勇ト兵ヲ擧ゲテ縣廳ニ迫ル朝廷乃チ内務卿大久保利通陸軍少將野津鎮雄等ヲシテ之ヲ鎮セシム新平義勇忽チ敗レテ逃レシガ後捕斬セラレ事平グ時ニ明治七年(三四)ナリキ九年(三五)熊本ノ士族等新政ヲ喜ハス私ニ黨ヲ結ビ神風連ト稱シ遂ニ亂ヲナス時ニ山口縣萩ノ士族前原一誠等之ニ應シテ又兵ヲ擧ケシガ幾クモナクシテ官兵ノ爲メニ討チ亡サレ事治マリヌ

(二九六)臺灣征伐ノ顛末如何

明治五六年ノ交琉球及ビ備中ノ民臺灣島ニ漂流シ土蕃ノ爲メニ掠殺セラレタルモノアリ乃チ外務卿副島種臣ヲ清國ニ遣ハシテ之ヲ質サシム清廷答フルニ臺灣ハ化外ノ地ナルヲ以テ是ニ於テ明治七年(五三)陸軍少將西郷從道ヲシテ之ヲ征セシム從道兵ヲ率キテ蕃社ヲ平グ清廷臺灣ヲ失ハシトコトヲ恐レ異議ヲ發シ全島ハ其所屬ナリト唱フ因テ參議大久保利通ヲ全權大使トシ清國ニ遣ハシテ談判セシム清國遂ニ償金五十萬兩ヲ出シ事漸ク治マリヌ

(二九七)樺太千島交換ノ始末如何

樺太ハ徳川時代ニ於テ北半ハ露人南半ハ蝦夷人移住シ自ラ南北ノ疆界ヲ形成セリ幕府ノ末年ニ露國ト議シテ國境ヲ確定セントセシガ彼レ聽カズ遂ニ全島兩國雜居地トス爾來紛争起リテ絶ユルヲナシ因テ明治八年(五二)ニ至リ榎本武揚ヲシテ露國ニ談判セシメ遂ニ千島群島ヲ彼ヨリ得テ樺太全島ヲ彼ニ讓リ事漸ク定マリヌ

(二九八)朝鮮江華灣事件ヲ述ベヨ

明治八年(三五)我軍艦雲揚號朝鮮海ヲ過グルヤ薪水ヲ江華島ニ採ル守兵

不意ニ起テ之ヲ砲撃ス我兵應戰忽チ之ヲ破リ砲臺ヲ陷レテ長崎ニ還リ事由ヲ報ズ是ニ於テ征韓論又大ニ起レリ政府乃チ參議陸軍中將黒田清隆ヲ全權辨理大臣トシ議官井上馨ヲ副使トシ軍艦ヲ率キテ往イテ其無禮ヲ詰問セシム朝鮮大ニ恐レ其罪ヲ謝ス是ニ於テ好ヲ修メ條約ヲ定メ爾後互ニ公使ヲ送り元山仁川ノ二港ヲ開クコトヲ約シ事治マリヌ

(二九九) 西南ノ役ノ顛末如何

西郷隆盛其郷里鹿兒島ニ歸ルヤ舊藩血氣ノ士多ク之ヲ推尊ス隆盛乃チ桐野利秋篠原國幹等ト私學校ヲ起シ壯士ヲ養成シ機ヲ見テ大ニ爲スアラントス明治十年(三二五)二月ニ至リ利秋國幹及ビ私學校ノ生徒等隆盛ヲ擁メ主將トシ政府ニ質ス所アリト稱シ兵一萬五千ヲ率キテ鹿兒島ヲ出デ先ツ熊本城ヲ圍ム時ニ熊本鎮臺ノ兵僅ニ三千陸軍少將谷干城城ニ據リテ死守ス天皇時ニ京都ニ在リ詔シテ隆盛以下ノ官位ヲ褫キ有栖川宮熾仁親王ヲ征討總督トシ陸軍卿山縣有朋陸軍中將黒田清隆海軍大輔河村純義等ヲ參軍トシ之ヲ討タシム賊勢猖獗官軍大ニ苦ム既ニシテ田原坂ノ險陥リ熊本城ノ圍亦解クルニ及ビ隆盛鹿兒島ニ退ク官軍勝ニ乘ジ進ンテ之ヲ城山ニ

圍ム城陥リ九月二十四日隆盛以下自殺シ事平ギヌ之ヲ西南ノ役又ハ十年ノ戰爭トイフ

(三〇〇) 琉球ノ廢藩置縣ノ顛末如何

琉球ハ徳川時代ニ於テ島津氏ノ附庸トシ時々幕府ニ入覲セシガ明治五年(三二五)遂ニ之ヲ藩トシ國王尙泰ヲ藩主トシ華族ニ列セシガ明治十二年(三三九)ニ至リ琉球藩ヲ廢シテ沖繩縣トシ藩主ヲ召シテ東京ニ移住セシメ別ニ縣令ヲ置キ内地同様ノ政ヲ布ク然ルニ琉球ハ明末ノ頃ヨリ支那ニ通ジ常ニ封冊ヲ受ケシヲ以テ清國我が處分ヲ肯ゼザルモ證ヲ舉ゲテ之ヲ辨ジ世界列國亦之ヲ公認セシカバ清國更ニ言ハズ事治マリヌ

(三〇一) 國會開設ノ大詔ヲ發布ニ至リタル次第ヲ述ベヨ

明治元年(二八)三月今上天皇紫宸殿ニ御シ公卿諸侯ヲ率キテ天神地祇ヲ祀リ五事ヲ誓約シ以テ新政ノ方針ヲ定ムコレ實ニ我國立憲政體ノ基礎ヲ開キシナリ明治七年(三二四)ニ至リ參議江藤新平板垣退助後藤象次郎等連署シテ民選議院ヲ設立センコトヲ建白ス天下翕然之ニ和シ世論一時囂々タリ朝議尙其設立ヲ早シトナシ之ヲ納レズ然レモ此年五年地方官會議ヲ

東京ニ開キ以テ民情蔽塞ヲ防ギ翌八年(三五)ニハ元老大審ノ二院ヲ設ケ
 一ハ立法ノ府トシ一ハ上告ヲ斷定スル所トス明治十一年(三五)ニ至リ再
 ビ地方官ヲ會シテ府縣會規則地方稅則等ヲ議定シ翌十二年(三五)府縣會
 ヲ各府縣ニ開キ民撰議員ヲシテ地方政治ニ與ラシム又此頃ヨリ自由民權
 ノ說盛ニ行ハレ社ヲ立テ黨ヲ結ビ速ニ國會ヲ開カンコトヲ唱フ各地ノ有
 志者政府ニ建白シテ其開設ヲ請願スルモノ陸續トシテ出ツルニ至レリ是
 ニ於テ明治十四年(四五)十月十二日天皇遂ニ大詔ヲ下シ明治二十三年(五
 〇)ヲ期シテ國會ヲ開カンコトヲ令シ給フ

(三〇二)政黨ノ嚆矢ヲ述ベヨ

明治十四年(四五)國會開設ノ大詔發セラレルヤ天下志士相團結シテ他日
 議會ヲ開ク準備ヲナサントシ所謂政黨ナルモノヲ形成セリ時ニ自由黨始
 メテ組織セラレ板垣退助其首領トナル參議大隈重信モ亦官ヲ辭シ河野敏
 鎌等ト共ニ改進黨ヲ立ツ其他丸山作樂福地源一郎ノ立憲帝政黨アリ互ニ
 其主義ヲ主張シ論難攻撃政界益々多事ナラントス

(三〇三)明治十五年ノ朝鮮ノ變トハ如何

當時朝鮮ニハ獨立(金玉均)事大(大院君)ノ二黨アリ獨立黨ハ改進黨主義ヲ執リ
 我國ニ依頼セント欲シ事大黨ハ守舊主義ヲ執リ清國ニ依頼セント欲セリ
 カクテ兩黨互ニ相爭ヒシカ明治十五年(四五)ニ至リ會々其兵士ノ不平ア
 ルニ乘ジ大院君陰ニ之ヲ煽動セシカバ兵士等暴發シテ王宮ヲ犯シ轉ジテ
 我公使館ヲ襲フ辨理公使花房義質其部下二十八人ト圍テ衝イテ王宮ニ赴
 ク門閉テテ入ル能ハズ乃チ仁川ニ走リ更ニ濟物浦ニ抵リ英艦ニ投ジテ長
 崎ニ達ス朝廷乃チ義質ヲシテ海軍ヲ率キテ再ビ京城ニ到ラシメ其罪ヲ問
 フ韓廷大ニ懼レテ償金五十萬圓ヲ出シ且其巨魁ヲ罰シテ罪ヲ謝ス我ガ政
 府四十萬圓ヲ還シ改新ノ費ニ充ツ萬國其義ヲ賞セザルナシ

(三〇四)天津條約締結ノ始末ヲ問フ

明治十五年(四五)朝鮮ノ變後朝鮮ノ我公使館ニ衛兵ヲ置キ不虞ニ備ヘシ
 カ清國モ亦兵ヲ屯在セシム朝鮮ニハ今尙獨立事大ノ兩黨ノ爭ヒ絶エズ明
 治十七年(四五)十二月ニ至リ獨立黨ノ首領金玉均朴泳孝等事大黨ノ大臣
 閔泳翊等ヲ殺シ國政ヲ改革セントス時ニ我公使竹添進一郎國王ノ請ニヨ
 リ兵ヲ率キテ王城ヲ衛ル會々清兵事大黨ヲ助ケ我公使館ヲ襲フ公使等難

ヲ仁川ニ避ケ金玉均朴泳孝等我國ニ逃レ來ル朝廷乃チ外務卿井上馨ヲ遣
ハシテ罪ヲ乞ハシム朝鮮大ニ懼レテ我が要求ヲ容レ償金ヲ出シ暴徒ヲ刑
シテ其罪ヲ謝ス翌十八年(四五)參議伊藤博文ヲ清國ニ遣ハシ李鴻章ト天
津ニ會セシメ日清兩國互ニ朝鮮ノ駐兵ヲ撤去シ且ツ將來出兵ノ要アル時
ハ豫メ互ニ相通ズルコトヲ約ス是ニ於テ事漸ク治マル之ヲ天津條約トイ
フ

(三〇五) 明治十八年官制大改革ノ大要ヲ叙セヨ

明治十八年(四五)伊藤博文等歐洲諸國ノ官制ヲ參酌シテ大ニ改革ヲ行フ
乃チ太政大臣左右大臣以下ヲ廢シ内閣總理大臣ヲ置キ又宮内外務内務大
藏陸軍海軍司法文部農商務遞信ノ十省ヲ設ケ宮内ヲ除クノ外各省ノ大臣
ハ總理大臣ト共ニ内閣ヲ組織ス又別ニ内大臣顧問官ヲ宮中ニ置キ法制局
ヲ設ケ勅令閣令省令縣令等ノ制ヲ立ツ次テ樞密院ヲ設ケテ天皇ノ諮詢ニ
備フ又市町村制ヲ布キテ地方自治ノ制ノ基ヲ開ケリ是レ其改革ノ大要ナ
リトス

(三〇六) 憲法發布ノ大典執行ノ次第ヲ叙セヨ

初メ國會開設ノ詔ヲ下シ給フヤ憲法ノ制定最モ急務ナルヲ以テ明治十五
年(四五)伊藤博文ヲ歐洲ニ遣ハシ大ニ調査セシムル所アリ歸朝後制度取
調局ヲ設ケ憲法ノ制度ニ從事セシム是ニ至リテ成ル乃チ明治二十二年
(四九)二月十一日紀元節ヲトシテ大日本帝國憲法發布ノ大典ヲ舉ゲラル
此日天皇親ヲ賢所ヲ祀リテ皇祖ノ御靈ニ其由ヲ告ゲ次テ皇后ト共ニ式場
ニ出御アリ大詔ヲ文武百官ニ賜フ又皇室典範ヲ定メ議院法議員選舉法貴
族院令等ヲ發布シ勅シテ大赦ヲ行ヒ岩倉具視以下維新ノ功臣ノ墓ニ告グ
又八十歳以上ノ男女ニ金ヲ賜フ是レ實ニ空前ノ盛事ニシテ豊明殿上祥氣
靄々タルハ更ニ論ナク皇德ノ盛隆ヲ仰ギ萬歳謳唱ノ歡聲ハ全國到ル處ニ
湧クガ如ク敢テ諸外國ノ如キ干戈殺戮ノ不祥ハ夢想ダニ見ズシテ此寶典
ヲ得タル亦實ニ國體ノ神聖無比ナル所以ナリ

(三〇七) 憲法ノ大綱如何

抑モ大日本帝國憲法ハ七章七十六章ヨリ成リ第一章ハ天皇ノ大權第二章
ハ臣民ノ權利義務第三章ハ帝國議會ノ性質權限第四章ハ國務大臣及ビ樞
密顧問ノ職責第五章ハ司法權第六章ハ會計ノ規定第七章ハ補則ナリトス

(三〇八) 嘉仁親王儲嗣ニ立テ給ヒシ年月如何
明治二十二年(四九)十一月天皇皇子嘉仁親仁ヲ立テ、皇太子トナシ給ヘリ時ニ御年

(三〇九) 帝國議會ノ開會ヲ叙セヨ

明治二十三年(五〇)七月各地方平和ニ衆議院議員ヲ選舉シ政府ニハ元老院ヲ廢シテ貴族院議員ヲ任命シ十一月二十五日詔シテ帝國議會ヲ東京ニ召集ス二十九日天皇親臨開院ノ式ヲ舉グ伯爵伊藤博文又貴族院議長トナリ中島信行衆議院議長トナリ諸案ヲ討議ス之ヲ第一議會トス是ニ於テ我國ハ堂々タル東洋唯一ノ立憲政體ノ國トハナリヌ

(三一〇) 日清戰爭ノ發端ヨリ宣戰大詔公布ニ至ル迄ヲ記述セヨ

朝鮮ニ東學黨トイフ者アリ政府ノ苛政ニ苦ミ宰臣閔氏ノ權ヲ弄シ綱紀從テ弛廢スルヲ憤怒シ遂ニ明治二十七年(五四)五月ニ至リ亂ヲ起ス又兼テ政府ヲ怨望スル者多ク之ニ應ジ其勢猖獗政府之ヲ鎮定スル能ハズ是ヨリ先清國公使袁世凱久シク駐韓シ王妃及ビ閔族ト結托シテ其政治ニ干涉セシカハ是ニ至リ閔泳駿袁世凱ト謀リ援ヲ清國ニ請フ清國直ニ兵ヲ朝鮮牙

山ニ出シテ我國ニ其旨ヲ通ジテ曰ク「屬邦ニ暴徒アリ之ヲ討平セン」ト是ニ於テ我國モ其不法ヲ憤リ天津條約ニ基キ先ツ大島圭介ヲ入韓セシメ次テ混成旅團ヲ編成シ陸軍少將大島義昌ヲシテ之ヲ率キテ發セシメ更ニ清國ト協同シテ朝鮮ヲ改善センコトヲ求ム清國聽カズ袁世凱等切リニ我が撤兵ヲ求ム是ニ於テ我政府ハ獨力ヲ以テ朝鮮ヲシテ獨立國ノ體面ヲ全フセシメント欲シ乃チ又圭介ヲシテ韓廷ニ建議セシム韓廷尙躊躇シテ答ヘズ圭介依テ國王ニ謁シ具ニ狀ヲ奏ス國王大ニ悅ビ我ニ托スルニ清兵ノ斥攘ヲ以テス會々清國大兵ヲ發シテ牙山ノ兵ニ加ハラシメントス我軍艦之ト豊島附近ニ會ス清艦先ツ發砲シテ戰ヲ挑ム我艦何ゾ躊躇ヘン直ニ之ニ應ジテ敵艦高陴號ヲ沈メ且ツ操江號ヲ捕獲ス時ニ七月二十五日ナリキ時ニ在韓ノ陸軍モ亦韓廷ノ依頼ニ因リテ成歡及ビ牙山ノ清兵ヲ擊攘ス松崎大尉ノ戰死モ亦實ニ此時ニアリキ是ニ於テ天皇遂ニ平和ヲ克復セント欲シ已ムナクシテ八月一日ニ到リ遂ニ宣戰ノ大詔ヲ發シ大本營ヲ東京ニ設ケラレタリ

(三一) 日清兩軍ノ戰記ノ概略ヲ舉ゲヨ

宣戰詔勅ノ公布セララル、ヤ直ニ第一軍ヲ編成シ第五師團長陸軍中將野津道貫ヲノ之ヲ率キ赴キ討タシム道貫朝鮮ニ渡リ混成旅團ト兵ヲ合シ進シテ九月十五日清兵ヲ平壤ニ圍ミ四面合擊直ニ之ヲ陷ル同月十七日海軍中將伊東祐亨我ガ艦隊ヲ率キテ海軍司令官樺山資紀ト共ニ清艦ノ大軍ヲ黃海ノ海洋島附近ニ邀撃シ大ニ勝ヲ制セリ平壤陷落後第一軍ハ益々北進シ十月ノ末遂ニ鴨綠江ヲ渡リテ清國ニ入り九連城鳳凰城等ヲ陷ル岫巖析木ヨリ海城牛莊ヲ取ル滿州ノ一帶靡然トシテ皆降服セリ是ヨリ先キ九月十三日大本營ヲ廣島ニ進メ大元帥陛下親臨ス是ニ於テ更ニ第二軍ヲ編成シ陸軍大將大山巖ヲシテ之ニ將タラシム第一軍ハ朝鮮ヨリ清國ニ進ミシガ第二軍ハ金州半島ニ上陸ス十二月廿一日旅順ノ堅塞ヲ拔キ進シテ復州蓋平ヲ陷ル遼東是ニ於テ全ク我手ニ歸ス次デ山東省ヲ畧シ更ニ軍ヲ分テテ威海衛ニ向ハシム清艦灣内ニ潛ミ出テ來ラズ是ニ於テ海陸夾擊シ明治二十八年(五五)二月二日遂ニ之ヲ陷レ彼ノ北洋艦隊將ニ全滅セントス水師提督丁汝昌終ニ事ノ爲スベカラザルヲ察シ悉ク兵器軍艦ヲ收メ降ヲ乞フ我軍之ヲ許ス是ニ於テ渤海ノ關門ハ我有ニ歸シ一舉シテ將ニ北京ヲ衝

カントス會々參謀總長熾仁親王薨ズ因テ彰仁親王ヲ大總督トシ府ヲ旅順ニ移セリ

(三二二) 日清戰爭ノ終結如何

開戰以來我軍陸ニ海ニ連戰連勝向フ所敵ナカリシカバ全清震駭シ遂ニ明治二十八年(五五)一月張蔭桓等ヲシテ和ヲ計ラシム成ラズシテ還ル因テ三月直隸總督李鴻章媾和使トナリ李經芳等ト共ニ下ノ關ニ來リヌ我ガ總理大臣伊藤博文外務大臣陸奧宗光使命ヲ奉ツテ談判數回ニシテ商議遂ニ決シテ二十八年(五五)四月十七日ヲ以テ媾和條約ノ調印ヲ完了ス是ニ由テ清國ハ朝鮮ノ獨立ヲ確認シ遼東半島臺灣及ビ澎湖列島ヲ割讓シ償金二億兩ヲ拂フコトヲ約ス之ヲ下ノ關係約ト云フ此後露佛獨ノ三國同盟シテ我ニ忠告スル所アリシカバ遼東半島ヲ清國ニ還附シテ更ニ償金三千萬兩ヲ出サシム茲ニ兩國ノ和成リヌ

(三二三) 臺灣鎮定ノ次第ヲ叙セヨ

明治二十八年(五五)三月陸軍歩兵大佐比志島義輝混成枝隊ヲ率キ先ヅ澎湖島ヲ略セシガ四月ニ至リ和議成リ臺灣モ我ガ版圖ニ入りヌ朝廷乃チ總

督府ヲ臺灣ニ置キ海軍大將樺山資紀ヲ總督トシ其地ヲ鎮撫セシム時ニ清
留將劉永福愚民ヲ煽動シテ兵ヲ舉ゲ土匪亦諸方ニ起リテ亂ヲナス因テ
近衛師團及ビ第二師團ノ兵ヲ發シテ之ヲ討平セシム十一月ニ至リ全島悉
ク鎮定ス此役ヤ夏期ニ際シ炎熱熾クガ如ク惡疫流行シテ死スルモノ多カ
リキ中ニモ近衛師團長能久親王亦病ニ罹リ遂ニ薨ズ上下哀悼セザルハナ
シ臺灣神社ハ即チ其祀ル所ナリ

新撰帝國歷史問答 終

146
620

明治三十四年十月十九日印刷
明治三十四年十月十九日發行

東京日本橋區大傳馬町二丁目廿二番地

發行所 長島恭三郎

東京橋區三十間堀三丁目十番地

印刷者 中村政吉

右印刷所 報文社

發行所 長島文昌堂